DTC 故障診断コード参照ガイド

取扱説明書

Edition B

前書き

DTC 故障診断コード参照ガイドは、整備工が診断システム OBD の搭載車に発生する種々の問題や故障を、迅速かつ効果的に焦点を合わせ修理するためのものです。
このガイドは、インパルス・カウンター・スキャナーを用いて数多くの OBD システムのメモリから DTC 故障診断コードを取り出し、識別し、さらに消去するための的確な指示を提供するものです。HHT テスターを用いての診断については、テスト取扱説明書および診断取扱説明書を参照してください。

DTC 故障診断コード参照ガイドはシステム診断のヘルプガイドのようなものであり、トラブル・シューティングを行われる場合には、現存の技術解説書である診断取扱説明書と併用して下さい。このために、各々のセクションには参照をお薦めする特殊技術解説書を併記しています。

この DTC 故障診断コード参照ガイドは 1993 年型に適用する SAE 術語および略語を用いています。
SAE 術語に関しての詳細は S.I.MBNA99／131 をご覧ください。

1993 年 11 月

07.1 Diesel Injection system
ELR Electronic Idle speed control
EDS Electronic diesel system

Engine 602.911
1989 Model 201.126.....6

Engine 602.962
1990-91 Model 124.128.....7
1992-93 Model 124.128.....9

Engine 603.96
1986-87 Models 124.133/193, 126.125.....11

Engine 603.97
1990-91 Models 126.134/135.....13
1992-93 Model 140.134.....15

07.3 CFI Continuous fuel Injection system
ESCM Engine systems control Module(MAS)

Engine 102.985
1987 Model 201.028.....17
1988 Model 201.028(Calif.).....19
1991-93 Model 201.028.....21

Engine 103
1987 Models 124.201.....23
1988-89 Models 124,126,201(Calif.)...25
1988-89 Models 124,126,201(Fed.) 27
1990-93 Models 124,126,201.....28

Engine 104.98
1990-93 Models 124.051,129.061.....34
1988-89 Models 107.048,126.035/039/045 (Calif.).....41
1990-91 Models 126.035/039/045.....42
1988-91 Models 107.048,125.035/039/045 (Calif.).....43

Engine 199.96
1990-92 Model 129.066.....45

07.4 LH-SFI LH sequential multiport fuel injection systme
BM Base module
DM Diagnostic module

Engine 104.99
1992-93 Model 140.032.....52

Engine 119.97
1992-93 Models 124.034/036,140.042/043/051,129.067 60

Engine 120.98
1992-93 Models 140.057/076 68

07.5 HFM-SFI HFM sequential multiport fuel injection/ignitio system
DM Diagnostic module

Engine 104.942/992
1993 Models 124.028/032/052/092 77

15 DI Distributor iginition

Enigne 104
1990-93 Models 124.051,129.061 82
1992-93 Model 140.032.....84

Engine 119
1990-92 Model 129.066.....86
1992-92 Models 124.034/036, 129.067, 140.042/043/051/070 88

Engine 120
1992-93 Model 129.076, 140.057/076 90

27 ETC Electronic automatic transmission control

1990-93 Model 129.061.....92
1990-93 Model 140.032.....93

28 4MATIC Automatic-engaging four wheel drive

1990-93 Model 124.230/290.....94

30 EA/CC/ISC Electronic accelerator/ cruise control/ idle speed control

Engine 104.99
1992-93 Model 140.032(w/o ASR).....96
1992-93 Model 140.032(w/ ASR) 97

Engine 104.042/002
1993 Models 124.028/032,124.052/092 (w/o ASR) 98
1993 Models 124.028/032,124.052/092 (w/ ASR) 99

Engine 119.97
1992-93 Models 124.034,140.042/043 (w/o ASR) 100
1992-93 Models 124.034/036,140.042/043/051/070(w/ ASR) ..101

Engine 120
1992-93 Models 140.057/076 (w/ ASR).....103

32 ADS Adaptive damping system

1992-93 Models 129.061/066, 129.067/076 104
1992-93 Model 140.....106

35 ASD Automatic locking differential

1991-93 Models 124.128,126.134/135,129.061 140.134,201.028 108

42 ABS Anti-lock brake system
ASR Acceleratio slip regulation

ABS only
1992-93 Models 140.032/042/043/134 109

ABS/ASR
1992-93 Models 124.034/036,140.032/042/043/051/057/070/075..... 111

46 SPS Speed-sensitive power steering

1992-93 Model 140.....113

77 CST,RB Cabriolet soft top,roll bar
RST,RB Roadster soft top,roll bar

SCT,RB
1993 Model 124.066.....115

RST,RB
1990-93 Model 129.....118

80 IRCL Infrared remote control for central locking system
PSE Pneumatic system equipment

IRCL
1990-93 Model 129 121
1992-93 Model 140 123

PSE
1992-93 Model 140 125

82 ATA Anti-theft alarm system
CT Cellular telephone
CF Convenience feature
Radio

ATA
1990-93 Model 129 127
1992-93 Model 140 129

CT
1992-93 Models 129,140.....130

CF
1992-93 Model 140 131

Radio
1991-93 Models 124,126,129.....134

83 A/C Air conditioning

1987 Model 201 135
1988-93 Model 201 136
1992-93 Models 124.034/036.....138
1988-93 Models 124[1)],126.....141
1990-03 Model 129 143
1992-03 Model 140 146
[1)] except 124.034/036

91 SRS Supplemental restraint system

1988-89 Model 107.048 153
1988 Model 124,126 155
1988-93 Model 201 157
1989-93 Model 124 159
1989-91 Model 126 161
1990-93 Model 129 163
1990-93 Model 140..... 165

はじめに

この参照ガイドは、既存の技術解説書をもとに編集されました。テスト行程の精確な情報を特定の行程に必要なテクニカルデータとともに提供するための特別な配慮がなされています。

北米メルセデス･ベンツ株式会社は､権威ある MB ディーラーのもとでしかるべく訓練を受けた MB 整備員が MB 車の修理と整備にあたるよう、お勧めしています。

この特別版に掲載された情報は、MB のもとで権威づけられた MB 傘下にあるディーラーにのみ渡されている整備取扱説明書、整備解説補完、特殊機器、器具等とともに北米 MB によって外部に提供されています。ここに紹介している修理整備手順と行程は MB のもとで訓練を受けた代理整備員のみが利用することを企図しています。整備補完書はこの特別版には掲載されていませんが、このガイドの複写版には含まれることもあります。このガイドに提供されている情報が MB のコンポーネント･グループ･システムによって編纂されているからです。

特定の整備に必要な特殊ツールは、参照ガイドを参考にしていただくようお勧めします。
この場合、部品のどの番号も、各々のコンポーネント間の相違と、それに基づく識別のためにつけられているのであって、注文番号ではありません。
この参照ガイドにあるすべての行程、図、および仕様はガイド B 版出版時における最新の情報に基づいています。生産、デザイン、仕様に関してはいかなる時点においても、告示なく訂正変更される場合その権限は当社にあります。また、この参照ガイドにはそのような変更が掲載されることはありません。

注意

適切な整備と修理は、整備工自身の安全と、車輌の安全で効果的な運転にはともに必要なものです。整備に誤った行程をとったり、不適切なツールを使用すれば、人的事故を増大し、運転の安全性を損ないます。整備の安全性と正確性を願ってこの参照ガイドは編纂されました。

DTC readout(ELR)
Model Year 1989
Model 201.126

インパルス･カウンター試験

インパルス･カウンターの数値領域は 1 から 6 までにわたります。
1 番は、システムに欠陥が皆無であることを表します。その他の各々の番号は、問題あるいは故障が、示されている特定部にあることを表します。
１．接続図に従って、インパルス･カウンターを接続してください。
注：この際、ディスプレイに LED “U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、このページ記載の参照資料を参考にして下さい。
２．エンジンはアイドリング状態。
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．表示されている故障コードを注意して読み取ってください。
表示数値１は、故障問題情報がメモリにないこと、１より大きい数値はシステムに異常があることを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。
システムにさらに問題あるいは故障がなければ、前に表示された数値が再び現れます。もし追加の欠陥があれば、各々の故障コードが表示されます。
６．最初に表示された数値が繰り返されるまで、上記のステップ５を繰り返してください。
７．故障コードから追加の問題がないか注意してください。
８．故障コードに示された故障問題のすべてを故障コード表および診断試験の行程を通してクリアしてください。
故障問題メモリ除去
欠陥はメモリに記憶されません。
したがって、除去行程は不必要です。

参照：1989 年型取扱説明書初歩、車種 107.124.126.201
グループ 07.1、ELR テスト、マイクロフィッチ整備
エンジン 601,602.91,603.91 燃焼Ｉ、グループ 07.1、整備 07.1-105

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム異常なし
2	リング･ギア速度センサ(L3)
3	冷却温センサ(B11/1)
6	ELR 制御ユニット(N8)あるいはアイドリング速度制御システム

DTC readout(EDS)
Model Year 1990－1991
Model　124.128

試験条件

・冷却温度 60～80℃
・自動温湿制御 OFF
・選択レバー駐車位置

インパルス･カウンター試験

１．接続図に従って、インパルス･カウンターを接続してください。
注：この際、ディスプレイに LED “U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、このページ記載の参照資料を参考にして下さい。
２．エンジンはアイドリング状態。
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．表示されている故障コードを注意して読み取ってください。
表示数値１は、故障問題情報がメモリにないこと、１より大きい数値はシステムに異常があることを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。
システムにさらに問題あるいは故障がなければ、前に表示された数値が再び現れます。もし追加の欠陥があれば、各々の故障コードが表示されます。
６．最初に表示された数値が繰り返されるまで、上記のステップ５を繰り返してください。
７．エンジンを少なくとも 5 秒間 900rpm に上げてください。900rpm のエンジン速度を維持して、もう一度 2 秒から 4 秒間始動ボタンを押してください。
８．故障コードに示された故障問題のすべてを故障コード表および診断試験の行程を通してクリアしてください。
９．各々のコンポーネントの試験を行ってください。
故障問題メモリ除去
問題あるいは故障除去の後、各々の故障コードは下記のようにクリアしてください。
10.　始動ボタンを押して故障コードを読み取った上でさらに同ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：表示された各々の故障コードはそれぞれ別々に消去してください。

参照：1990/91 型取扱説明書初歩、車種 124.1,126.1　ターボ･ディーゼル
グループ 07.1、EDS テスト、マイクロフィッチ整備
エンジン 602.96,603.96/97　ターボ、燃焼Ⅱ、グループ 07.1、整備 07.1-190 F

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1 [1)]	システム内に欠陥皆無
2	燃料ラック位置センサ(L7)
3	吸気流センサ(B2/1)
4	EDS 制御ユニット(N39)、気圧センサ
5 [2)]	EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1) あるいは、EGR 制御回路に問題
6	EDS 制御ユニット(N39)、内部電圧供給
7	スタータ･リング･ギア速度センサ(L3)
8	冷却温度センサ(B11/4)
9	吸気温センサ(B2/1a)
10	未使用
11 [3)]	電子アイドリング速度制御アクチュエータ(Y22) あるいは、EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1)
12	未使用
13	EDS 制御ユニット(N39)に欠陥(内部欠陥メモリ)
14	EDS 圧力センサ(B5/1)に欠陥
15	吸気マニフォルド圧制御バルブ真空トランスデューサー(Y31/2)、 ウェイスト･ゲイト真空トランスデューサー(Y31/3)、 あるいは、吸気マニフォルド圧回路

1) それにもかかわらず、問題解決に至らなければ電子アイドリング速度制御、EGR および P2 制御、２の各々の機能試験を行ってください。
2) 少なくとも 5 秒間 900rpm を超えた場合にのみ表示。
3) 短絡がある場合にのみ表示。

DTC readout(EDS)
Model Year 1992ー1993
Model 124.128

試験条件

・冷却温度 60～80°C
・A/C OFF
・選択レバー駐車位置
・超過電圧防止リレー･ヒューズはインタクト

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．接続図に従って、インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際、ディスプレイに LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、このページ記載の参照資料を参考にして下さい。
２．エンジンはアイドリング状態。
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．表示されている故障コードを注意して読み取ってください。
表示数値１は、故障問題情報がメモリにないこと、１より大きい数値はシステムに異常があることを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。
システムにさらに問題あるいは故障がなければ、前に表示された数値が再び現れます。もし追加の欠陥があれば、各々の故障コードが表示されます。
６．最初に表示された数値が繰り返されるまで、上記のステップ５を繰り返してください。
７．故障コードに表示された問題を、トラブル･シューティング表にしたがって除去してください。
８．各々のコンポーネントの試験を行ってください。

DTC メモリ消去

問題あるいは故障除去の後、各々の故障コードは下記のようにクリアしてください。
９． 始動ボタンを押して故障コードを読み取った上でさらに同ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：表示された各々の故障コードはそれぞれ別々に消去してください。

参照：1992 型取扱説明書初歩、車種 124,129,201
グループ 07.1、EDS テスト、マイクロフィッチ整備
エンジン 602.96,603.96/97 ターボ、燃焼Ⅱ、グループ 07.1、整備 07.1-190 F

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1 [1)]	システム内に欠陥皆無
2	燃料ラック位置センサ(L7)
3	吸気流センサ(B2/1)
4	EDS 制御ユニット(N39)、気圧センサ
5	EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1) あるいは、EGR コントロール配線に問題
6	EDS コントロール･モジュール(N39)、内部電圧供給
7	スタータ･リング･ギア速度センサ(L3)
8	エンジン冷却材温度センサ(B11/4)
9	吸気温センサ(B2/1a)
10	電圧供給
11 [2)]	アイドリング速度コントローラー(Y22) あるいは、EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1)
12	未使用
13	EDS コントロール･モジュール(N39)に欠陥(内部メモリ)
14	EDS 圧力センサ(B5/1)に欠陥
15	圧力増大コントロール/圧力コントロール･フラップ真空トランスデューサー(Y31/5)、あるいは、圧力増大コントロール配線に欠陥

1) 上記各必要項目を試験して、さらに欠陥があればアイドリング速度コントロール、EGR および P2 コントロールの各機能試験を試みてください。

2) 短絡がある場合にのみ表示。

DTC readout(EDS)
Model Year 1986－1987
Model 124.133 126.125
124.193

試験条件

・冷却温度 60～80℃
・自動温湿コントロール OFF
・選択レバー駐車位置
・超過電圧防止リレー･ヒューズには触れない
ON-OFF 率テスターによる私権
注：この試験を行うときは、吸気流センサ(B2/1)とターボ･チャージャ間の吸気管は接続してください。接続されていないと、排気ガス再循環(EGR)と吸気再循環を統轄する EDS コントロール･ユニット（N39）に信号発信がありません。

１．接続図に従って、ON-OFF 率テスターを接続し、ＩＲボタンをフルに(100%)押してください。
２．エンジンはアイドリング状態。
注：プラグ(a)をほぼ 1 秒車輌グランドに接続し、テスター機能をチェックしてください。この際、指針が 100%振動した後 0%に戻らなければなりません。
システムに無欠陥＝指針約 0%
システムに欠陥が存在すれば＝指針約 100%
３．システム診断信号発信：車輌グランドに約 1 秒プラグ(a)を接続する。グランドからプラグ(a)を接続する。グランドからプラグ(a)を除去すれば ON-OFF 率テスターの指針は 0%に振れ、その定間隔をおいて振動し始めます。各々の振動回数を数えてください。もし、システムに欠陥があれば指針は再び 100%に振れます。
注：振動回数の数え方：1 振動＝0%-100%-0%
４．エンジンを最小 5 秒間 1,200rpm に上げてください。この速度を維持しつつ、再度車輌グランドに約 1 秒(a)プラグを接続してください。テスターの振動回数を記録してください。
５．振動回数がどの電気ポンポーネントに欠陥があるかを示します。ON-OFF 率試験において機能しない欠陥点をすべて記録してください。
６．故障発見表と診断試験に沿って、すべての記録に留めた諸欠陥を除去してください。
７．諸欠陥除去の後、システムにそれ以上の欠陥問題が存在しないことを実証するために、２、３および４のステップを繰り返してください。

参照：1986 型取扱説明書初歩、車種 126.125 用エンジン 603.961、グループ 07.1、EDS テスト
1987 型取扱説明書初歩、車種 124.133,124.193、グループ 07.1、EDS テスト
マイクロフィッチ整備
エンジン 602.96,603.96/97　ターボ、燃焼Ⅱ、グループ 07.1、整備 07.1-190 F

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1x	rpm センサ(L3)
2x	燃料ラック位置センサ(L7)
3x	吸気流センサ(B2/1)、電気系統に欠陥
4x	高度修正カプセル(B18)
5x[1)]	EGR 配線-電気および機械系統に欠陥 a.EGR バルブ(60) b.真空トランスデューサー(Y31/1) c.吸気流センサ(B2/1) d.吸気再循環バルブ(137b) e.真空トランスデューサー(Y31)あるいはベント・ライン(空気抜き内部周囲)フィルターの目詰まり(62a)
8x	冷却剤温度センサ(B11/4)
9x	吸気流センサ内の吸気温度センサ(B2/1a)
10x	参照レジスタ(R18/2)、EGR
11x	トリミング・プラグ(R18/2)、EGR

[1)] 最小 5 秒間 1，200rpm においてのみ指示有り。それ以外は指示なし。

DTC readout(EDS)
Model Year 1990－1991
Model 126.134
126.135

試験条件

・冷却温度 60～80°C
・自動温湿コントロール OFF
・選択レバー駐車位置
・超過電圧保護リレー･ヒューズには触れない

インパルス･カウンター試験

警告
インパルス･カウンター使用前あるいは使用中は、バッテリ、過電圧保護リレーあるいは EDS 制御ユニット(N39)の接続を外さないでください。記憶された欠陥情報がすべてメモリから消えてしまうからです。

１．接続図に従って、ON-OFF 率テスターを接続し、ＩＲボタンをフルに(100%)押してください。
注：この際、LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、詳細試験個所に関しては、下記の参照を参考にして下さい。
２．エンジンはアイドリング状態。
３．始動ボダンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーン上の故障コードを読み取り、メモしてください。その際、指示“１”はいかなる欠陥も記憶されていないことを意味します。“１”より大きい数値はシステムに何らかの欠陥があることを意味します。
５．再度 2 秒から 4 秒始動ボタンを押してください。もしそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーン上に示された数値が再度現れます。さらにもし欠陥が存在すれば、各々の欠陥に応じたコードが指示されます。
６．最初スクリーンに示された数値が現れるまで、ステップ５を繰り返してください。
７．約 5 秒エンジンを 900rpm で運転してください。この回転速度を維持しつつ再度 2 秒から 4 秒始動ボタンを押してください。
８．故障コードが示すすべての欠陥を注意し、メモしてください。
９．故障問題処理表と診断試験に従い、すべての顕著な欠陥を除去してください。
10．始動を押し、消去した欠陥を読み取ってください。その後 6 秒から 8 秒始動ボタンを押してください。

参照：1990/91 型取扱説明書初歩、車種 124.1,126.1　ターボ･ディーゼル、グループ 07.1、EDS テスト
マイクロフィッチ整備
エンジン 602.96,603.96/97　ターボ、燃焼Ⅱ、グループ 07.1、整備 07.1-190 F

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1 [1)]	システムに欠陥皆無
2	燃料ラック位置センサ(L7)
3	吸気流センサ(B2/1)
4	EDS コントロール･ユニット(N39)、気圧センサ
5 [2)]	EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1) あるいは、EGR 制御回路に機能不全
6	EDS コントロール･ユニット(N39)、内部電圧供給
7	始動リング･ギア速度センサ(L3)
8	冷却温センサ(B11/4)
9	吸気温センサ(B2/1a)
10	電圧供給
11 [3)]	電子アイドリング速度制御アクチュエータ あるいは、EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1)
12	未使用
13	EDS コントロール･ユニット(N39)に欠陥(内部メモリ)
14	EDS 気圧センサ(B5/1)に欠陥
15	マニフォウルド空気圧制御バルブ真空トランスデューサー(Y31/2)、 ウェイストゲイト真空トランスデューサー(Y31/3) あるいは、マニフォウルド吸気圧制御回路に欠陥

1) さらに問題処理できなければ、電子アイドリング速度制御、EGR および P-2 コントロールの機能試験を行ってください。
2) 少なくとも 5 秒間 900rpm を超えたときにのみ、スクリーンに指示があります。この機能不全は記憶されません。
3) 短絡があるときにのみ指示。

DTC readout(EDS)
Model Year 1992ー1993
Model　140.134

試験条件

・冷却温度 60～80°C
・A/C OFF
・選択レバー駐車位置
・超過電圧保護リレー・ヒューズには触れない

インパルス・カウンター・スキャン・ツールによる試験

警告
インパルス・カウンター・スキャン・ツールを用いる前、あるいは使用中はバッテリを外したり、ベイス・モデュール(N16/1)あるいは、EDS 制御モデュールを断接しないでください。記憶された DTC 情報がメモリから消えてしまうからです。

１．接続図に従って、インパルス・カウンター・スキャン・ツールを接続してください。
注：この際、LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、詳細試験個所に関しては、下記の参照を参考にして下さい。
２．エンジンはアイドリング状態 1)
３．始動ボダンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーン上の故障コードを読み取り、メモしてください。その際、指示“ １ ”はいかなる欠陥も記憶されていないことを意味します。“ １ ”より大きい数値はシステムに何らかの欠陥があることを意味します。
５．再度 2 秒から 4 秒始動ボタンを押してください。もしそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーン上に示された数値が再度現れます。さらにもし欠陥が存在すれば、各々の欠陥に応じたコードが指示されます。
６．最初スクリーンに示された数値が現れるまで、ステップ５を繰り返してください。
７．メモしておいた欠陥を、故障問題探索表にしたがって、各々片付けてください。
８．さらに追加的なすべての欠陥を注意し、メモしてください。
９．メモしてあるすべての欠陥を故障問題探索表と診断試験に沿ってひとつひとつ解決してください。
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して、削除された欠陥を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：スクリーン上に指示される、各々の DTC 情報は個別に、ひとつひとつ除去してください。

1) インパルス・カウンター・スキャン・ツールを点火 ON でエンジンをかけない状態で DTC メモリを読み取ると、DTC 指示“ ７ ”(スタータ・リング・ギア速度、あるいは、RPM センサ-L3)が現れます。

参照：1992 型取扱説明書初歩、車種 140　グループ 07.1、EDS テスト

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1 [1)]	システムに欠陥皆無
2	燃料ラック位置センサ(L7)
3	吸気流センサ(B2/1)
4	EDS 制御モデュール(N39)、気圧センサ
5	EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1) あるいは、EGR 制御回路に欠陥
6	EDS 制御モデュール(N39)、内部電圧供給
7	始動リング･ギア速度センサ(L3)
8	冷却温センサ(B11/4)
9	吸気温センサ(B2/1a)
10	電圧供給
11 [2)]	電子アイドリング速度制御アクチュエータ(Y22)、ブースト圧停止切替えバルブ(Y31/6)あるいは、EGR バルブ真空トランスデューサー(Y31/1)
12	未使用
13	EDS 制御モデュール(N39)に欠陥(内部メモリ)
14	EDS 気圧センサ(B5/1)に欠陥
15	ブースト圧制御真空トランスデューサー(Y31/4)に欠陥か あるいは、ブースト制御回路に欠陥

1) 問題が残れば、電子アイドリング速度制御および EGR 制御の機能試験を行ってください。
2) 短絡が存在するときにのみ指示されます。

On-off ratio test(CIS-E)
Model Year 1987
Model 201.028

ON-OFF 率テスターによる試験

CIS-E 給油システムの種々のコンポーネントが CIS-E 制御ユニットのマイクロプロセッサで点検できます。故障コードは診断ソケットのラムダ計測回路を経由し ON-OFF 率テスターに示されます。一定した(動かない)ON-OFF 率は欠陥がどこかに潜在することを示します。以下の表は一定した ON-OFF 率、欠陥原因、それにその各々のケースに用いられる試験点検を相関的に示しています。

試験状況条件

・エンジンはアイドリング
・冷却温　60～80℃
・温湿制御　OFF
・選択レバー駐車位置
・過電圧保護リレー・ヒューズ触れず
ON-OFF 率テスターを診断ソケット(X11)に接続してください。

参照：マイクロフィッチェ整備、エンジン 102、燃焼IIIb、グループ 07.3
整備 07.3-121“ F ”セクション“ g) ”、診断取扱説明書第 2 巻
ガソリン・エンジン、エンジン 102、テスト GE-04.00、
1987 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126,201
グループ 07.3、エンジン 102.985、“ B ”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因	行使される試験
0%	・CIS-E 制御ユニット(N3)に電圧がかかっていないかあるいは、ユニット自体に欠陥 ・診断ソケットへの回路(X11)、端子 3、オープンかあるいは ON-OFF 率テスター(012)に欠陥 ・混合気過濃　02 センサ信号電圧＋12 ボルト	電圧供給、グラウンド接続、および診断ソケットへの配線をチェックする。 ON-OFF 率テスター(012)をチェックする。 02 センサ信号をチェック。
10%	・吸気流センサ位置指示器(B2)に欠陥かあるいは電極変換 ・アイドリング速度約 2,000rpm、スロットルバルブスイッチ(S29/2)のプラグ配線が正しく接続されていないか、あるいは短絡(エンジンが最大負荷に達する以前に最大負荷コンタクトが閉じた状態)	B2 信号および配線をチェック。 配線図に従って S29/2 と書く配線接続をチェックする。 (アイドリングコンタクトに欠陥、点火タイミング約 10°進んでいる)
20%	・最大負荷コンタクト電極転換か、あるいは欠陥、マイクロスイッチがアクディヴェイトにおいてのみ 20%の読み取り	最大負荷コンタクト(S29/2)をチェックする。
30%	・CIS-E 制御ユニット(N3)と冷却温センサ(B11/2)間の回路が短絡かあるいは開いた状態、冷却温センサに欠陥	B11/2 をチェックする。
40%	・吸気流センサ位置指示器(B2)への回路が短絡か、開状態、あるいは吸気流センサ位置指示器に欠陥、アイドリング速度増大	B2 をチェックする
50%	・02 センサ(G3/2)が然るべき運転温にない、回路が開いているか、あるいは欠陥が存在する。	エンジン運転温をチェックする。G3/2 をチェックする。
60%	未使用	
70%	・CIS-E ユニットにおいて TD 信号なし(回路開)	TD 信号をチェックする。
80%	・高度修正カプセル(B18)に続く、回路に短絡があるか回路開、あるいはカプセルに欠陥	B18 をチェックする。
90%	未使用	
100%	・混合気過希薄 ・02 センサに欠陥(グラウンドに短絡) ・CIS-E 制御ユニット(N3)かあるいは ON-OFF 率テスターに欠陥 ・過電圧保護リレー(K1/1)に欠陥、電圧供給皆無、アイドリング速度増大	ラムダ制御と 02 センサ信号の調整をチェックする。 電源供給をチェックする。
振動	モニターされた信号の関わる回路に問題欠陥は皆無。ON-OFF 率は指示されている。	

DTC readout(CIS-E)
Model Year 1998(California version only)
Model 201.028

診断システム搭載(カリフォルニア・ヴァージョンのみ)

CIS-E 制御ユニットは制御ユニットにインプット送信か、あるいはアウトプット受信する排気ガス制御コンポーネントをモニターします。これらのコンポーネントのいずれかにおける回路開か問題から生ずる諸欠陥は計器盤の CHECK ENGINE ランプで示されると同時に CIS-E 制御ユニット・メモリに記憶されます。

搭載された診断システムによる試験

押しボタン(2)とヒカリ・ダイオード(LED)付属の搭載試験接線(X92)はエンジン・コンパートメント耐熱壁上に位置しています。
注：バッテリ、過電圧保護リレーあるいは CIS-E 制御ユニットは外さないでください。記憶された欠陥がメモリから消えてしまうからです。

１．必要ならば、接続図に従って、インパルス・カウンターを接続してください。
２．点火：ON
３．LED かあるいはインパルス・カウンター押しボタンを 2 から 4 秒間押してください。
４．LED 点滅インパルスの数あるいはスクリーン上のインパルス指示を数えてメモしてください。
５.再度 LED 押しボタンかあるいはインパルス・カウンター押しボタンを 2 から 4 秒間押してください。
ほかに欠陥が探索できなければ、CIS-E 制御ユニット(N3)がラムダ ON-OFF 率指示モードに切り替わります。
６．故障問題処理表と診断試験に基づいて記録しておいたすべての問題欠陥(点滅コード)も除去してください。
７．インパルス指示の後、2 秒待ってから押しボダンを少なくとも 6 秒間押してください。
注：メモリに記憶された各々の欠陥は個別に消去してください。
８．もし LED が一度だけ点滅するか、あるいはインパルス指示が“１”であれば、すべての記憶された欠陥は消去されています。
注：ラムダ制御システムの ON-OFF 率試験をするには CIS-E 制御ユニット(N3)の潜在する欠陥インパルス指示を読み取るため、一度押しボタンを押し、それから同ボタンを再度 2 から 4 秒間押すことで、読み取りモード切替をします。欠陥が探索されなければ、CIS-E 制御ユニット(N3)はラムダ ON-OFF 率読み取りモードに切り替わります。
この後、CIS-E が正常運転に復帰するためには、イグニッション・キーを一度 OFF にしてから ON にします。

参照：1988 型取扱説明書初歩、車種 107.124.126
201 エンジン 102.985、グループ 07.3、CIS-E 試験　およびマイクロフィッチェ整備
エンジン 102、燃焼IIIb、グループ 07.3　整備 07.3-121“Ｆ”セクション“ｍ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	最大負荷コンタクト、スロットルバルブスイッチ(S29/2)
3	冷却温センサ(B11/2)
4	吸気流センサ位置指示器(B2)
5	02 センサ(G3/2)
6	未(無)使用
7	TD 信号
8	高度修正カプセル(B18)
9	電子油圧アクチュエーター(EHA)(Y1)
10	アイドリング･コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)

DTC readout(CFI)
Model Year 1991ー1993
Model 201.028

インパルス･カウンター･スキャン･ツールによる試験

警告
インパルス･カウンター･スキャン･ツール使用前あるいは、使用中にバッテリ、過電圧保護リレー、CFI制御モデュール(N3)を断接しないでください。記憶されたDTCがメモリーから消えてしまいます。カリファルニア向けの車輌と異なり、全米向け車輌の診断試験接続(X11/4)にはLEDの押しボタンがありません。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：スクリーンに示されるLED“U-Batt”が点灯しなければなりません。点灯しなければ、下記の参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを2秒から4秒間押してください。
４．DTC指示を読み取り、メモしてください。この際、指示される数値“１”はいかなる欠陥も記憶されていないことを意味します。数値が“１”より大きければシステムに欠陥があることを示します。
５．再度始動ボタンを2秒から4秒間押してください。システムにさらに欠陥がなければ、前にスクリーンに示されたDTCが再び現れます。もし追加的欠陥が存在すれば、その各々のDTCが指示されます。
６．最初にスクリーンに示されたDTCが繰り返されるまでステップ5を繰り返してください。
７．DTCの読み取りからすべたの欠陥もメモしてください。
８．故障問題処理表と診断試験にしたがって、すべてのメモした欠陥(DTC指示)を除去してください。
DTCメモリ消去法：
欠陥を一つ一つ片付けるごとに、その各々のDTC指示は下記のようにクリアしてください。
９：始動ボタンを2秒から4秒間押して欠陥を読み取ってください。それから始動ボタンを6秒から8秒間押してください。
注：スクリーンに示される各々のDTCはそれぞれ個別に消去してください。この際、スクリーンに現れるDTC数値が１よりも大きいと、システムにさらに欠陥が存在することを意味します。

参照：1991型取扱説明書初歩、車種210.028、グループ07.3
診断取扱説明書･第2巻、エンジン102、GE試験-04.00
セクションB、およびマイクロフィッチェ整備、エンジン102
燃焼ⅢB、グループ07.3　整備07.3-121“F”セクション“m”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	スロットル位置スイッチ(S29/)全開か、閉
3	エンジン冷却温センサ(B11/2)
4	吸気流量センサ位置指示器(B2)
5	酸素センサ(G3/2)
6	未使用
7	TD(RPM 信号)
8	高度修正カプセル(B18)
9	電子油圧アクチュエータ(EHA)(Y1)
10	スロットル位置スイッチ(S29/2)全開か、閉
12[1)]	EGR 温センサ(B21)

1) カリフォルニア向け車輌のみ

On-off ratio test(CIS-E)
Model Year 1987
Model 124.026 201.029
124.030

ON-OFF 率テスターによる試験

CIS-E 給油システムの各コンポーネントが CIS-E 制御ユニットのマイクロプロセッサで点検できます。故障コードは診断ソケットのラムダ計測回路を経由し ON-OFF 率テスターに示されます。一定した(動かない)ON-OFF 率は欠陥がどこかに潜在することを示します。以下の表は一定した ON-OFF 率、欠陥原因、それにその各々のケースに用いられる試験点検を相関的に示しています。

試験状況条件

・エンジンはアイドリング
・冷却温　60～80℃
・自動温湿制御　OFF
・選択レバー駐車位置
・過電圧保護リレー･ヒューズ触れず
１．接続図に従って ON-OFF 率テスターを診断ソケット(X11)に接続してください。
２．エンジンはアイドリング状態
３．もし ON-OFF 率テスターの指針が振れなければ、故障コード表を参照してください。
注：ON-OFF 率テスターの指針が振れなければシステムに故障問題がないことを意味します。
注：各々の詳細試験個所に関しては下記参照を参考にしてください。

参照：1987 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126
グループ 07.3,CIS-E 試験、診断取扱説明書第 2 巻
ガソリン･エンジン、エンジン 103、GE 試験-07.00、
ラムダ制御システム迅速試験、マイクロフィッチェ整備、エンジン 103
燃焼Ⅰ、グループ 07.3、整備 07.3-121、セクション“B”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因	行使される試験
0%	・CIS-E 制御ユニット(N3)に電圧がかかっていないかあるいは、ユニット自体に欠陥 ・診断ソケットへの回路(X11)、端子 3、オープンかあるいは ON-OFF 率テスター(012)に欠陥 ・混合気過濃　02 センサ信号電圧＋12 ボルト	電圧供給、グラウンド接続、および診断ソケットへの配線をチェックする。 ON-OFF 率テスター(012)をチェックする。 02 センサ信号をチェック。
10%	・吸気流センサ位置指示器(B2)に欠陥かあるいは電極変換 ・アイドリング速度約 2,000rpm、スロットルバルブスイッチ(S29/2)のプラグ配線が正しく接続されていないか、あるいは短絡(エンジンが最大負荷に達する以前に最大負荷コンタクトが閉じた状態)	吸気流センサ位置指示器信号および配線をチェックする。 (S29/2)および配線接続をチェックする。(アイドリング･コンタクトに欠陥および点火タイミングが約 10°進んでいる)
20%	・最大負荷コンタクト電極転換か、あるいは欠陥、マイクロスイッチがアクディヴェイトにおいてのみ 20%の読み取り	最大負荷コンタクト(S29/2)をチェックする。
30%	・CIS-E 制御ユニット(N3)と冷却温センサ(B11/2)間の回路が短絡かあるいは開いた状態、冷却温センサに欠陥	B11/2 をチェックする。
40%	・吸気流センサ位置指示器(B2)への回路が短絡か、開状態、あるいは吸気流センサ位置指示器に欠陥、アイドリング速度増大	B2 をチェックする
50%	・02 センサ(G3/2)が然るべき運転温にない、回路が開いているか、あるいは欠陥が存在する。	エンジン運転温をチェックする。G3/2 をチェックする。
60%	未使用	
70%	・CIS-E ユニットにおいて TD 信号なし(回路開)	TD 信号をチェックする。
80%	・高度修正カプセル(B18)に続く、回路に短絡があるか回路開、あるいはカプセルに欠陥	B18 をチェックする。
90%	未使用	
100%	・混合気過希薄 ・02 センサに欠陥(グラウンドに短絡) ・CIS-E 制御ユニット(N3)かあるいは ON-OFF 率テスター(012)に欠陥 ・過電圧保護リレー(K1/1)に欠陥、電圧供給皆無、アイドリング速度増大	ラムダ制御と 02 センサ信号の調整をチェックする。 電源供給をチェックする。

DTC readout(CIS-E)
Model Year 1988－1989(California version only)
Model 124.025 126.024 201.029
124.030 126.025
124.050
124.090

インパルス･カウンターによる試験

注：インパルス･カウンター使用前、あるいは使用中はバッテリ、過電圧保護リレー、CIS-E 制御ユニット(N3)は断接しないでください。記憶された欠陥がすべてメモリから消えてしまうからです。

１．インパルス･カウンターを接続してください。

注：この際 LED“U-Batt”が点灯しなければなりません。点灯しなければ、詳細試験個所については、下記参照を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを２秒から４秒間押してください。
スクリーン上のインパルス指示を読み取り、メモしてください。
指示“１”は記憶された欠陥がないことを意味し、“１”よりも大きい数値はシステム内に欠陥が存在することを意味します。
５．始動ボタンを２秒から４秒間再び押してください。システムに欠陥がなければ、前に示された数値が再度現れます。もし欠陥があれば、おのおのの故障コードが示されます。
６．最初にスクリーンに示された数値が繰り返されるまで、ステップ５を繰り返してください。
CIS-E 給油システムの各コンポーネントが CIS-E 制御ユニットのマイクロプロセッサで点検できます。
７．故障コード示す、すべての欠陥をメモしてください。
８．故障問題処理表と診断試験にしたがって、すべてメモしておいた欠陥(故障コード)を除去してください。
欠陥メモリ除去法：
ひとつひとつの欠陥処理の後、各々の故障コードは下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを２秒から４秒間押して、欠陥を読み取ってください。その上で始動ボタンを６秒から１０秒間押してください。
注：スクリーン上に示される各々の欠陥はそれぞれ個別に処理してください。

参照：1988 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126
グループ 07.3,CIS-E 試験、診断取扱説明書第 2 巻
ガソリン･エンジン、エンジン 103、GE 試験-07.00、
ラムダ制御システム迅速試験

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	最大負荷コンタクト、スロットルバルブスイッチ(S29/2)
3	冷却温センサ(B11/2)
4	吸気流センサ位置指示器(B2)
5	02 センサ(G3/2)
6	未(無)使用
7	TD 信号
8	高度修正カプセル(B18)
9	電子油圧アクチュエーター(EHA)(Y1)
10	アイドリング･コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)

On-off ratio test(CIS-E)
Model Year 1988－1989
Model 124.026 126.024 201.029
124.030 126.025
124.050
124.090

ON-OFF 率テスターによる試験

CIS-E 給油システムの種々のコンポーネントが CIS-E 制御ユニットのマイクロプロセッサで点検できます。故障コードは診断ソケットのラムダ計測回路を経由し ON-OFF 率テスターに示されます。一定した(動かない)ON-OFF 率は欠陥がどこかに潜在することを示します。以下の表は一定した ON-OFF 率、欠陥原因、それにその各々のケースに用いられる試験点検を相関的に示しています。

テスト状況条件

・エンジンはアイドリング
・冷却温　60～80°C
・温湿制御　OFF
・選択レバー駐車位置
・過電圧保護リレー・ヒューズ触れず
ON-OFF 率テスターを診断ソケット(X11)に接続してください。
１．ON-OFF 率テスターを診断ソケット(X11)に接続してください。
２．点火：ON
　70%　全米向け制御ユニット
　85%　カリフォルニア向け制御ユニット
３．エンジンはアイドリング
４．ON-OFF 率テスターの指針が振れれば、システムに欠陥はないことを意味します。
注：詳細試験個所に関しては、下記参照を参考にして下さい。

参照：1988 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126
　　グループ 07.3、CIS-E 試験、診断取扱説明書第 2 巻
　　ガソリン・エンジン、エンジン 103、GE 試験 07.00
　　ラムダ制御システム迅速試験

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	CIS-E 制御ユニット(N3)に電圧がかかっていないか、あるいはユニットに欠陥
10%	アイドリング速度コンタクト(S29/2)
20%	最大負荷コンタクト(S29/2)
30%	冷却温センサ(B11/2)
40%	吸気流センサ位置指示器(B2)
50%	O2 センサ(G3/2)
60%	未使用
70%	TD 信号
80%	高度修正カプセル(B18)

On-off ratio test(CFI)
Model Year 1990ー1993
Model 124.026 126.024 201.029
124.030 126.025
124.090
124.230
124.290

欠陥メモリ

エンジン運転中に生起する種々の欠陥は、エンジンを４回連続始動の後に起きた場合にのみメモリに記憶されます。これは欠陥問題が一度起きるのみでは、記録されないようにするためです。たとえば、もし欠陥が３度起きた場合､エンジンを特定回数かけたあとには､欠陥カウンターは再びクリアされます。エンジンの始動を妨げたり、運転に大きく影響を及ぼすような欠陥だけが、即時にメモリに記憶されます。バッテリが外されても、欠陥メモリは消去されません。

ON-OFF 率テスターによる欠陥メモリ復帰

記憶された欠陥は、ON-OFF 率テスターが診断試験接続(X11)になっていれば復帰されます。

ON-OFF 率試験　点火：ON
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“Ｐ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．エンジン：OFF
３．点火：ON

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	未使用
10%	スロットル位置スイッチ(S29/2)全開かあるいは、閉 閉のスロットル位置コンタクトが開
20%	スロットル位置スイッチ(S29/2)全開かあるいは、閉 全開のスロットル･コンタクトが閉
30%	エンジン冷却温 70°C以下かあるいは 100°C以上
40%	吸気流量センサ板(B2)が曲がって(ずれて、逸脱して)いる。
50%	入力信号問題なし。
60%	速度信号は認識されている。
70%	始動信号(回路 50)認識済み
80%	トランスミッション領域
90%	EHA(Y1)における電流はありえない(非蓋然的か不合理)
100%	未使用

ON-OFF 率テスターによるラムダ制御システム試験

ラムダ制御システムの機能は ON-OFF 率試験でチェックできます。ON-OFF 率試験は欠陥メモリに記憶されていない、一時的瞬時的な欠陥を認識するのにも用いることができます。点火時に起きる欠陥、あるいはエンジンがアイドリング中に起きる欠陥とは区別されます。ON-OFF 率は ON-OFF 率テスターかあるいは、診断試験ユニットでチェックできます。50%の指示があるか、あるいは指針の振動があれば、すべての入力信号もラムダ制御モデュールにも問題がないことを意味します。10%から 90%の指示は特定欠陥個所を示します。(故障コード表を参照してください)
さらに、ON－OFF 率試験の後、インパルス・カウンター・スキャン・ツールを用いて DTC 指示を行使してください

ON-OFF 率試験：エンジンはアイドリング
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“P”の駐車
1．ON-OFF 率テスターを接続してください。
2．点火：ON
3．エンジンはアイドリング

参照：1990 年モデル取扱説明書初歩、モデル 124.0,126.0
201 グループ 07.3、CIS-E 試験、セクション“D”、“E”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	診断コネクタ(X11)ソケット 2 におけるグランドが開 診断ソケット(X11)ソケット 3 かあるいは、6 に続く配線回路が開か、 ON-OFF 率に欠陥　　混合気過濃
10%	吸気流量センサ位置指示器(B2)の電極が反転しているか、あるいは指示器に欠陥 全開か閉のスロットル位置スイッチ(S29/2)コネクタ(CTP および WOT)の端子が転換しているかあるいは、マイクロスイッチが閉の状態で CTP が開の状態
20%	WOT コンタクトに欠陥、あるいは全開か閉のスロットル位置スイッチ(S29/29)の電極が転換している。 マイクロスイッチ(S27/2)アクティヴェイトにおいてのみ 20%の指示
30%	CFI 制御モデュール(N3)とエンジン冷却温センサ(B11/2)に欠陥か、点火制御モデュール(N1/2)に比べて、温度数値が過度に逸脱している。
40%	吸気流量センサ位置指示器(B2)の配線回路が開か回路に短絡が存する、あるいは指示器自体に欠陥がある。
50%	酸素センサ(G3/2)が運転状態にないか、あるいはセンサに欠陥がある。あるいは、回路が開の可能性。
60%	CFI 制御のモデュール(N3)に考えられない車体速度信号がはいっている。
70%	CFI 制御モデュール(N3)にありえない TNA 信号(rpm)が入っている。
80%	点火制御モデュール(N1/2)と CFI 制御モデュール間のデータ交換に支障がある。
90%	EHA(Y1)において、ありえない電流値指示
95%	減速給油停止はこの時点では機能している。
100%	CFI 制御モデュール(N3)に電圧がかかっていないか、あるいは、グランド状態、あるいは CFI 制御モデュール自体に欠陥 ON-OFF 率に欠陥　ラムダ調整過薄(あますぎる)

	酸素センサに欠陥(グランドに短絡)

DTC readout(CFI)
Model Year 1990－1993
Model 124.026 126.024 201.029
124.030 126.025
124.090
124.230
124.290

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：インパルス･カウンター･スキャン･ツール使用前、および使用中はバッテリ、過電圧保護リレーあるいは CFI 制御モデュール(N3)の接続を外さないでください。記憶されたすべての欠陥がメモリから消去してしまいます。

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。

注：この際 LED“U-Batt”が点灯しなければなりません。点灯しなければ、詳細試験個所に関しては下記参照を参考にしてください。
２．エンジンはアイドリング
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．DTC 指示を読み取り、メモしてください。指示“1”は記録された欠陥が皆無、“1”より大きい数値はシステムに欠陥があることを意味します。
５．再び始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。システムに欠陥がなければ、前にスクリーンに示された DTC が再度現れます。その時点において、欠陥があればその各々を指示する DTC が現れます。
６．最初にスクリーンに示された数値が現れるまでステップ 5 を繰り返してください。
７．さらに追加の欠陥を DTC から読み取りメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験に沿って、すべてのメモした故障を除去してください。
DTC メモリ除去法
各々の欠陥を除去したあとは、その個別の DTC 指示が下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ個別に消去してください。

参照：1990 年モデル取扱説明書初歩、モデル 124.0,126.0,201
エンジン 103、グループ 07.3、電気系統点検　セクション“C”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	スロットル･コンタクト全開、全開/閉スロットル位置スイッチ(S29/2)認識不可
3	CFI 制御モデュール(N3)によって読み取られるエンジン冷却温信号
4	異常な電荷測定調節器電圧(B2)
5	異常な酸素センサ信号(B3/2)
6	未使用
7	CFI 制御モデュール(N3)によって読み取られる TNA 信号(rpm)
8	点火制御モデュール(N1/2)からの異常な高度圧信号
9	EHA(Y1)に流れる異常な電流
10	スロットル･コンタクト閉、全開/閉スロットル位置スイッチ(S29/2)認識不可
11	給気システム
12	EZL 点火制御モデュール(N1/2)からの異常な絶対圧値
13	吸気温(B17/2)の異常な読み取り指示
14	CFI 制御モデュール(N3)によって読み取られる異常な車体速度信号
15	未使用
16	EGR
17	酸素センサ(G3/2)がポジティヴ、あるいは、グランドに満たない(不足、欠足)
18	アイドリング空気制御バルブ(Y6)への異常な流れ
19	未使用
20	未使用
21	未使用
22	酸素センサ(G3/2)の異常なヒーティング電流
23	パージ転換バルブ回路(Y58/1)のプラスに短絡
24	未使用
25	始動バルブ(Y8)回路のプラスに短絡
26	アップシフト･デイレイ･ソレノイド･バルブ(上方転換遅延ソレノイド･バルブ)(Y3/2)回路のプラスに短絡
27	CFI 制御モデュール(N3)および点火制御モデュール(N1/2)間のデータ交換に支障がある。
28	エンジン冷却温センサ(B11/2)回路に断続的コンタクトがある。
29	CFI(N3)および点火制御(N1/2)の各モデュールが各々別個のエンジン冷却温度値を読み取っている。
30	未使用
31	吸気温センサ(B17/2)に断続的なコンタクトがある。
32	未使用
33	未使用
34	点火制御モデュール(N1/2)から異常なエンジン冷却温度値の読み取り

DTC readout(MAS)
Model Year 1990－1993
Model 124.026 126.024 201.029
124.030 126.025
124.090
124.230
124.290

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注:エンジン系統(MAS)制御モデュール(N16)はバッテリが外されても、制御モデュールが断接されても、そのメモリを保持します。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯しなければなりません。点灯しなければ、下記参照の試験詳細を参考にしてください。
２．エンジンはアイドリング
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC 指示を読み取りメモしてください。この際指示“１”は記録された欠陥が皆無であること、“１”より大きい数値はシステムに欠陥が存在することを意味します。
５．再び始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。システムに欠陥が皆無の場合は、スクリーンに示された DTC が再度現れます。追加の欠陥があれば、その各々に然るべき DTC が指示されます。
６．最初に示され DTC が再び表れまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．さらに欠陥指示が DTC からあれば、どれもメモしてください。
８．故障問題表および診断試験に沿って、メモしたすべての欠陥を除去してください。
メモリからの DTC 消去法：
それぞれの欠陥を除去した後、各々の DTC は下記のとおり、個別に除去してください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して、DTC を読み取ってください。この後始ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：スクリーンに示される DTC は、各々個別に消去してください。

参照：1990 年モデル取扱説明書初歩、モデル 124.0,126.0,201
グループ 15、インパルス･カウンターによる MAS 試験

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	燃料ポンプ・リレー(回路 87)が機能していない。
3	TD/TN 信号(rpm)が阻害されている。
4	酸素センサ・ヒーター(回路 SH)出力制御に欠陥
5	吸気ポンプ制御(回路 LP)出力に欠陥
6	キックダウン・スイッチ制御(回路 87k)出力に欠陥
7	未使用
8	エンジン冷却温が許容領域外
9	回路 50 に欠陥
10	始動バルブ出力に欠陥
11	A/C コンプレッサー・エンゲイジメント (配置接続 OK)信号がない(回路 87z)
12	A/C コンプレッサー制御出力に欠陥
13	A/C コンプレッサー・ベルトあるいは、クラッチに過度のすべり
14	未使用
15	燃料ポンプ回路に短絡が見られる

On-off ratio test(CFI)
Model Year 1990－1993
Model 124.051 129.061

欠陥メモリ

エンジン運転中に生起する種々の欠陥は、エンジンを４回連続始動の後に起きた場合にのみメモリに記憶されます。これは欠陥問題が一度起きるのみでは、記録されないようにするためです。たとえば、もし欠陥が3度起きた場合､エンジンを特定回数かけたあとには､欠陥カウンターは再びクリアされます。エンジンの始動を妨げたり、運転に大きく影響を及ぼすような欠陥だけが、即時にメモリに記憶されます。バッテリが外されても、欠陥メモリは消去されません。

ON-OFF 率テスターによる欠陥メモリ復帰

記憶された欠陥は、ON-OFF 率テスターが診断試験接続(X11)になっていれば復帰されます。

ON-OFF 率試験　点火：ON
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“Ｐ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．エンジン：OFF
３．点火：ON
注：50%ON-OFF 率の一定した欠陥は、すべての入力信号に問題がないことを意味します。もし ON-OFF 率に別の数値が示されれば、故障コード表を参照してください。

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	未使用
10%	閉のスロットル位置(S29/2)が開
20%	全開スロットル(S29/2)が閉
30%	冷却温 70°C以下あるいは、100°C以上
40%	吸気流量センサ位置指示器(B2)のセンサ板がずれている (曲がりあいは逸脱)
50%	入力信号問題なし
60%	最高速度制限器(A1p8)付き電子速度計測器からの速度信号の認識
70%	スタータ信号(回路 50)認識済み
80%	トランスミション領域エンゲイジ済み
90%	電子油圧アクチュエータ(Y1)における異常な電流
100%	未使用

ON-OFF 率テスターによるラムダ制御システム試験

ラムダ制御システムの機能は ON-OFF 率試験でチェックできます。ON-OFF 率試験は欠陥メモリに記憶されていない、一時的瞬時的な欠陥を認識するのにも用いることができます。点火時に起きる欠陥、あるいはエンジンがアイドリング中に起きる欠陥とは区別されます。ON-OFF 率は ON-OFF 率テスターかあるいは、インパルス･カウンター･スキャン･ツールのいずれかでチェックできます。50%の指示があるか、あるいは指針の振動があれば、すべての入力信号もラムダ制御モデュールにも問題がないことを意味します。10%から 95%の指示は特定欠陥個所を示します。(故障コード表を参照してください)
さらに、ON－OFF 率試験の後、インパルス･カウンター･スキャン･ツールを用いて DTC 指示を行使してください。

ON-OFF 率試験：エンジンはアイドリング
試験条件

・エンジン冷却温約 80℃
・A/C OFF
・選択レバー位置“Ｐ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．点火：ON
３．エンジンはアイドリング
注：指針の振れはすべての入力信号に問題がないことを意味します。もし他のパーセンテージが指示された場合は故障コード表を参照してください。

参照：診断取扱説明書、モデル、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119
CIS-E 給油、セクション 2.1、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	2 および 9 ポール診断ソケット(X11)における回路が開いている。9 ポール診断ソケットの 3 か 6 に続く回路が開いているかあるいは、ON-OFF 率テスターに欠陥。 混合気過濃
10%	吸気流量センサ位置指示器(B2)の電極転換かあるいは、指示器自体に欠陥 スロットル位置スイッチ(S29/2)コネクタ端末(閉/全開)が反転しているか、あるいは、短絡が存在する。 全開のスロットル･コンタクトが不十分な吸気流で閉の状態
20%	最大負荷コンタクトに欠陥、あるいはスロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)の電極の反転。スロットル･バルブ･スイッチがアクティヴェイト状態においてのみ 20%の指示
30%	CFI 制御モデュール(N3)および 4 ポールのエンジン冷却温センサ(B11/2)間に短絡が存在するか、あるいはその間の回路が開、またはセンサ(B11/2)自体に欠陥があるか、転換制御モデュール(N1/3)に比べて温度値に大きなずれがある。
40%	吸気流量センサ位置指示器(B2)への配線回路が開か、短絡か、センサ(B2)自体に欠陥
50%	酸素センサ(G3/2)が機能できない状態にあるか、欠陥がある。回路開
60%	CFI 制御モデュール(N3)に異常な速度信号
70%	CFI 制御モデュール(N3)に異常な TNA 信号(rpm)
80%	EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/3)および CFI 制御モデュール(N3)間のデータ交換に欠陥
90%	電子油圧アクチュエータ(Y1)に異常な電流
95%	減速停止アクティヴ
100%	CFI 制御モデュール(N3)において電流がきていないか、グランドかあるいは、CFI 制御モデュール(N3)自体に欠陥 ON-OFF 率テスターに欠陥。 ラムダ調整があますぎる 酸素センサ(G3/2)に欠陥(回路 31 に短絡(グランド))
指針振動	モニターされた信号に欠陥は皆無

DTC readout(CFI)
Model Year 1990－1993
Model 124.051 129.061

試験条件

・冷却温約 80℃
・A/C OFF
・選択レバー“ P ”駐車位置
注：ON-OFF 率試験は DTC 指示を読み取る前に行ってください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“ U-Batt ”が点灯しなければなりません。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを２秒から４秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、メモしてください。この際指示“１”はシステム内に記憶された欠陥が存在しないことを、“１”より大きい数値はシステム内に欠陥が存在することを示しています。
５．再び始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。このときシステム内にさらに欠陥がなければ、前に示された DTC が再度現れます。もし追加の欠陥があれば、その各々の DTC が別個に示されます。
６．最初スクリーンに示された数値が繰り返されるまでステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC 指示からすべての欠陥をメモしてください。
８．故障問題処理表と診断試験にしたがって、メモしてあるすべての欠陥(DTC 指示)を除去してください。
DTC メモリ消去法：
各々の欠陥を除去したあと、DTC 指示はそれぞれ別個に下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
10. 点火は OFF にして、30 秒間待ってください。
DTC が除去され、その各々の指示が消去されれば、DTC 指示のプロセスをふんでも、DTC はスクリーンに表示されません。
指示される数値が“１”より大きい場合システム内にさらに何らかの欠陥が存在することを意味します。さらに問題が出た場合は追加的故障周知に進む前に欠陥メモリを読み取り、その上でその欠陥を処理してください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻
エンジン 104,109 CIS-E 給油セクション 2.1 診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	全開/閉スロットル位置スイッチ(S29/2)の異常な全開スロットル
3	CFI 制御モデュール(N3)における異常なエンジン冷却温度
4	吸気流量センサ位置指示器の電位差調整測定器(B2)に異常な電流
5	酸素センサ(G3/2)に異常信号
6	未使用
7	CFI 制御モデュール(N3)に異常な TN 信号(rpm)
8	点火制御モデュール(N1/3)からの高度修正信号
9	電子油圧アクチュエータ(Y1)に異常な電流
10	全開/閉スロットル位置スイッチ(S29/2)の異常な閉スロットル位置
11	給気システムの回路が開、あるいは回路に短絡が存在する。
12	点火制御モデュール(N1/3)からの異常な絶対圧力値
13	異常な吸気温度
14	CFI 制御モデュールに異常な速度信号
15	未使用
16	EGR 切替えバルブ(Y27)の回路が開になっているか、あるいは回路に短絡が存在する。
17	酸素センサ信号配線がプラスかあるいはグランドに短絡している。
18	アイドリング・エア制御バルブ(Y6)へ異常な電流
19	未使用
20	未使用
21	未使用
22	異常な酸素センサ・ヒータ電圧
23	パージ切替えバルブ(Y58/1)回路のプラスに短絡
24	未使用
25	始動バルブ(Y8)回路のプラスに短絡
26	アップシフト遅延ソレノイド・バルブ(Y/2)回路にプラスの短絡
27	CFI 制御モデュール(N3)および点火制御モデュール(N1/3)間のデータ交換
28	エンジン冷却温センサ(B17/2)回路に断続的コンタクト
29	CFI 制御モデュール(N3)および点火制御モデュール(N1/3)間のエンジン冷却温度差に欠陥
30	未使用
31	吸気温センサ(B17/2)の回路に断続的コンタクト
32	未使用
33	未使用
34	点火制御モデュール(N1/3)からの異常なエンジン冷却温度

DTC readout(MAS)
Model Year 1990ー1993
Model 124.051 129.061

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：エンジン系統(MAS)制御モデュール(N16)はバッテリあるいは、制御モデュール自体が外されても、メモリは保持するようになっています。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際、LED“U-Batt”が点灯しなければなりません。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．エンジンはアイドリング
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、メモしてください。この際、指示“１”は、システムに何ら、欠陥が存在しないことを、“１”よりも大きい数値はシステム内に欠陥があることを意味しています。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にさらに欠陥がなければ、前に示された DTC が再度現れます。もし、追加的な欠陥が存在すれば、それに応じた各々の DTC が指示されます。
６．最初に示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC 指示によるすべての追加的欠陥をメモしてください。
故障問題処理表および診断試験にしたがって、メモしてある欠陥(DTC 指示)を除去してください。
メモリからの DTC 消去法：
各々の欠陥を除去したあと、それぞれ個別の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して、DTC を読み取ってください。その上で移動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻セクション 2.1、ガソリン給油システム
CIS-E 診断 システム･メモリおよび
1990 年モデル 129 取扱説明書初歩、グループ 15
インパルス･カウンター･スキャン･ツール MAS 試験

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	燃ポンプ･リレー(回路 87)機能不全
3	TN(rpm 信号)が阻止されている。
4	酸素センサ･ヒータの出力(回路 SH)制御に欠陥
5	給気ポンプ制御出力(回路 LP)に欠陥
6	キックダウン･スイッチ制御(回路 87k)出力に欠陥
7	未使用
8	未使用
9	未使用
10	未使用
11	A/C コンプレッサのエンゲイジメント信号が欠如(回路 87k)
12	A/C コンプレッサ制御出力に欠陥
13	A/C コンプレッサ･ベルトに過度のすべり
14	異常な車体速度信号
15	燃料ポンプ回路に短絡

On-off ratio test(CIS-E)
Model Year 1988－1989(California)
Model 107.048 126.035
126.039
126.045

ON-OFF 率テスター採用の搭載診断システム

CIS-E システムの種々のコンポーネントは CIS-E 制御ユニットのマイクロプロセッサを経て、チェックできます。故障コードは診断ソケットのラムダ計測回路を経由して、ON-OFF 率テスターに示されます。ON-OFF 率が潜在する欠陥を示します。以下の表は一定した ON-OFF 率、欠陥原因およびそれぞれの場合に行われる試験との相関をリスト･アップしています。

試験条件

・冷却温 60～80°C
・自動温湿制御 OFF
・選択レバー駐車位置
・過電圧保護リレー･ヒューズには触れず
１．ON-OFF 率テスターを診断ソケット(X11)に接続してください。
２．点火：ON
３．ON-OFF 率指示：制御ユニット
70% 欠陥存在
100% 欠陥皆無
85% (USA)カリフォルニア

参照：1988 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107.124.126
および 201、グループ 07.3、CIS-E 試験、および診断
取扱説明書第 2 巻、ガソリン･エンジン、エンジン 116.117
GE 試験 08.1、ラムダ制御システム迅速試験
マイクロフィッチェ整備、エンジン 116.96,117.96
燃焼Ⅰ、グループ 07.3、整備 07.3-121、“B”セクション“d”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	CIS-E 制御ユニット(N3)および診断ソケット(X11)間の回路が開
10%	吸気流センサ位置指示器(B2)の電極転換
20%	スロットル･バルブ･スイッチ(B29/2)が最大負荷コンタクト
30%	冷却温センサ(B11/2)
40%	吸気流センサ位置指示器(B2)
50%	O2 センサ(G3/2)
60%	未使用
70%	TD 信号(点火制御モデュール配線/回路開)
80%	高度修正カプセル(B18)
90%	未使用
100%	排気ガス再循環

On-off ratio test(CIS-E)
Model Year 1990－1991
Model 126.035
126.039
126.045

ON-OFF 率テスターによる欠陥メモリの復帰

記憶された欠陥は ON-OFF 率テスターを診断試験接続(X11)のもとで復帰できます。

試験条件

・冷却温 60～80°C
・自動温湿制御 OFF
・選択レバー駐車位置

参照：1990 年モデル取扱説明書初歩、モデル 124.0,126.0,201
エンジン 116,117、グループ 07.3、ON-OFF 率テスター試験

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	ON-OFF 率テスターに欠陥 CIS-E 制御ユニット(N3)から診断ソケット(X11)への回路が開
10%	吸気流センサ位置指示器(B2)配線
20%	コネクタ(S29/2)電極転換、最大負荷コンタクト、配線
30%	冷却温センサ(B11/2)、回路が開、配線
40%	吸気流センサ位置指示器(B2)、配線、回路が開
50%	O2 センサ(G3/2)、配線、回路が開
60%	未使用
70%	エンジン rpm(TD)信号(点火制御モデュールの配線/回路が開)
80%	高度修正カプセル(B18)
90%	未使用
100%	下記の諸点、ON-OFF 率を試験してください ・グランド接続(W11)および(W10) ・過電圧保護リレー(k1/1)のヒューズの欠陥、あるいは接続が外れているか。 ・CIS-E 制御ユニット(N3)への電圧供給 ・電子油圧アクチュエータ(Y1)への電流 ・O2 センサ(G3/2)

DTC readout(CIS-E)
Model Year 1988－1991 (California / Federal version)
Model 107.048 126.035
126.039
126.045

搭載診断システム(カリフォルニア向け)

CIS-E 制御ユニットは制御ユニットに入力信号を送るか、あるいは出力信号をユニットから受けるかする排気ガス制御コンポーネントをモニターします。これらのコンポーネントのいずれかにおける信号阻止から生ずる機能不全、あるいは計器盤にある CHECK ENGINE 指示ランプによって示され、同時に CIS-E 制御ユニット･メモリに記憶されます。

搭載診断システムによる試験

押しボタン(2)および発行ダイオード(LED)のついた搭載試験コネクション(X92)はエンジン部耐火壁にあります。
注：バッテリ、過電圧保護リレー、あるいは CIS-E 制御ユニットの接続は外さないでください。記憶された欠陥情報がメモリから消えてしまいます。
１．インパルス･カウンターを接続してください。
２．点火：ON
３．LED 押しボタンあるいは、インパルス･カウンター押しボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．LED の点滅インパルスの数を数えるか、あるいは、スクリーン上のインパルス指示を読み取るかしてメモしてください。
５.LED 押しボタン､あるいはインパルス･カウンター押しボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。それ以上欠陥が検索されなければ､CIS-E 制御ユニット(N3)がラムダ ON-OFF 率指示モードに切り替わります。
６．故障問題処理表および診断試験にしたがって、メモしたすべての欠陥(点滅コード)も処理してください。
欠陥メモリ消去法：
この際、CIS-E 制御ユニットの接続を外さずに欠陥が修正できれば、欠陥メモリは下記のように消去してください。
７．インパルス指示のあと、2 秒間待ってから少なくとも 6 秒間押しボタンを押してください。
注：メモリに記憶された各々の欠陥はそれぞれ個別に消去してください。
８．もし LED が一度点滅するかあるいは、インパルス指示が“１”であれば、記憶されたすべての欠陥が消去されていることを意味します。
注：ラムダ制御システムの ON-OFF 率試験には、CIS-E 制御ユニット(N3)は、まず欠陥インパルス指示をすべて読み取るために、押しボタンを押しさらに 2 秒から 4 秒間ボタンを押してラムダ指示モードにきりかえなければなりません。さらに欠陥が検索されなければ CIS-E 制御ユニット(N3)はラムダ ON-OFF 率読み取りモードに切り替わります。
この後、CIS-E を正常運転に復帰させるために、点火キーを OFF そして ON にして下さい。

参照：1988 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126,201
グループ 07.1、CIS-E 試験、診断取扱説明書第 2 巻
ガソリン･エンジン、エンジン 116,117,GE 試験 08.01
ラムダ制御システム迅速試験　マイクロフィッチェ整備、エンジン 116.96,117.96
燃焼Ⅰ、グループ 07.3、整備 07.3-121､“Ｂ”セクション“ｄ”

搭載診断システム(全米向け)

CIS-E 制御ユニットは制御ユニットに入力信号を送るか、あるいは出力信号をユニットから受けるかする排気ガス制御コンポーネントをモニターします。これらのいずれかのコンポーネントの信号を阻止すること、あるいはこれらいずれかにおける欠陥から生ずる機能不全は、CIS-E 制御ユニットのメモリに同時に記憶されます。

搭載診断システムによる試験

搭載試験コネクション(X92)はエンジン部耐火壁にあります。
注：バッテリ、過電圧保護リレー、あるいは CIS-E 制御ユニットの接続は外さないでください。記憶された欠陥情報がメモリから消えてしまいます。
１．インパルス･カウンターを接続してください。
２．点火：ON
３．インパルス･カウンター押しボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーン上のインパルス指示を読み取り、メモしてください。指示“１”は記憶された欠陥が皆無なこと、数値が“１”より大きければシステム内に欠陥が存在することを意味します。
５．インパルス･カウンター押しボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。さらに欠陥が検索されなければ、CIS-E 制御ユニット(N3)はラムダ ON-OFF 率読み取りモードに切り替わります。
６．故障問題処理表および診断試験にしたがって、メモしたすべての欠陥(点滅コード)を除去してください。
欠陥メモリ消去法：
この際、CIS-E 制御ユニットの接続を外さずに欠陥が修正できれば、欠陥メモリは下記のように消去してください。
７．インパルス指示のあと、2 秒間待ってから少なくとも 6 秒間押しボタンを押してください。
注：記憶された各々の欠陥はそれぞれ別個に処理してください。
８．インパルス指示が“１”であれば、記憶されたすべての欠陥が消去されていることを意味します。
注：ラムダ制御システムの ON-OFF 率試験には、CIS-E 制御ユニット(N3)は、まず欠陥インパルス指示をすべて読み取るために、押しボタンを押しさらに 2 秒から 4 秒間ボタンを押してラムダ指示モードに切替えなければなりません。さらに欠陥が検索されなければ CIS-E 制御ユニット(N3)はラムダ ON-OFF 率読み取りモードに切り替わります。
この後、CIS-E を正常運転に復帰させるために、点火キーを OFF そして ON にして下さい。

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	最大負荷コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)
3	冷却温センサ(B11/2)
4	吸気温センサ位置指示器(B2)
5	O2 センサ(G3/2)
6	未使用
7	TD 信号
8	高度修正カプセル(B18)
9	電子油圧アクチュエータ(EHA)(Y1)
10	アイドリング･コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)
11	未使用
12	排気ガス再循環

DTC readout(CIS-E)
Model Year 1990ー1992
Model 129.066

欠陥メモリ

エンジン運転中に生起する種々の欠陥は、エンジンを４回連続始動の後に起きた場合にのみメモリに記憶されます。これは欠陥問題が一度起きるのみでは、記録されないようにするためです。たとえば、もし欠陥が3度起きた場合､エンジンを特定回数かけたあとには､欠陥カウンターは再びクリアされます。エンジンの始動を妨げたり、運転に大きく影響を及ぼすような欠陥だけが、即時にメモリに記憶されます。バッテリが外されても、欠陥メモリは消去されません。

ON-OFF 率テスターによる欠陥メモリ復帰

記憶された欠陥は、ON-OFF 率テスターが診断試験接続(X11)になっていれば復帰されます。

ON-OFF 率試験　点火：ON
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“Ｐ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．エンジン：OFF
３．点火：ON
注：50%ON-OFF 率の一定した欠陥は、すべての入力信号に問題がないことを意味します。もし ON-OFF 率に別の数値が示されれば、故障コード表を参照してください。

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	未使用
10%	アイドリング速度コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)開
20%	最大負荷コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)閉
30%	冷却温 70°C以下、あるいは 100°C以上
40%	吸気流センサ位置指示器(B2)のセンサ板にずれ (曲がり、あるいは逸脱)
50%	入力記号に問題なし
60%	最大速度制限器(A1p8)付き電子速度計からの速度信号認識済み
70%	スタータ信号(回路 50)認識済み
80%	トランスミッション･ギア接合
90%	異常な電子油圧アクチュエータ電流(Y1)
100%	未使用

ON-OFF 率テスターによるラムダ制御システム試験

ラムダ制御システムの機能は ON-OFF 率試験でチェックできます。ON-OFF 率試験は欠陥メモリに記憶されていない、一時的瞬時的な欠陥を認識するのにも用いることができます。点火時に起きる欠陥、あるいはエンジンがアイドリング中に起きる欠陥とは区別されます。ON-OFF 率は ON-OFF 率テスターでチェックできます。50%の指示があるか、あるいは指針の振動があれば、すべての入力信号もラムダ制御ユニットにも問題がないことを意味します。10%から 95%の読み取りは特定欠陥個所を示します。(故障コード表を参照してください)
さらに、ON－OFF 率試験の後、インパルス･カウンター･スキャン･ツールを用いて DTC 指示を行使してください。

ON-OFF 率試験：エンジンはアイドリング

試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“ P ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．点火：ON
３．エンジンはアイドリング
４．この際 ON-OFF 率テスターの指針が振動しなければ、欠陥表を参照してください。
注：ON-OFF 率テスターの指針の振動はシステムに問題が皆無であることを意味します。

参照：診断取扱説明書、モデル、エンジン第２巻、エンジン 104,119
CIS-E システム、セクション 2.1、診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
0%	ソケット 2 および 9 ポール診断ソケット(X11)における回路が開いている。ソケット 3 か、9 ボール診断ソケット(X11)の 6 への配線回路が開、あるいは ON-OFF 率テスターに欠陥　　混合気調整過濃
10%	吸気流センサ位置指示器(B2)の電極転換かあるいは、指示器自体に欠陥 スロットル・バルブ・スイッチ(S29/2)コネクタ(アイドリング/最大負荷)の端子転換か、あるいは短絡、最大負荷コンタクトが不十分な吸気流で閉じている。
20%	最大負荷コンタクトに欠陥、あるいはスロットル・バルブ・スイッチ(S29/2)の電極の反転。スロットル・バルブ・スイッチがアクティヴェイト状態においてのみ 20%の指示
30%	CIS-E 制御ユニット(N3)および 4 ポールのエンジン冷却温センサ(B11/2)間の回路に短絡があるか、あるいは回路が開になっている、あるいは、センサ(B11/2)自体に欠陥があるか、EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)に比較して温度値に大きなずれ(逸脱)が存在する。
40%	吸気流センサ位置指示器(B2)の回路が開か、短絡か、センサ(B2)自体に欠陥
50%	O2 センサ(G3/2)が機能できない状態にあるか、欠陥がある。回路開
60%	CIS-E 制御モデュール(N3)に異常な速度信号
70%	CIS-E 制御モデュール(N3)に異常な TNA 信号(rpm)
80%	EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)および制御ユニット(N3)間のデータ交換に欠陥
90%	電子油圧アクチュエータ(Y1)に異常な電流
95%	減速停止アクティヴ
100%	CIS-E 制御ユニット(N3)において電流がきていないか、グランドか存在しない、あるいは制御ユニット(N3)自体に欠陥 ON-OFF 率テスターに欠陥。　ラムダ調整があますぎる 酸素センサ(G3/2)に欠陥(回路 31 に短絡(グランド))
指針振動	モニターされた信号に欠陥は皆無

DTC readout(CIS-E)
Model Year 1990－1992
Model　129.066

試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“ P ”の駐車
注：インパルス指示を読み取る前に ON-OFF 率試験を行ってください。欠陥メモリの読み取りはエンジン OFF および点火 ON の状態で行ってください。
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
注：この際 LED“ ”
２．エンジン：OFF
３．点火：ON
４．スクリーンに指示される DTC を読み取り、メモしてください。指示“１”は記憶された欠陥が皆無であることと、“１”より大きい数値は、システム内に欠陥が存在することを意味します。
５．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。この際、システム内にさらに欠陥がなければ前にスクリーンに示された数値が再び現れます。まし追加的な欠陥が存在すればその各々の故障コードが指示されます。
６．始めに指示された数値が再度繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．インパルスの読み取りから追加的欠陥をすべてメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがってメモしておいた欠陥(インパルス指示)をすべて除去してください。
欠陥メモリ消去法：
欠陥除去のあと、各々のインバルス指示は下記のように除去してください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：スクリーンに示される各々の欠陥は、それぞれ別個に除去してください。
10. 点火は OFF にして 30 秒間待ってください。
欠陥が除去されたその各々の指示が消去されれば、インパルスの読み取りを行う際には、欠陥コードはスクリーンには示されません。示される数値が 1 より大きければシステム内に欠陥がさらに存在することを意味します。さらに問題があれば追加的修理に移る前に、欠陥メモリを読み取り欠陥を除去してください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119CIS-E システム
　　セクション 2.1、診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	最大負荷コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)に異常
3	CIS-E 制御モデュール(N3)の異常な冷却温
4	吸気流センサ位置指示器電位差計電流(B2)に異常
5	O2 センサ信号異常
6	未使用
7	CIS-E 制御モデュール(N3)の TNA 信号(rpm)に異常
8	EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/3)からの高度修正信号に異常
9	電子油圧アクチュエータ(Y1)に異常
10	アイドリング速度コンタクト、スロットル･バルブ･スイッチ(S29/2)に異常
11	給気システムの回路が開か、回路に短絡
12	EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/3)からの絶対圧値に異常
13	吸気温に異常
14	CIS-E 制御ユニット(N3)の速度信号に異常
15	未使用
16	EGR 切替えバルブ(Y27)回路が開か、あるいは回路に短絡
17	O2 センサ信号の配線がプラスに短絡しているか、グランド
18	アイドリング速度エア･バルブ(Y6)への電流に異常
19	未使用
20	未使用
21	未使用
22	O2 センサ･ヒータ電圧に異常
23	パージ切替えバルブ(Y58/1)回路のプラスに短絡
24	未使用
25	始動バルブ(Y8)回路のプラスに短絡
26	アップシフト遅延ソレノイド/切替えバルブ(Y3/2)回路のプラスに短絡
27	CIS-E 制御ユニット(N3)および EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)間のデータ交換に欠陥
28	冷却温センサ(B11/2)の回路に断続的なコンタクト
29	CIS-E 制御ユニット(N3)および EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)間の冷却温に相違
30	未使用
31	吸気温センサ(B17/2)回路に断続的なコンタクト
32	未使用
33	未使用
34	EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)からの冷却温に異常

DTC readout(MAS)
Model Year 1990－1992
Model　129.066

インパルス・カウンター試験

注：エンジン系統(MAS)制御モデュール(N16)はバッテリ、あるいは制御ユニットの接続が外されても、メモリは維持されます。
１．インパルス・カウンターを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．エンジンはアイドリング
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示されるインパルス指示を読み取り、メモしてください。指示“1”は記憶された欠陥が皆無であること“1”より大きい数値はシステム内に欠陥が存在することを意味しています。
５．始動ボタンを再度 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にさらに欠陥がなければ、前に示された数値が再び現れます。追加の欠陥が存在すれば、その各々の故障コードがスクリーンに示されます。
６．最初に示された数値が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．インパルスの読み取りから追加的欠陥をすべて、メモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、すべてのメモしていた欠陥(インパルス指示)を除去してください。
欠陥メモリ除去法
欠陥を除去したあと、各々のインパルス･コードは下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される欠陥はそれぞれ別個に消去してください。欠陥が処理され、各々の指示が消去されれば、故障コードはインパルスの指示を行う際にはスクリーンに示されません。
示される数値が 1 より大きい場合にはシステム内に、さらに欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119CIS-E
　　給油、セクション 2.1、インパルス指示、エンジン系統(MAS)
　　制御ユニット(N16)および
　　1990 年モデル 129、取扱説明書初歩、グループ 07.3
　　インパルス・カウンターによる MAS 試験

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システムに欠陥皆無
2	燃料ポンプ･リレー(回路 87)が機能していない。
3	TN(rpm 信号)が阻止されている。
4	酸素センサ･ヒータ制御出力に欠陥
5	給気ポンプ制御出力に欠陥
6	キックダウン･スイッチ制御出力に欠陥
7	未使用
8	未使用
9	未使用
10	未使用
11	A/C コンプレッサーのエンゲイジメント信号がない。
12	A/C コンプレッサー制御出力に欠陥
13	A/C コンプレッサー･クラッチに過度のすべり
14	速度信号異常
15	燃料ポンプ回路に短絡

On-off ratio test(LH-SFI)
Model Year 1992－1993
Model 140.032

欠陥メモリ

エンジン運転中に生起する種々の欠陥は、エンジンを４回連続始動の後に起きた場合にのみメモリに記憶されます。これは欠陥問題が一度起きるのみでは、記録されないようにするためです。たとえば、もし欠陥が3度起きた場合､エンジンを特定回数かけたあとには､欠陥カウンターは再びクリアされます。エンジンの始動を妨げたり、運転に大きく影響を及ぼすような欠陥だけが、即時にメモリに記憶されます。バッテリが外されても、欠陥メモリは消去されません。

ON-OFF 率テスターによる欠陥メモリ復帰

記憶された欠陥は、ON-OFF 率テスターが診断試験接続(X11)になっていれば復帰されます。

ON-OFF 率試験　点火：ON
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“Ｐ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．エンジン：OFF
３．点火：ON
４．ON-OFF 率が 50%以外の数値であれば、欠陥表を参照して、潜在原因を突き止めてください。

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
10%	スロットル位置閉認識なし
20%	全開スロットル認識なし
30%	エンジン冷却温 70°C以下あるいは、110°C以上
40%	未使用
50%	入力信号問題なし
60%	エンジン始動時に TN 信号(rpm)、あるいはクラムシャフト位置センサ信号がない
70%	スタータがエンゲイジしている。
80%	CAN データ交換に欠陥
90%	燃料安全停止アクティヴ

ON-OFF 率テスターによるラムダ制御システム試験

ラムダ制御システムの機能は ON-OFF 率テスターでチェックできます。ON-OFF 率試験は欠陥メモリに記憶されていない、一時的瞬時的な欠陥を認識するのにも用いることができます。点火時に起きる欠陥、あるいはエンジンがアイドリング中に起きる欠陥とは区別されます。ON-OFF 率は ON-OFF 率テスターかあるいは、インパルス･カウンター･スキャン･ツールのいずれかでチェックできます。50%の指示があるか、あるいは指針の振動があれば、すべての入力信号もラムダ制御モデュールにも問題がないことを意味します。10%から 95%の指示は特定欠陥個所を示します。(故障コード表を参照してください)
さらに、ON－OFF 率試験の後、インパルス･カウンター･スキャン･ツールを用いて DTC 指示を行ってください。

ON-OFF 率試験：エンジンはアイドリング
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“ P ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．点火：ON
３．エンジンはアイドリング
４．ON-OFF 率が 50%以外の数値であるか、あるいは指針が振れていなければ、故障コード表を参照して、潜在原因を探ってください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
給油、セクション 3.1、診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
10%	CTP 認識常時適用
20%	インジェクタ出力回路、あるいは 2 箇所以上のインジェクタ回路が開になっている
30%	エンジン冷却温センサ(B11/2)
40%	熱線付き吸気流量センサ
50%[1)]	酸素センサ(G3/2)が機能していないかあるいは、センサ自体に欠陥がある。回路開
60%	クラムシャフト位置センサ(L5/1)
70%	TN 信号(rpm)
80%	CAN データ交換に欠陥
90%	車体速度信号
95%	減速停止アクティヴ

1) すべてのモニタされた信号に問題がなければ指針が振動します。

DTC readout(LH-SFI)
Model Year 1992－1993
Model　140.032

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：DTC 読み取り試験の前に、ON-OFF 率試験を行ってください。
DTC メモリ読み取りは、エンジン OFF および点火 ON の状態で行ってください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーン上の DTC を読み取って、メモしてください。指示“1”は記憶された欠陥が皆無であること“1”より大きい数値はシステム内に欠陥が存在することを意味しています。
５．始動ボタンを再度 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にさらに欠陥がなければ、前に示された数値が再び現れます。追加の欠陥が存在すれば、その各々の故障コードがスクリーンに示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
８．DTC 読み取りからすべての追加的な欠陥をメモしてください。
９．故障問題処理表および診断試験にしたがって、すべてのメモしてある欠陥(DTC 指示)を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC は下記のようにクリアしてください。
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
11. 点火を OFF にして 30 秒間待てください。
欠陥が処理され、各々の DTC 指示が消去されれば、DTC を行った際、DTC はスクリーンには現れません。
現れる数値が“1”より大きければ、システム内にさらに欠陥が存在することを意味します。
さらに、問題がでれば、いかなる追加的修理をする前に、DTC メモリを読み取り、欠陥を除去してください。
DTC 試験の前に ON-OFF 率試験を行ってください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
　　給油、セクション 3.1、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	エンジン冷却温センサ(B11/2)回路 1 の回路が開か、短絡
3	エンジン冷却温センサ(B11/2)回路 2 の回路が開か、短絡
4	熱線付き付き流量センサ(B2/2)電圧が不十分か、高すぎる
5	未使用
6	未使用
7	TN 信号(rpm)が不正確、あるいは、回路が開か、短絡
8	カムシャフト位置センサ(L5/1)信号、回路が開か、短絡
9	スタータ信号(回路 50)が欠落、回路が開か、短絡
10	電子アクセル制御モデュールからの閉のスロットル位置認識、回路に短絡
11	給気システム、回路が開か、短絡
12	熱線付き吸気流量センサ制御不可、回路が開か、短絡
13	吸気温センサ(B17/7)、回路が開か、短絡
14	未使用
15	未使用
16	EGR 切替えバルブ(Y27)、回路開か、短絡
17	電子アクセル制御モデュール(N4/1)からデータのトランスミッション皆無
18	EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/3)からデータのトランスミッション皆無
19	未使用
20	LH-SHI 制御モデュール(N3/1)からデータのトランスミッション皆無
21	酸素センサ(G3/2)、回路が開
22	酸素センサ･ヒータ、回路開か、短絡
23	パージ切替えバルブ(Y58/1)、回路開か、短絡
24	未使用
25	可調整クラムシャフト･タイミング･ソレノイド(Y49,Y49/2)、回路開か、短絡
27	インジェクタ(Y62)、回路開か、短絡
28	未使用
32	未使用

DTC readout(BM)
Model Year 1992－1993
Model　140.032

試験条件

・冷却温約 80°C
・A/C：OFF
・選択レバー駐車位置
注：DTC 読み取り試験の前に、ON-OFF 率試験を行ってください。
過電圧保護リレー、あるいは車輌バッテリの接続が外されても、ベイス･モデュール(N16/1)の DTC メモリはそのまま維持されます。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーン上の DTC を読み取って、メモしてください。指示“１”は記憶された欠陥が皆無であること“１”より大きい数値はシステム内に欠陥が存在することを意味しています。
５．始動ボタンを再度 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にさらに欠陥がなければ、前に示された数値が再び現れます。追加の欠陥が存在すれば、その各々の故障コードがスクリーンに示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC の読み取りからすべての追加的欠陥をメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、すべてのメモしてある欠陥(DTC 指示)を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC は下記のようにクリアしてください。
９．点火：ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、各々の DTC 指示が消去されれば、DTC を行った際、DTC はスクリーンには現れません。
現れる数値が“１”よりお大きければ、システム内にさらに欠陥が存在することを意味します。
さらに、問題がでれば、いかなる追加的修理をする前に、DTC メモリを読み取り、欠陥を除去してください。
DTC 試験の前に ON-OFF 率試験を行ってください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
　　給油、セクション 3.1、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	未使用
3	未使用
4	未使用
5	モデュール･ボックスの最大許容温度を超過している。
6	電磁 A/C コンプレッサー･クラッチが阻止されている。
7	V ベルトにすべり
8	未使用
9	LH-SFI 制御モデュール(N3/1)への電圧供給が阻止されている。
10	LH-SFI 制御モデュール(N3/1)への電圧供給が阻止されている。 燃料インジェクタに電圧がかかっていない。
11	付随装置制御モデュールへの電圧供給が阻止されている。
12	ABS 制御モデュール(N30)あるいは ABS/ASR 制御モデュール(N30/1)あるいは、ASD 制御モデュール(N30/2)への電圧供給が阻止されている。
13	未使用
14	未使用
15	キックダウン･バルブ(Y3)への電圧供給が阻止されている。
16	電磁 A/C コンプレッサー･クラッチ(A9k1)への電圧供給が阻止されている。
17	モデュール･ボックス･ブロウア･モータへの電圧供給が阻止されている。

DTC readout(DM)
Model Year 1992－1993
Model　140.032

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際、LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、メモしてください。
５．DTC 読み取り試験の前に、ON-OFF 率試験を行ってください。この際指示“１”はシステム内に欠陥が皆無であること、数値が“１”より大きければシステム内に欠陥が存在することを意味します。
６．最初に示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC の読み取りからすべての欠陥情報をメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、すべてのメモしてある欠陥(DTC 指示)を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC は下記のようにクリアしてください。
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、各々の DTC 指示が消去されれば、DTC を行った際、DTC はスクリーンには現れません。
現れる数値が“１”より大きければ、システム内にさらに欠陥が存在することを意味します。
さらに、問題がでれば、いかなる追加的修理をする前に、DTC メモリを読み取り、欠陥を除去してください。
DTC 試験の前に ON-OFF 率試験を行ってください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻
　　セクション 8.1、診断モデュール、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	酸素センサ機能不可
3	ラムダ制御機能不可
4	給気システム機能不可
5	排気ガス再循環機能不可
6	アイドリング速度制御機能不可
7	点火システムに欠陥
8	エンジン冷却温センサ、回路が開か、短絡
9	給気温センサ、回路が開か、短絡
10	空気量センサ電圧が高すぎるか、低すぎる
11	TN 信号(rpm)に欠陥
12	酸素センサ・ヒータ、回路が開か、短絡
13	点火制御モデュールからのカムシャフト位置センサ信号に欠陥
14	始動の際の吸気管圧が低すぎる
15	全開スロットル情報に欠陥
16	閉のスロットル位置情報に欠陥
17	各々の制御モデュール間のデータ交換に欠陥
18	可調整クラムシャフト・タイミング・ソレノイド、回路が開か、短絡
19	各インジェクター回路開か、短絡、あるいは排気制御システムの順応に限界
20	車輌速度信号が欠落
21	パージ切替えバルブ、回路が開か、短絡
22	クラムシャフト位置センサ信号に欠陥
23	エンジン運転中の吸気管圧が低すぎる。
24	スタータ・リング・ギアのかみ合い部分に欠陥
25	各ノック・センサに欠陥
26	アップシフト遅延切替えバルブ、回路が開か、短絡
27	センサ回路 1 およびセンサ回路 2 間のエンジン冷却温センサにずれ(逸脱)
28	エンジン冷却温センサ(エンジン冷却温変化モニタ)

On-off ratio test(LH-SFI)
Model Year 1992ー1993
Model 124.034 129.067 140.042 140.051
124.036 140.043 140.070

欠陥メモリ

エンジン運転中に生起する種々の欠陥は、エンジンを４回連続始動の後に起きた場合にのみメモリに記憶されます。これは欠陥問題が一度起きるのみでは、記録されないようにするためです。たとえば、もし欠陥が3度起きた場合､エンジンを特定回数かけたあとには､欠陥カウンターは再びクリアされます。エンジンの始動を妨げたり、運転に大きく影響を及ぼすような欠陥だけが、即時にメモリに記憶されます。バッテリが外されても、欠陥メモリは消去されません。

ON-OFF 率テスターによる欠陥メモリ復帰

記憶された欠陥は、ON-OFF 率テスターが診断試験接続(X11)になっていれば復帰されます。

ON-OFF 率試験　点火：ON
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“Ｐ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．エンジン：OFF
３．点火：ON
４．50%以外の数値がスクリーンに現れれば、故障コード表を参照して潜在原因を探ってください。

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
10%	スロットル位置閉認識なし
20%	全開スロットル認識なし
30%	エンジン冷却温 70°C以下あるいは、110°C以上
40%	未使用
50%	入力信号問題なし
60%	エンジン始動時に TN 信号(rpm)、あるいはクラムシャフト位置センサ信号がない
70%	スタータがエンゲイジしている。
80%	CAN データ交換に欠陥
90%	燃料安全停止アクティヴ

ON-OFF 率テスターによるラムダ制御システム試験

ラムダ制御システムの機能は ON-OFF 率テスターでチェックできます。ON-OFF 率試験は欠陥メモリに記憶されていない、一時的瞬時的な欠陥を認識するのにも用いることができます。点火時に起きる欠陥、あるいはエンジンがアイドリング中に起きる欠陥とは区別されます。ON-OFF 率は ON-OFF 率テスターかあるいは、インパルス･カウンター･スキャン･ツールのいずれかでチェックできます。50%の指示があるか、あるいは指針の振動があれば、すべての入力信号もラムダ制御モデュールにも問題がないことを意味します。10%から 95%の指示は特定欠陥個所を示します。(故障コード表を参照してください)
さらに、ON－OFF 率試験の後、インパルス･カウンター･スキャン･ツールを用いて DTC 指示を行使してください。

ON-OFF 率試験：エンジンはアイドリング
試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“P”の駐車
1．ON-OFF 率テスターを接続してください。
2．点火：ON
3．エンジンはアイドリング
4．ON-OFF 率が 50%以外の数値であるか、あるいは指針が振れていなければ、故障コード表を参照して、潜在原因を探ってください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
給油、セクション 3.1、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
10%	閉のスロットル位置認識は常時適用されている。
20%	各インジェクタ出力、あるいは、1 か 2 以上の燃料給油器の回路が開
30%	エンジン冷却温センサ(B11/2)
40%	熱線付き吸気センサ
50%[1)]	酸素センサ(G3/2)が機能していないか、あるいはセンサ自体に欠陥、または回路が開
60%	カムシャフト位置センサ(L5/1)
70%	TN 信号(rpm)
80%	CAN データ交換に欠陥
90%	車輌速度信号
95%	減速停止アクティヴ

1) すべてのモニタされた信号に問題がなければ指針が振動します。

DTC readout(LH-SFI)
Model Year 1992
Model 124.034 140.042
124.036 140.043
129.067 140.051

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：DTC 指示を読み取る前に、ON-OFF 率試験を行ってください。
欠陥メモリ読み取りはエンジン OFF および点火 ON の状態で行ってください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際、LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、メモしてください。
この際指示“ 1 ”はシステム内に記憶された欠陥が皆無であること、数値が“ 1 ”より大きければシステム内に欠陥が存在することを意味します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にさらに欠陥がなければ、前にスクリーンに示された DTC が再度現れます。もし追加的欠陥が存在すれば、その各々に応じた DTC が示されます。
６．最初に示された数値が繰り替えされるまでステップ 5 を繰り返してください。
８．DTC の読み取りから追加的欠陥をすべてメモしておいてください。
９．故障問題処理表および診断試験にしたがってメモしておいたすべての欠陥(DTC 指示)を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理の後、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC はそれぞれ別個に消去してください。
11. 点火を OFF にして 30 秒間待ってください。
欠陥が除去され、各々の DTC 指示が消去されていれば、DTC 支持を行っても DTC はスクリーンには表されません。示される数値が 1 よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを意味します。さらに問題が出れば､すべての追加的な修理を行う前に DTC メモリを読み取り欠陥を除去してください。
インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験の前に ON-OFF 率試験を行ってください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
給油、セクション 3.1、診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	エンジン冷却温センサ(B11/2)回路 1 開、あるいは短絡
3	エンジン冷却温センサ(B11/2)回路 2 開、あるいは短絡
4	熱線付き吸気量センサ(B2/2)電圧が不十分か、あるいは高すぎる
5	未使用
6	未使用
7	TN 信号(rpm)が不正確か、あるいは回路が開か、短絡
8	カムシャフト位置センサ(L5/1)信号、回路開か、短絡
9	スタータ信号(回路 50)欠落、回路開か、短絡
10	電子アクセル制御モデュールからの閉のスロットル位置認識、回路に短絡
11	給気システム、回路開か、短絡
12	熱線付き吸気量センサ制御不可、回路開か、短絡
13	吸気温センサ(B17/7),回路開か、短絡
14	未使用
15	未使用
16	EGR 切替えバルブ(Y27)、回路開か、短絡
17	電子アクセスモデュール(N1/3)からのデータのトランスミッション皆無
18	点火制御モデュール(N1/3)からのデータのトランスミッション皆無
19	未使用
20	SFI 制御モデュール(N3/1)からのデータのトランスミッション皆無
21	酸素センサ(G3/2)、回路開
22	酸素センサ･ヒータ、回路開、短絡
23	パージ切替えバルブ(Y58/1)、回路開、短絡
24	左側の可調整カムシャフト･タイミング･ソレノイド（Y49/１)、回路開か、短絡
25	右側の可調整カムシャフト･タイミング･ソレノイド(Y49 および Y49/2)、回路開か、短絡
27	各インジェクタ(Y62)、回路開か、短絡
28	未使用
32	未使用

Base module(BM)
Model Year 1992ー1993
Model 124.034 140.042
124.036 140.043
129.067 140.051

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：DTC 指示を読み取る前に、ON-OFF 率試験を行ってください。
過電圧保護リレーあるいは車輌バッテリの接続を外しても、ベイス･モデュール(N16/1)の DTC メモリはアクティヴに維持されます。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。

２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、メモしてください。
この際指示“１”はシステム内に記憶された欠陥が皆無であること、数値が“１”より大きければシステムないに欠陥が存在することを示しています。
５．再び始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。もしシステム内にさらに欠陥がなければ、前にスクリーンに示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、それに相当した DTC が示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的欠陥をすべてメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、メモしておいた欠陥(DTC 指示)をすべて除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．点火：ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから、さらに始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、各々の DTC 読み取りが消去されれば、DTC 読み取りを行う際には、DTC はスクリーンには示されません。
さらに､問題が出ればすべての追加的修理をする前にも DTC メモリを読み取り欠陥を処理してください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
給油、セクション 3.1、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
5	モデュール･ボックスにおける最大許容温度超過
6	電磁 A/C コンプレッサ･クラッチが阻止されている
7	V ベルトのすべり
9	LH-SFI 制御モデュール(N3/1)への電圧供給が阻止されている。
10	LH-SFI 制御モデュール(N3/1)への電圧供給が阻止されている。 各インジェクタ･バルブへの電圧供給が阻止されている。
11	付随装置制御モデュールへの電圧供給が阻止されている。
12	ABS 制御モデュール(N30)、ABS･AST 制御モデュール(N30/1)あるいは ASD 制御モデュール(N30/2)への電圧供給が阻止されている。
15	キックダウン･バルブ(Y3)への電圧供給が阻止されている。
16	電磁 A/C コンプレッサ･クラッチ(A9k1)への電圧供給が阻止されている。
17	モデュール･ボックス･ブロウア･モータ(M2/2)への電圧供給が阻止されている。

Diagnostic module(DM)
Model Year 1992－1993
Model 124.034 140.042
124.036 140.043
119.067 140.051

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーン上の DTC を読み取って、メモしてください。指示“1”は記憶された欠陥が皆無であること“1”より大きい数値はシステム内に欠陥が存在することを意味しています。
５．始動ボタンを再度 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にさらに欠陥がなければ、前に示された数値が再び現れます。追加の欠陥が存在すれば、その各々の故障コードがスクリーンに示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC 読み取りからすべての追加的な欠陥をメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、すべてのメモしてある欠陥(DTC 指示)を除去してください。
欠陥消去法：
欠陥を除去した後、それぞれの DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。欠陥が除去され、その各々の DTC 指示が消去されれば、DTC 指示を行う際には DTC はスクリーンには示されません。指示される DTC が 1 より大きいければシステム内にさらに欠陥が存在することを示します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、セクション 8.1
診断モデュール、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	酸素センサ機能不全
3	ラムダ制御不可
4	給気システム不可
5	排気ガス再循環不可
6	アイドリング速度制御不可
7	点火システムに欠陥
8	エンジン冷却温センサ回路開か、短絡
9	吸気温センサ回路開か、欠陥
10	吸気量センサ電圧が高すぎるか、低すぎる
11	TN 信号(rpm)に欠陥
12	酸素センサ・ヒータ回路開か、短絡
13	点火制御モデュールからのカムシャフト位置センサ信号に欠陥
14	始動の際の吸気管圧が低すぎる
15	全開スロットル情報に欠陥
16	閉のスロットル位置情報に欠陥
17	各々の制御モデュール間のデータ交換に欠陥
18	可調整カムシャフト・タイミング・ソレノイド回路開か、短絡
19	各インジェクター回路開か、短絡、あるいは、排気制御システム順応に限界
20	車体速度信号欠落
21	パージ切替えバルブ回路開、あるいは短絡
22	カムシャフト位置センサ信号に欠陥
23	エンジン運転中の吸気管圧が低すぎる
24	スタータ・リング・ギアの歯車に欠陥
25	各ノック・センサに欠陥
26	アップシフト遅延切替えバルブ回路開か、短絡
27	センサ回路 1 およびセンサ回路 2 の間のエンジン冷却温センサにずれ(逸脱)
28	エンジン冷却温センサ(エンジン冷却温変更モニタ)

On-off ratio test(LH-SFI)
Model Year 1992－1993
Model 140.057 140.076

欠陥メモリによる診断

エンジン始動あるいは、運転時に生ずる欠陥は欠陥カウンターによって記録されます。欠陥はその深刻性の程度によって特定の数値で範疇ずけられます。(たとえば、数値 128 は吸気量センサに、また 32 はエンジン冷却温センサに欠陥が存在することを意味します) 欠陥カウンターは段階的に上限値 128 まで計測し、また一時的と同時にそれほど深刻性のない欠陥は点火を OFF にした後、メモリに記憶されます。例えば、数値 32 が与えられているエンジン冷却温センサの欠陥は上限値 128 の欠陥として計測されるためには 4 回繰り返して欠陥が起きなければなりません。そのときにおいてのみ、欠陥カウンターはその欠陥をメモリに記録します。エンジンの運転に影響を及ぼす欠陥は（例えば、数値 128 かあるいはそれ以上の数値が与えられている欠陥）点火 OFF の後、欠陥カウンターに即時に記録されます。続いて、エンジン始動あるいは、運転中に欠陥がなければ、エンジンが OFF されるごとに、欠陥カウンターによって、記録された合計数値から 1 だけ差し引かれます。この手順は欠陥カウンターがクリアされるまで、自動的に引き続いて繰り返されます。
エンジンの始動を妨げたり、その運転に深刻な影響を与えるような欠陥のみが即時メモリに記憶されます。欠陥メモリはバッテリの接続が外されても消去されません。

試験条件

・エンジン冷却温約 80℃
・A/C OFF
・選択レバー位置“ P ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．エンジン：OFF
３．点火：ON
４．50%以外の数値がスクリーンに現れれば、故障コード表を参照して潜在原因を探ってください。
ラムダ制御システムの機能は ON-OFF 率試験でチェックできます。ON-OFF 率試験は欠陥メモリには記憶されていない一時的な欠陥を認識するのにも用います。各々の欠陥は点火 ON の際に生起するものおよびエンジンがアイドリング状態の時に起きるものとに区別されます。ON-OFF 率は ON-OFF 率テスターあるいは診断試験ユニットによりチェックできます。50%の読み取り、あるいは指針の振動はすべての入力信号も、またラムダ制御モデュールにも問題がないことを示します。
10%から 95%の指示は特定個所に欠陥が存在することを意味します。(故障コード表参照)さらに、ON-OFF 率試験の後、インパルス･カウンターを用いて DTC 読み取りを行ってください。

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
10%	スロットル位置閉認識なし
20%	全開スロットル認識なし
30%	エンジン冷却温 70°C以下あるいは、110°C以上
40%	未使用
50%	入力信号問題なし
60%	エンジン始動時に TN 信号(rpm)、あるいはクラムシャフト位置センサ信号がない
70%	スタータがエンゲイジしている。
80%	CAN データ交換に欠陥
90%	燃料安全停止アクティヴ

ON-OFF 率試験：エンジンはアイドリング

試験条件

・エンジン冷却温約 80°C
・A/C OFF
・選択レバー位置“ P ”の駐車
１．ON-OFF 率テスターを接続してください。
２．エンジンはアイドリング
３．50%以外の数値がスクリーンに現れれば、故障コード表を参照して潜在原因を探ってください。
注：各々のシリンダー･バンクの欠陥メモリは診断ソケット X11/2 および X11/3 を用いて読み取ってください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 120LH 給油、
セクション 3.2、診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

ON-OFF 率	考えられる原因
10%	閉のスロットル位置認識は常時適用されている。
20%	各インジェクタ出力、あるいは、1 か 2 以上の燃料給油器の回路が開
30%	エンジン冷却温センサ(B11/9 あるいは B11/10)
40%	熱線付き吸気センサ(B2/3 あるいは B2/4)
50%[1)]	酸素センサ(G3/2)あるいは(G3/3)が機能していないか、あるいはセンサ自体に欠陥、または回路が開
60%	カムシャフト位置センサ(L5/2 あるいは L5/3)
70%	TN 信号(rpm)
80%	CAN データ交換に欠陥
90%	車輌速度信号
95%	減速停止アクティヴ

1) すべてのモニタされた信号に問題がなければ指針が振動します。

DTC readout(LH-SFI)
Model Year 1992－1993
Model 140.057
140.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：ON-OFF 率試験は DTC 指示を読み取る前に行ってください。
DTC メモリ読み取りはエンジン OFF または点火は ON の状態で行ってください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーン上の DTC を読み取って、メモしてください。指示“1”は記憶された欠陥が皆無であること“1”より大きい数値はシステム内に欠陥が存在することを意味しています。
５．始動ボタンを再度 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にさらに欠陥がなければ、前に示された数値が再び現れます。追加の欠陥が存在すれば、その各々の故障コードがスクリーンに示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
８．DTC 読み取りからすべての追加的な欠陥をメモしてください。
９．故障問題処理表および診断試験にしたがって、すべてのメモしてある欠陥(DTC 指示)を除去してください。
DTC メモリ消去
欠陥を除去した後、それぞれの DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。その後、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
11. 点火を OFF にして 30 秒待ってください。
欠陥が除去され、その各々の DTC 指示が消去されれば、読み取りを行っても DTC は表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい数値であれば、システム内にさらに欠陥が存在することを意味します。問題がさらに出れば、すべての追加的修理に移る前にも欠陥メモリを読み取り、処理してください。

参照：診断取扱説明書、モデル 129,140、エンジン第 2 巻
エンジン 120LH 給油、セクション 3.2、診断“欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	エンジン冷却温センサ(B11/9)あるいは、(B11/10)回路 1 開か、短絡
3	エンジン冷却温センサ(B11/9)あるいは、(B11/10)回路 2 開か、短絡
4	熱線付き吸気量センサ(B2/3)あるいは(B2/4)の電圧が不十分か、高すぎる
5	未使用
6	未使用
7	TN 信号(rpm)が不正確か、回路開か、短絡
8	カムシャフト位置センサ(L5/2)、(L5/3)信号、あるいは回路開か、短絡
9	スタータ信号(回路 50)の欠落、回路開か、短絡
10	電子アクセル制御ユニットからの閉のスロットル位置認識、回路に短絡
11	給気システム、回路開か、短絡
12	熱線付き吸気量センサ制御不能、回路開か、短絡
13	吸気量センサ(B17/5)、(B17/6)回路開か、短絡
14	未使用
15	未使用
16	EGR 切替えバルブ(Y27/2)(Y27/3)回路開か、短絡
17	電子アクセル制御モデュール(N1/4)からのデータ・トランスミッション皆無
18	点火制御モデュール(N1/4)、(N1/5)からのデータ・トランスミッション皆無
19	左側 LH-SFI 制御モデュール(N3/2)から右側 LH-SFI 制御モデュール(N3/3)へのデータ・トランスミッション皆無
20	LH-SFI 制御モデュール(N3/2)、(N3/3)からのデータ・トランスミッション皆無
21	酸素センサ(G3/3)、(G3/4)回路開
22	酸素センサ・ヒータ回路開か、短絡
23	パージ切替えバルブ(Y58/2)、(Y58/3)回路開か、短絡
24	未使用
25	可調整カムシャフト・タイミング・ソレノイド(Y49/1)、(Y49/2)回路開か、短絡
27	インジェクター(Y63)、(Y64)回路開か、短絡
28	未使用
32	未使用

DTC readout(BM)
Model Year 1992－1993
Model 140.057
140.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：DTC 指示を読み取る前に、ON-OFF 率試験を行ってください。
過電圧保護リレーあるいは車輌バッテリの接続を外しても、ベイス･モデュール(N16/1)の DTC メモリはアクティヴに維持されます。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、メモしてください。
この際指示“１”はシステム内に記憶された欠陥が皆無であること、数値が“１”より大きければシステムないに欠陥が存在することを示しています。
５．再び始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。もしシステム内にさらに欠陥がなければ、前にスクリーンに示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、それに相当した DTC が示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的欠陥をすべてメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、メモしておいた欠陥(DTC 指示)をすべて除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．点火：ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから、さらに始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
11. 点火を OFF にして 30 秒間待ってください。
欠陥が処理され、各々の DTC 読み取りが消去されれば、DTC 読み取りを行う際には、DTC はスクリーンには示されません。
さらに､問題が出ればすべての追加的修理をする前にも DTC メモリを読み取り欠陥を処理してください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 120LH
給油、セクション 3.2、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
5	モデュール･ボックスの最大許容温度を超過している
6	電磁 A/C コンプレッサ･クラッチが阻止されている
7	V ベルトにすべり
8	LH-SFI 制御モデュール(N3/2)への電圧供給が阻止されている。
9	LH-SFI 制御モデュール(N3/3)への電圧供給が阻止されている。
10	LH-SFI 制御モデュール(N3/3)への電圧供給が阻止されている。 各インジェクター(Y64)への電圧供給が阻止されている。
11	各付属装置制御モデュールへの電圧供給が阻止されている。
12	ABS 制御モデュール(N30)への電圧供給が阻止されている。
13	LH-SFI 制御モデュール(N3/2)への電圧供給が阻止されている。 各インジェクター(Y63)への電圧供給が阻止されている。
15	キックダウン･バルブ(Y63)への電圧供給が阻止されている。
16	電磁 A/C コンプレッサ･クラッチ(A9k1)への電圧供給が阻止されている。
17	モデュール･ボックス･ブロウア･モータ(M2/2)への電圧供給が阻止されている。

DTC readout(DM)
Model Year 1992－1993
Model 140.057
140.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照の詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、メモしてください。
この際指示“１”はシステム内に記憶された欠陥が皆無であること、数値が“１”より大きければシステムないに欠陥が存在することを示しています。
５．再び始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。もしシステム内にさらに欠陥がなければ、前にスクリーンに示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、それに相当した DTC が示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的欠陥をすべてメモしてください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、メモしておいた欠陥(DTC 指示)をすべて除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから、さらに始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。DTC が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC 読み取りを行う際には DTC はスクリーンには示されません。もし DTC 指示の数値が 1 より大きい場合はシステム内にさらに欠陥が存在することを示します

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、セクション 8.1、診断モデュール、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	右側酸素センサ(G3/4)機能不全
3	右側 LH-SFI 制御モデュール(N3/3)のラムダ制御機能不全
4	右シリンダ・バンクの給気機能不全
5	右 LH-SFI 制御モデュール(N3/3)の排気ガス再循環機能不全
6	アイドリング速度制御機能不全
7	右シリンダー・バンク点火システム機能不全
8	右エンジン冷却温センサ(B11/10)回路開か、短絡
9	右吸気温センサ(B17/6)回路開か、短絡
10	右吸気量センサ(B2/4)の電圧が高すぎるか、低すぎる。
11	右 LH-SFI 制御モデュール(N3/3)における TN 信号(rpm)に欠陥
12	右酸素センサ(G3/2)の酸素センサ・ヒータ回路開か、短絡
13	右点火制御モデュール(N1/5)のカムシャフト位置センサ信号に欠陥
14	始動時の吸気管圧(右点火制御モデュール N1/5)が低すぎるか、高すぎる
15	全開スロットル情報に欠陥
16	閉のスロットル位置情報に欠陥
17	右制御モデュール LH-SFI(N3/3)、点火制御モデュール(N1/5)および電子アクセル(N4/1)の間のデータ交換に欠陥
18	右か調整カムシャフト・タイミング・ソレノイド(Y49/2)回路開か、短絡
19	各右側インジェクター(Y64)回路開か、短絡、あるいは右 LH-SFI 制御モデュール(N3/3)の排気ガス制御システムの順応が限界にある
20	車輌速度信号欠落
21	右パージ切替えバルブ(Y58/3)回路開か、短絡
22	右カムシャフト位置センサ(L5/3)信号に欠陥
23	エンジン運転中の吸気管圧(右点火制御モデュール N1/5)に欠陥
24	スタータ・リング・ギアの歯車に欠陥
25	各ノック・センサーあるいは、右点火制御モデュール(N1/5)に欠陥
26	アップシフト遅延切替えバルブ(Y3/3)回路開か、短絡
27	回路 1 および回路 2 間の右エンジン冷却温センサ(B11/10)にずれ(逸脱)
28	右エンジン冷却温センサ(B11/10)に問題(エンジン冷却温変更モニタ)
34	左酸素センサ(G3/3)機能不全
35	左 LH-SFI 制御モデュール(N3/2)のラムダ制御に機能不全
36	左シリンダー・バンクの給気機能不全
37	左 LH-SFI 制御モデュール(N3/2)の排気ガス再循環機能不全
38	未使用
39	左シリンダー・バンク用点火システムに欠陥
40	左エンジン冷却温センサ(B11/9)回路開か、短絡
41	左吸気温センサ(B17/5)回路開か、短絡

故障コード	考えられる原因
42	左吸気流量センサ(B2/3)の電圧が高すぎるか、低すぎる
43	左 LH-SFI 制御モデュール(N3/2)の電圧が高すぎるか、低すぎる
44	左酸素センサ(G3/3)の酸素センサ・ヒータ回路開か、短絡
45	左点火制御モデュール(N1/4)のカムシャフト位置センサ信号に欠陥
46	始動時の吸気管圧(左点火制御モデュール)(N1/4)に欠陥
47	未使用
48	未使用
49	左 LH-SFI 制御モデュール(N3/2)および点火制御モデュール(N1/4)間のデータ交換に欠陥
50	左可調整カムシャフト・タイミング・ソレノイド(Y49/1)回路開か、短絡
51	各左側インジェクター(Y63)回路開か、短絡、あるいは左 LH-SFI 制御モデュール(N3/2)における排気制御システムの順応が限界にある。
52	未使用
53	左パージ切替えバルブ(Y58/2)回路開か、短絡
54	左カムシャフト位置センサ(L5/2)信号に欠陥
55	エンジン運転中の吸気管圧(左点火制御モデュール N1/4)が低すぎるか、高すぎる
56	スタータ・リング・ギア歯車あるいは、それと同時に左クランクシャフト位置センサ(L5/4)に欠陥
57	各ノック・センサ、あるいは左点火制御モデュール(N1/4)に欠陥
58	未使用
59	回路 1 および回路 2 間の左エンジン冷却温センサ(B11/9)にずれ(逸脱)
60	左エンジン冷却温センサ(B11/9)(エンジン冷却温変更モニタ)に問題

DTC readout(HFM-SFI)
Model Year 1993
Model 124.028
124.032
124.052
124.092

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

DTC 指示に関しての注：HFM-SFI システム用エンジン制御モデュール(3/4)には DTC メモリにが備わっています。各々の欠陥が認識され、故障コードとして記憶されます。これらの欠陥は下記のように区別されます。
・常時存在する欠陥
・3 秒間以上持続して生起する欠陥
・一度のトラブル中に 5 回起きる断続的なコンタクトの欠陥
DTC のメモリは車輌のバッテリの接続が外されてもアクティヴの状態で維持されます。
処理済みの存在しない欠陥は、最大 19 回のトラブルの後には自動的に再び消去されます。この場合トラブルの限定条件は下記のとおりです。
・車輌速度 2.5mph
・エンジン速度 700rpm 以上
・エンジン停止 30 秒間
記憶された DTC は点火 ON かあるいは、エンジンをかけた状態で診断コネクタ(X11/4)で読み取ってください。

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験準備

インパルス･カウンター･スキャン･ツールを診断連繋コネクタ(X11/4)に接続してください。
注：この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照の詳細試験を参考にして下さい。
１．点火：ON
２．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
３．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、メモしてください。
４．再び始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
５．DTC を読み取り、記録してください。
６．最初に示された DTC がスクリーンに再度現れるまでステップ４、５を繰り返してください。
DTC メモリ消去法：
１．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください(DTC が再び現れます)
２．3 秒間待ってから、始動ボタンを 5 秒から 6 秒間押してください。この操作で前にスクリーンに示された DTC がメモリからクリアされます。
３．ステップ 1、２を DTC“１”が現れるまで繰り返してください。(記憶された欠陥皆無)
エンジン制御モデュールのリセットおよびリアクティヴェイト：
１．DTC メモリをクリアしてください。
２．DTC“１”が現れたあと始動ボタンを 8 秒から 9 秒間押してください。
３．点火を OFF にして少なくとも 2 秒間待ってください。
４．点火を ON にして 10 秒間待ち、エンジンを始動してください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,HFM-SFI
セクション 1、診断“ DTC メモリ ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	エンジン冷却温センサ(B11/3)
3	吸気温センサ(B17)
4	熱線付きホット・フィルム吸気流量センサ（B2/5）
5	電子アクセル・アクチュエータ(M16/1)の閉のスロットル位置スイッチ(M16/1s1、あるいは M16/2r2)、あるいはクルーズ制御/アイドリング速度制御アクチュエータ(M16/2)
6	電子アクセル・アクチュエータ(M16/1)のスロットル・ボディ実際値電位差計(M16/1s2、あるいは M16/2r2)、あるいはクルーズ制御/アイドリング速度制御アクチュエータ(16/2)
7	電子アクセル・アクチュエータ(M16/1)のアクチュエータ・レファランス電位差計(M16/1r1、あるいは M16/2r1)、あるいはクルーズ制御/アイドリング速度制御アクチュエータ(M16/2)
8	アイドリング速度制御システム(ISC)に欠陥
9	酸素センサ(G3/2)加熱あるいは、回路開
10	未使用
11	酸素センサ(G3/2)の酸素センサ・ヒータ
12	未使用
13	ラムダ制御システム限界濃薄でオペレートしている
14	インジェクタ(Y62y1)、シリンダ 1
15	インジェクタ(Y62y2)、シリンダ 2
16	インジェクタ(Y62y3)、シリンダ 3
17	インジェクタ(Y62y4)、シリンダ 4
18	インジェクタ(Y62y5)、シリンダ 5
19	インジェクタ(Y62y6)、シリンダ 6
20	限界濃薄で順応
21	点火出力 1 あるいは、シリンダ 2 および 5 用点火コイル(T1/1)
22	点火出力 2 あるいは、シリンダ 3 および 4 用点火コイル(T1/2)
23	点火出力 3 あるいは、シリンダ 1 および 6 用点火コイル(T1/3)
24	クランクシャフト位置センサ(L5)あるいは、位置センサ用マグネットが認識されていない
25	クランクシャフト位置センサ(L5・1)
26	未使用
27	TN 信号(rpm)回路に短絡
28	未使用
29	未使用
30	燃料ポンプ・リレー・モデュール(K27)
31	未使用
32	ノック・センサ 1 および 2(A16)
33	少なくとも、一つのシリンダにおける最大遅延セッティング状態に到達している、あるいは各々のシリンダ間の点火角度のずれが 6 ° 以上のクランクシャフト角度になっている
34	エンジン制御モデュール(3/4)のノック制御-出力スイッチに欠陥

故障コード	考えられる原因
35	二次給気ポンプ給気切り替えバルブ(Y32)あるいは、二次電磁給気ポンプ・クラッチ(Y33)
36	パージ切替えバルブ(Y58/1)
37	アップシフト遅延切替えバルブ(Y3/3)
38	可調整カムシャフト・タイミング・ソレノイド(Y49)
39	EGR 切替えバルブ(Y27)
40	トランスミッション過負荷保護スイッチ(S65)
41	エンジン制御モデュール(3/4)からの CAN コミュニケーションに問題
42	電子アクセル/クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール(N4/1)からの CAN コミュニケーションに問題、あるいはクルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール(4/3)あるいは診断モデュール(N59)に欠陥
43	スタータ信号(回路 50)が存在しない
44	未使用
45	燃料安全停止電子アクセルあるいは、クルーズ制御がアクティヴになっている
46	レゾナンス(同周期振動)吸気管切替えバルブ(Y22/6)
47	未使用
48	未使用
49	エンジン制御モデュール(N3/4)の電圧供給が 8V 以下になっている
50	エンジン制御モデュール(N3/4)

DTC readout(HFM-SFI)
Model Year 1993
Model 124.028
124.032
124.052
124.092

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験準備

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツール･アダプタ(X11/4)を接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照の詳細試験を参考にして下さい。
２．点火：ON
３．DTC を読み取り、記録してください。
４．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
５．スクリーンに示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
６．最初に示された DTC がスクリーンに再度現れるまでステップ４、５を繰り返してください。
DTC メモリ消去法：
注:診断モデュールの維持されてきたDTCメモリ除法は車輌のバッテリ(DM電圧供給)接続を外した後に、クリアされるメモリに置き換わっています。さらに、DTC 指示“１”(システム内に欠陥皆無)は DTC メモリをクリアした後(車輌バッテリ接続を外して)にはスクリーンは現れません。DTC 指示“１”は、診断モデュールがすべてのモニタされたシステムおよびその各々のコンポーネントが然るべく機能している(欠陥皆無)と確認した後に引き続く車輌のトラブルがある時においてのみスクリーンに現れます。

参照：診断取扱説明書、モデル 129 および 140、エンジン第 3 巻
エンジン 104,HFM-SFI、セクション 8.4、診断“DM”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	加熱した酸素センサ機能不全
3	ラムダ制御機能不全
4	給気システム機能不全
5	排気ガス再循環機能不全
6	アイドリング速度制御機能不全
7	点火システムに欠陥
8	エンジン冷却制御センサ回路開か、短絡
9	吸気温センサ回路開か、短絡
10	熱線吸気流量センサ電圧が高すぎるか、低すぎる
11	エンジン制御モデュールにおける TN 信号(rpm)に欠陥
12	加熱酸素センサ・ヒータ回路開か、短絡
15	全開スロットル情報に欠陥
16	閉のスロットル位置情報に欠陥
17	各々の制御システム間のデータ交換に欠陥
18	可調整カムシャフト・タイミング・ソレノイド回路開か、短絡
19	各インジェクタ回路開、短絡、あるいはエンジン制御モデュール(3/4)の排気制御システム順応に限界
20	車輌速度信号欠落
21	パージ切替えバルブ回路開か、短絡
22	カムシャフト位置センサ信号に欠陥
23	エンジンをかけた状態のベイス・モデュール圧力センサ(B5/2)の吸気管圧が低すぎるか、高すぎる
24	スタータ・リング・ギアの歯車および、クランクシャフト位置センサに欠陥
25	各ノック・センサあるいは、エンジン制御モデュールに欠陥
26	アップシフト遅延に欠陥
27	未使用
28	エンジン冷却温センサ(エンジン冷却温変更モニタ)
44	未使用
45	燃料安全停止電子アクセルあるいは、クルーズ制御がアクティヴになっている
46	レゾナンス(同周期振動)吸気管切替えバルブ(Y22/6)に問題
47	未使用
48	未使用
49	エンジン制御モデュール(N3/4)における電圧供給が 8V 以下
50	エンジン制御モデュール(N3/4)

DTC readout(DI)
Model Year 1990ー1993
Model 124.051 129.061

インパルス･カウンター･スキャン･ツールによる DTC 読み取り

・点火制御モデュール(N1/3)には DTC メモリが装備されてはいませんから、制御モデュール(N1/3)は後日復帰させるための欠陥は記憶できません。
・DTC の読み取りはエンジンをアイドリング状態においてのみ行います。
・システム各所に欠陥が存在するときには、DTC コードとして与えられた一番若い(最小)数値が最初スクリーンに示されます。
・DTC メモリは点火を OFF にすることによってクリアできます。
・エンジン運転中においては、スクリーン上の DTC は始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してクリアできます。

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験準備

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．真空ホースを EZL/AKR 点火制御モデュールに繋いで、エンジンをかけ 3100～3600rpm の間で少なくとも 8 秒間運転してください。
３．エンジンがアイドリングの状態で真空ホースを抜いてください。
４．エンジンはアイドリングのままでトランスミッション選択レバーを P/N からトランスミッションの“D”領域に移し、さらにレバーをもとに戻してください。
５．少なくても 2 秒間エンジンを 5000rpm にしてください。
６．エンジンがアイドリングの状態で真空ホースを再度繋いでください。
７．エンジンがアイドリング速度を約 2300rpm まで増速し、瞬時スロットルを全開(全開スロットル･コンタクトは瞬時閉じて)にしてください。
８．エンジンはアイドリング
注:点火が OFF になってしまえば､上記ステップ 1 からステップ 8 の全工程手順を繰り返してください。

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

９．インパルス･カウンタ･スキャン･ツールの始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
10. スクリーンに示された DTC 指示を読み取り、記録してください。指示“1”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“1”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
11. 始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もしシステム内にさらに欠陥が存在しなければ、前にスクリーンに示された指示が再び現れます。もし追加的な欠陥があれば、その各々に相応した DTC が指示されます。
12. 最初に示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 10 を繰り返してください。
13. DTC の読み取りからいかなる追加的な欠陥も記録しておいてください。
14. 故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を除去してください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119
CIS-E 給油、セクション 5.1、診断“欠陥メモリ”

欠陥メモリ消去法：
欠陥除去のあと、それぞれの DTC は下記のようにクリアしてください。
15. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して、DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 10 秒間押してください。
注：各々スクリーンに示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	少なくとも 1 個のシリンダにおいて、最大遅延セッティング状態に達している
3	エンジン冷却温センサ(B11/2)に欠陥
4	点火制御モデュール(N1/3)の負荷センサ
5	ノック･センサ(A16)1 および、2 に欠陥
6	カムシャフト位置センサ(L5/1)に欠陥
7	点火制御モデュール(N1/3)のノック制御-出力スイッチに欠陥
8	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が閉じない
9	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が開かない
10	点火制御モデュール(N1/3)から CFI 制御モデュールへのデータ交換に欠陥
11	レファンレンス･レジスタ(R16/2)に欠陥
12	TN 信号が許容領域外にある
13	全開スロットル･コンタクトが開かない
14	閉のスロットル位置コンタクトが開かない
15	点火制御モデュール(N1/3)からの点火コイル 1 の出力に欠陥
16	未使用
17	クランクシャフト位置センサ(L5)に欠陥

DTC readout(DI)
Model Year 1992－1993
Model 140.032

インパルス･カウンター･スキャン･ツールによる DTC 指示

・点火制御モデュール(N1/3)は DTC メモリを含んだ診断装置です。エンジン連続 8 回始動のあと、同じ欠陥が起きるときのみ、DTC がメモリに記録されます。つまり、欠陥が一度起きるだけでは DTC に記録されないということです。例えば、欠陥が 7 回起きるだけなら、欠陥カウンタは特定数のエンジン始動後には再びクリアされます。
注：DTC メモリは車輌のバッテリ接続が外されても、アクティヴに維持されます。

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
給油、セクション 5.2、診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	少なくとも 1 個のシリンダにおいて、最大遅延セッティング状態に達している
3	未使用
4	点火制御モデュール(N1/3)の負荷センサに欠陥
5	ノック･センサ(A16) 1 および、2 に欠陥
6	カムシャフト位置センサ(L5/1)に欠陥
7	点火制御モデュール(N1/3)ノック制御-出力スイッチに欠陥
8	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が閉じない
9	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が開かない
10	未使用
11	レファレンス･レジスタ(R16/2)に欠陥
12	TN 信号が許容領域外にある
13	未使用
14	未使用
15	点火制御モデュール(N1/3)からの点火コイル出力に欠陥
16	未使用
17	クランクシャフト位置センサ(L5)に欠陥
18	未使用
19	未使用
20	点火制御モデュール(N1/3)の DTC メモリに欠陥
21	点火制御モデュール(N1/3)の負荷センサに欠陥(エンジンをかけて状態で認識)
22	未使用
23	未使用
24	未使用
25	未使用
26	点火制御モデュール(N1/3)のデータ交換に欠陥
27	LH-SFI 制御モデュール(N1/3)のデータ交換に欠陥
28	電子アクセル制御モデュールおよびアイドリング速度制御データ交換に欠陥

DTC readout(DI)
Model Year 1990－1992
Model　129.066

インパルス･カウンターによるインパルスの読み取り

・EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)は診断整備ですが欠陥メモリは付属していません。制御ユニット(N1/3)は後日欠陥情報が復帰できるように情報の記憶はしません。
・インパルス指示はエンジンをアイドリングの状態においてのみ読み取ることができます。
・複数のシステム欠陥が存在すれば、最も若い数値(最小数値)を与えられた欠陥がスクリーンにまず表示されます。
・欠陥メモリは点火を OFF にすればクリアできます。
・エンジンをかけたままで始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押せば、スクリーン上の欠陥指示はクリアできます。

インパルス･カウンター試験準備

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．真空ホースを EZL/AKR 点火制御ユニットに繋いで、エンジンをかけ 3100～3600rpm の間で少なくとも 8 秒間運転してください。
３．エンジンがアイドリングの状態で真空ホースを抜いてください。
４．エンジンはアイドリングのままでトランスミッション選択レバーを P/N からトランスミッションの“D”領域に移し、さらにレバーをもとに戻してください。
５．少なくても 2 秒間エンジンを 5000rpm 以上で運転してください。
６．エンジンがアイドリングの状態で真空ホースを再度繋いでください。
７．エンジンがアイドリング速度を約 2300rpm まで増速し、瞬時スロットルを全開してください。(最大負荷コンタクトは瞬時閉じなければなりません)
８．エンジンはアイドリング
注:点火が OFF になってしまえば､上記ステップ 1 からステップ 8 の全工程手順を繰り返してください。

インパルス･カウンター試験

９．インパルス･カウンタ始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
10. スクリーンに示された DTC 指示を読み取り、記録してください。指示“1”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“1”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
11.　始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もしシステム内にさらに欠陥が存在しなければ、前にスクリーンに示された指示が再び現れます。もし追加的な欠陥があれば、その各々に相応した DTC が指示されます。
12. 最初に示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 10 を繰り返してください。
13. DTC の読み取りからいかなる追加的な欠陥も記録しておいてください。
14. 故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を除去してください。
注：各々の欠陥指示はそれぞれ別個に消去してください。

参照：診断取扱説明書、モデル 129 および 140、エンジン第 2 巻
　　エンジン 104,119CIS-E 給油、セクション 5.1、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	少なくとも 1 個のシリンダにおいて、最大遅延セッティング状態に達している
3	エンジン冷却温センサ(B11/2)に欠陥
4	EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/3)の負荷センサに欠陥
5	ノック･センサ(A16)1 および、2 に欠陥
6	カムシャフト位置センサ(L5/1)に欠陥
7	EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/3)のノック制御-出力スイッチに欠陥
8	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が閉じない
9	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が開かない
10	EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/3)から CIS-E 制御ユニットへのデータ交換に欠陥
11	レファンレンス･レジスタ(EZL-AKR)(R16/2)に欠陥
12	TN 信号速度信号が許容領域外にある
13	全開負荷コンタクトが開かない
14	アイドリング速度コンタクトが開かない
15	EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)からの点火コイル 1 の出力に欠陥
16	EZL/AKR 点火制御ユニット(N1/3)からの点火コイル 2 の出力に欠陥
17	クランクシャフト位置センサ(L5)に欠陥

DTC readout(DI)
Model Year 1992－1993
Model 124.034 140.042
124.036 140.043
140.051
129.067 140.070

インパルス･カウンター･スキャン･ツールによる DTC の読み取り

点火制御モデュール(N1/3)は DTC メモリを含んだ診断装置です。エンジン連続 8 回始動のあと、同じ欠陥が起きるときのみ、DTC がメモリに記録されます。つまり、欠陥が一度起きるだけでは DTC に記録されないということです。例えば、欠陥が 7 回起きるだけなら、欠陥カウンタは特定数のエンジン始動後には再びクリアされます。
注：DTC メモリは車輌のバッテリ接続が外されても、アクティヴに維持されます。

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 104,119LH
給油、セクション 5.2、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	少なくとも 1 個のシリンダにおいて、最大遅延セッティング状態に達している
3	未使用
4	点火制御モデュール(N1/3)の負荷センサに欠陥
5	ノック･センサ(A16) 1 および、2 に欠陥
6	カムシャフト位置センサ(L5/1)に欠陥
7	点火制御モデュール(N1/3)ノック制御-出力スイッチに欠陥
8	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が閉じない
9	トランスミッション過負荷スイッチ(S65)が開かない
10	未使用
11	レファレンス･レジスタ(R16/2)に欠陥
12	TN 信号が許容領域外にある
13	未使用
14	未使用
15	点火制御モデュール(N1/3)からの点火コイル 1 出力に欠陥 あるいは、点火コイルの主要巻回路開
16	点火制御モデュール(N1/3)からの点火コイル 2 出力に欠陥 あるいは、点火コイルの主要巻回路開
17	クランクシャフト位置センサ(L5)に欠陥
18	クランクシャフト位置センサ(L5)の各マグネットが認識されていない
19	未使用
20	点火制御モデュール(N1/3)の DTC メモリに欠陥
21	点火制御モデュール(N1/3)の負荷センサに欠陥(エンジンをかけて状態で認識)
22	未使用
23	未使用
24	未使用
25	未使用
26	点火制御モデュール(N1/3)のデータ交換に欠陥
27	制御モデュール(N1/3)のデータ交換に欠陥
28	電子アクセル制御モデュールおよびアイドリング速度制御データ交換に欠陥

DTC readout(DI)
Model Year 1992－1993
Model 129.076
140.057
140.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツールによる DTC の読み取り

点火制御モデュール(N1/3)は DTC メモリを含んだ診断装置です。エンジン連続 8 回始動のあと、同じ欠陥が起きるときのみ、DTC がメモリに記録されます。つまり、欠陥が一度起きるだけでは DTC に記録されないということです。例えば、欠陥が 7 回起きるだけなら、欠陥カウンタは特定数のエンジン始動後には再びクリアされます。
注：DTC メモリは車輌のバッテリ接続が外されても、アクティヴに維持されます。

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
８．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 2 巻、エンジン 120LH
セクション 5.3、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	少なくとも 1 個のシリンダにおいて、最大遅延セッティング状態に達している
3	未使用
4	点火制御モデュール(N1/4,N1/5)の負荷センサに欠陥
5	ノック･センサ 1 および、2 に欠陥
6	カムシャフト位置センサ(L5/2,L5/3)に欠陥
7	点火制御モデュール(N1/4,N1/5)ノック制御-出力スイッチに欠陥
8	トランスミッション過負荷スイッチ、ブレーク･バンド B1(S65)/ B2(S65/1)が閉じない
9	トランスミッション過負荷スイッチ、ブレーク･バンド B1(S65)/ B2(S65/1)が開かない
10	未使用
11	左/右リファランス･レジスター(点火制御モデュール)(R16/3,R16/4)に欠陥
12	TN 信号(エンジン rpm 出力)が許容領域外にある
13	未使用
14	未使用
15	左/右点火制御モデュール(N1/4,N1/5)からの点火コイル 1 の出力に欠陥、点火コイル主要巻回路開
16	未使用
17	左/右クランクシャフト位置センサ(L5/4,L5/5)に欠陥
18	未使用
19	グランド、EZL/AKR 点火制御モデュール(N1/4)からのコード情報欠落
20	左/右点火制御モデュール(N1/4,N1/5)の DTC メモリに欠陥
21	左/右点火制御モデュール(N1/4,N1/5)の負荷センサに欠陥(エンジンをかけた状態で認識)
22	未使用
23	未使用
24	未使用
25	未使用
26	左/右点火制御モデュール(N1/4,N1/5)のデータ交換に欠陥
27	左/右 LH-SFI 制御モデュール(N3/2,N3/3)のデータ交換に欠陥
28	電子アクセル制御モデュールおよびアイドリング速度制御データ交換に欠陥

DTC readout(ETC)
Model Year 1990－1993
Model　129.061

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
８．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、シャーシおよびドライブ･トレイン(動力伝達機構)第 1 巻
　　自動電子トランスミッション制御、セクション 2.1
　　診断“欠陥コード読み取り”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	未使用
3	負荷信号が阻止されている
4	スロットル･バルブ･スイッチ(電位差計)が阻止されている
5	エンジン速度信号が阻止されている
6	車輌速度信号が阻止されている
7	5 段速自動トランスミッション制御モデュール(N15/1)の出力に欠陥か、制御バルブ回路(Y3/1y2)に欠陥
8	5 段速自動トランスミッション制御モデュール(N5/1)
9	制御バルブ(Y3/1y2)
10	制御バルブ(Y3/1y2)回路に短絡

DTC readout(ETC)
Model Year 1990－1993
Model　140.032

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

トランスミッション制御モデュール(N15/1)の DTC メモリを読み取ってください
点火制御モデュール(N1/3)あるいはベイス･モデュール(N16/1)も同時に DTC 試験してください。何らかの欠陥が出れば、下記参照を参考にしてください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、シャーシおよびドライブ･トレイン(動力伝達機構)第 1 巻
　　自動電子トランスミッション制御、セクション 2.2
　　診断“欠陥コード読み取り診断取扱説明書”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	未使用
3	トランスミッション過負荷スイッチ 4GR/5GR 各ギアに欠陥
4	電子アクセル･クルーズ制御モデュール(N4/1)への CAN データ･ライン
5	イグニッション･コントロールモデュール(N1/3)への CAN データ･ライン
6	CAN データ･ライン回路開か、短絡
7	制御バルブ(Y3/1y2)あるいはトランスミッション制御モデュール(5 段速自動)(N15/1)における回路開
8	5 段速自動トランスミッション制御モデュール(N5/1)
9	制御バルブ(Y3/1y2)
10	制御バルブ(Y3/1y2)回路に短絡

DTC readout(4MATIC)
Model Year 1990ー1993
Model　124.230
　　124.290

DTC 指示に関しての注：

DTC 読み取りができず、４MATIC 指示ランプが点灯したままの状態は油圧システムに欠陥があるか、あるいは４MATIC 制御モデュール N30/3 および X11/4、ソケット 5 間の回路開であることを示唆しています。
注：インパルス･カウンター･スキャン･ツールを用いる前、あるいは使用中においてはバッテリ、過電圧保護リレー、４MATIC 制御モデュール(N30/3)の接続を外さないでください。記憶された DTC がメモリから消去されないようにするためです。
注：DTC 読み取り表示が機能するためには、4MATIC 機能/試験選択スイッチ(S7/3)は試験位置ではなく、機能位置にしておいてください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．エンジンはアイドリング
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書第 3 巻、４MATIC セクション、4M-01.01
　　1990 年モデル取扱説明書初歩、モデル 124.230/290
　　4MATIC 自動 4 輪駆動、グループ 28
　　セクション“A”、インパルス・カウンターによる電気系統試験

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	４MATIC 制御モデュール(N30/3)
3	ブレーキ・ランプ・スイッチ(S9/7)
4	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
5	右前輪アクセル速度センサ(L6/2)
6	後部速度センサ(L6)
7	前後輪速度センサ
8	過電圧保護リレー(K1/2)および前輪アクセル駆動バルブ(A7/2y1)
9	過電圧保護リレー(K1/2)およびセントラル・ディファレンシャル・ロック・バルブ(A7/2y2)
10	過電圧保護リレー(K1/2)、停止ランプ・スイッチ(S9/1)、および後輪アクセル・ディファレンシャル・ロック・バルブ(A7/2y3)
11	ハンドル角センサ(N49)

DTC readout(CC/ISC)(w/o ASR)
Model Year 1992－1993
Model 140.032

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 3 巻
給油、セクション 7.1、診断“ 欠陥メモリ ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール(N4/3)
3	クルーズ制御/アイドリング速度制御アクチュエータ(M16/2)
4	クルーズ制御スイッチ(S40)
5	ブレーキ･ランプ･スイッチ(S9/1)
6	スタータ･ロックアウト/バックアップ･ランプ･スイッチ(S1/3)
7	データ･バス(CAN)
8	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
9	左後輪アクセル速度センサ(L6/3)
10	エンジン速度信号(rpm)(TNA)
11	LH-SFI 制御モデュールへの燃料安全停止
12	クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュールの電圧供給

DTC readout(EA/CC/ISC)(w/ASR)
Model Year 1992－1993
Model 140.032

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 3 巻
エンジン 104LH 給油、セクション 6.2、診断“欠陥メモリ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	電子アクセル/クルーズ制御/アイドリング速度モデュール(N4/1)
3	電子アクセル･アクチュエータ(M16/1)
4	クルーズ制御スイッチ(S40)
5	ブレーキ･ランプ･スイッチ(S9/1)
6	スタータ･ロックアウト/バックアップ･ランプ･スイッチ(S16/3)
7	データ･バス(CAN)
8	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
9	左後輪アクセル速度センサ(L6/3)
10	エンジン速度信号(rpm)(TNA)
11	LH-SFI 制御モデュールへの燃料安全停止
12	EA/CC/ISC 制御モデュール電圧供給
13	未使用
14	閉のスロットル位置スイッチ(S29/3)

DTC readout(CC/ISC)(w/o ASR)
Model Year 1993
Model 124.028
124.032
124.052
124.092

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．DTC メモリ読み取り法：
a) 点火：ON
b) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
c) スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。
d) 始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。
e) DTC を読み取ってください
f) 最初にスクリーンに表示された DTC が再度あらわれるまで、上記ステップ d および e を繰り返してください。
３．DTC メモリをクリアしてください。
注：記憶された DTC のクリアは DTC 読み取りから 20 秒間以内に行ってください。20 秒以上経過しますと DTC は消去されなくなります。
a) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。この間に DTC が表示されます。
b) 3 秒間おいてから、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。この操作により、前にスクリーンに表示された故障コードがメモリからクリアされます。
c) 各々記憶された DTC はそれぞれ別個にクリアしてください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 3 巻、エンジン 104、HFM-SFI
セクション 7.3、診断-CC/ISC、エンジン第 2 巻セクション 0

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	電子アクセル/クルーズ制御/アイドリング速度モデュール(N4/1)
3	電子アクセル･アクチュエータ(M16/1)
4	クルーズ制御スイッチ(S40)
5	ブレーキ･ランプ･スイッチ(S9/1)
6	スタータ･ロックアウト/バックアップ･ランプ･スイッチ(S16/2)
7	データ･バス(CAN)
8	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
9	左後輪アクセル速度センサ(L6/3)
10	エンジン速度信号(rpm)(TNA)
11	LH-SFI 制御モデュールへの燃料安全停止
12	クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール電圧供給

DTC readout(EA/CC/ISC)(w/ASR)
Model Year 1993
Model 124.028
124.032
124.052
124.092

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．DTC メモリ読み取り法：
a) 点火：ON
b) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
c) スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。
d) 始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。
e) DTC を読み取ってください
f) 最初にスクリーンに表示された DTC が再度あらわれるまで、上記ステップ d および e を繰り返してください。
３．DTC メモリをクリアしてください。
注：記憶された DTC のクリアは DTC 読み取りから 20 秒間以内に行ってください。20 秒以上経過しますと DTC は消去されなくなります。
a) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。この間に DTC が表示されます。
b) 3 秒間おいてから、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。この操作により、前にスクリーンに表示された故障コードがメモリからクリアされます。
c) 各々記憶された DTC はそれぞれ別個にクリアしてください。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 3 巻、エンジン 104、HFM-SFI
セクション 6.4、診断-EA、エンジン第 2 巻セクション 0

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	電子アクセル/クルーズ制御/アイドリング速度モデュール(N4/1)
3	電子アクセル･アクチュエータ(M16/1)
4	クルーズ制御スイッチ(S40)
5	ブレーキ･ランプ･スイッチ(S9/1)
6	スタータ･ロックアウト/バックアップ･ランプ･スイッチ(S16/2)
7	データ･バス(CAN)
8	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
9	ホール効果速度センサ(B6)
10	エンジン速度信号(rpm)(TNA)
11	エンジン制御モデュール(N3/4)への燃料安全停止
12	電子アクセル/クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール電圧供給、回路 87
14	閉のスロットル位置スイッチ(S29/3)

DTC readout(CC/ISC)(w/o ASR)
Model Year 1992－1993
Model 124.034 140.042
140.043

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 3 巻
エンジン 119LH、給油、セクション 7.1、クルーズ制御/アイドリング速度制御

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール(N4/3)
3	クルーズ制御/アイドリング速度制御アクチュエータ(N16/2)
4	クルーズ制御スイッチ(S40)
5	停止ランプ･スイッチ(S9/1)
6	スタータ･ロックアウト･バックアップ･ランプ･スイッチ(S16/3)
7	データ･バス(CAN)
8	左前輪速度センサ(L6/1)
9	左後輪速度センサ(L6/3)
10	エンジン速度信号(TNA)
11	LH-SFI 制御モデュールへの燃料安全停止
12	クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール電圧供給

DTC readout(EA/CC/ISC)(w/ASR)
Model Year 1992－1993
Model 124.034 140.042
124.036 140.043
140.051
140.070

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、モデル 129,140、エンジン第 3 巻
エンジン 119LH、給油、セクション 6.2、診断-欠陥

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	EA/CC/ISC 制御モデュール(N4/1)
3	EA/CC/ISC アクチュエータ(M16/1)
4	クルーズ制御スイッチ(S40)
5	停止ランプ･スイッチ(S9/1)
6	スタータ･ロックアウト･バックアップ･ランプ･スイッチ(S16/3)
7	データ･バス(CAN)
8	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
9	左後輪アクセル速度センサ(L6/3)
10	エンジン速度信号(TNA)
11	LH-SFI 制御モデュールへの燃料安全停止
12	EA/CC/ISC モデュール電圧供給
13	未使用
14	閉のスロットル位置コンタクト･スイッチ(S29/3)

DTC readout(EA/CC/ISC)(w/ASR)
Model Year 1992－1993
Model 140.057
140.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“1”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“1”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々の DTC 指示はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、その各々の指示が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されません。
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、エンジン第 3 巻、エンジン 120LH、給油
セクション 6.3、電子アクセル-LH 診断

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	EA/CC/ISC 制御モデュール(N4/1)
3	右 EA/CC/ISC アクチュエータ(左シリンダ･バンク)(M16/3)
4	クルーズ制御スイッチ(S40)
5	停止ランプ･スイッチ(S9/1)
6	スタータ･ロックアウト･バックアップ･ランプ･スイッチ
7	データ･バス(CAN)
8	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
9	左後輪アクセル速度センサ(L6/3)
10	エンジン速度信号(TNA)
11	LH-SFI 制御モデュールへの燃料安全停止
12	電子アクセル制御モデュール電圧供給
13	左 EA/CC/ISC アクチュエータ(右シリンダ･バンク)(M16/4)
14	閉のスロットル位置コンタクト･スイッチ

DTC readout(ADS)
Model Year 1991－1993
Model 129.061
129.066
129.067
129.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注:ADS 制御モデュール(N51)に記憶されている欠陥はすべて車輌バッテリ､過電圧保護リレーあるいは、ADS 制御モデュール(N51)の接続が外されても、すべてそのまま残されます。
この際 LED“U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：DTC 指示の“３”､“４”および“５”が他のシステムにおける欠陥がゆえに記憶されていたとしても、その各々の DTC 指示はそれぞれ修理完了後に自動的にクリアされます。
DTC 指示が１より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、シャーシおよび動力伝達部第１巻、セクション 3.1
診断-故障コード読み取り

故障コード表(129.061,129.066)

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	ADS 制御モデュール(N51)
3	車体加速センサ(B24)
4	車輪加速センサ(B24/1)
5	ハンドル角度センサ(N49)
6	前輪アクセル･ソレノイド･バルブ 1 (Y51y1 および Y52y1)
7	前輪アクセル･ソレノイド･バルブ 2(Y51y2 および Y52y2)
8	後輪アクセル･ソレノイド･バルブ 1 (Y53y1 および Y54y1)
9	後輪アクセル･ソレノイド･バルブ 2(Y53y2 および Y54y2)
10	未使用
11	未使用
12	ABS 信号
13	オイル･レベル･スイッチ(ADS)(S44)
14	ハンドル角度センサ(N49)が機能していない

故障コード表(129.067,129.076)

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	ADS 制御モデュール(N51)
3	車体加速センサ(B24)
4	車輪加速センサ(B24/1)
5	ハンドル角度センサ(N49)
6	前輪アクセル･ソレノイド･バルブ 1 (Y51y1 および Y52y1)
7	前輪アクセル･ソレノイド･バルブ 2(Y51y2 および Y52y2)
8	後輪アクセル･ソレノイド･バルブ 1 (Y53y1 および Y54y1)
9	後輪アクセル･ソレノイド･バルブ 2(Y53y2 および Y54y2)
12	右前輪アクセル速度信号
14	ハンドル角度センサ(N49)が機能していない
15	コンフォート/スポーツ切替えスイッチ(ADS)(Ｓ45/1)
17	車輌負荷センサ(N51/1)
18	ADS 警告ランプ(A1e27)
19	供給電圧が低すぎる
20	ハンドル角度センサ(N49)
21	供給電圧高すぎる
22	コンフォート/スポーツ切替えスイッチ(ADS)(Ｓ45/1)

DTC readout(ADS)
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042 140.070
140.051 140.076
140.057 140.134

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注:ADS 制御モデュール(N51)に記憶されている欠陥はすべて車輌バッテリ､過電圧保護リレーあるいは、ADS 制御モデュール(N51)の接続が外されても、すべてそのまま残されます。
この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：欠陥が処理され各々の読み取りが消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されなくなります
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	ADS 制御モデュール(N51)
3	車体加速センサ(B24)
4	車輪加速センサ(B24/1)
5	ハンドル角度センサ(N49)
6	前輪アクセル･ソレノイド･バルブ 1 (Y51y1 および Y52y1)
7	前輪アクセル･ソレノイド･バルブ 2(Y51y2 および Y52y2)
8	後輪アクセル･ソレノイド･バルブ 1 (Y53y1 および Y54y1)
9	後輪アクセル･ソレノイド･バルブ 2(Y53y2 および Y54y2)
12	右前輪アクセル速度信号
14	ハンドル角度センサ(N49)が機能していない
15	コンフォート/スポーツ切替えスイッチ(ADS)(S45/1)
17	車輌負荷センサ(N51/1)
18	ADS 警告ランプ(A1e27)
19	供給電圧が低すぎる
20	ハンドル角度センサ(N49)
21	供給電圧が高すぎる
22	コンフォート/スポーツ切替えスイッチ(ADS)(S45/1)

DTC readout(ASD)
Model Year 1991－1993
Model 124.128 129.061
126.134 140.134
126.135 201.028

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注:ADS 制御モデュール(N51)に記憶されている欠陥はすべて車輌バッテリ､過電圧保護リレーあるいは、ADS 制御モデュール(N51)の接続が外されても、すべてそのまま残されます。
この際 LED“U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．エンジンはアイドリング
３．始動ボタンを約１秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ４を繰り返してください。
６．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
７．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
８．エンジンはアイドリング
９．DTC がスクリーンに表示されたら、2 秒間の間隔を置いて始動ボタンを少なくとも 10 秒間押してください。
10. 始動ボタンを約１秒間押してください。

参照：診断取扱説明書、シャーシ-動力伝達部第１巻、セクション 4.1,4.2
ASD、診断-欠陥メモリ、診断取扱説明書第 3 巻
動力伝達部、車体および付属装備、セクション ASD
マイクロフィッチェ整備、後部アクセルⅠ-車輪ロケ
モデル 107,126　09/85-1991 年モデル取扱説明書初歩
モデル 124,126,129,201　グループ 35、ASD 欠陥診断表

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	ADS 制御モデュール(N51)
3	停止ランプ･スイッチ(S9/1)
4	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
5	右前輪アクセル速度センサ(L6/2)
6	後部アクセル速度センサ(L6)
7	どのセンサからも速度信号がない(L6,L6/1,L6/2)およびグランド欠落
8	ASD バルブ(Y38)あるいは、停止ランプ･スイッチ(S9/1)

DTC readout(ABS)[1)]
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042
140.043
140.134

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：各々の試験手順の試験条件のセクションに網羅されているシステムに特定的な警告条項のすべてを順守踏襲してください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．点火:ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の読み取りが消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されなくなります
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

1) ABS/ASR 装備の車輌に関しては、1992 年モデルのグループ 42 ABS/ASR を参照してください。

参照：診断取扱説明書、シャーシ-動力伝達部、第 1 巻セクション 6.2
ロック防止ブレーキ･システム(ABS)診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
3	右前輪アクセル速度センサ(L6/1)
4	後部アクセル速度センサ(L6)
6	左前輪アクセル･ソレノイド･バルブ(A7y1)
7	右前輪アクセル･ソレノイド･バルブ(A7y2)
8	後部アクセル･ソレノイド･バルブ(A7y3)
10	復帰/圧力ポンプ･モーター(A7m1)あるいは、復帰/圧力ポンプ･リレー(A7k2)
11	ソレノイド･バルブ･リレー(Ak1)
12	主要シリンダ･切替えバルブ(Y61)
13	停止ランプ･スイッチ(S9/1)
14	ABS ラタラル加速センサ(B24/2)
15	ABS 制御モデュール(N30)
16	車輌速度センサ(L6/1,L6/2,L6)間違っている、汚れているあるいは、損傷のある歯車ローター
17	ソレノイド･バルブ･リレー(A7k1)の低電圧

DTC readout(ABS/ASR)
Model Year 1992－1993
Model 124.034 140.032
124.036 140.042
140.051
140.057
140.070
140.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．点火:ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の読み取りが消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されなくなります
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、シャーシ-動力伝達部、第 1 巻セクション 5.2
加速すべり制御(ASR)、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	左前輪アクセル速度センサ(L6/1)
3	右前輪アクセル速度センサ(L6/1)
4	左後輪アクセル速度センサ(L6/3)
5	右後輪アクセル速度センサ(L6/4)
6	左前輪アクセル･ソレノイド･バルブ(A7/3y1)
7	右前輪アクセル･ソレノイド･バルブ(A7/3y2)
8	左後輪アクセル･ソレノイド･バルブ(A7/3y3)
9	右後輪アクセル･ソレノイド･バルブ(A7/3y4)
10	復帰/圧力ポンプ･リレー(A7/3k2)および復帰/圧力ポンプ･モーター(A7/3m1)
11	ソレノイド･バルブ･リレー(A7/3k1)
12	モデル 140.04/05：主要シリンダー切替えバルブ(Y61)
13	停止ランプ･スイッチ(ASD/ASR)
14	モデル 140.04/05:ABS ラタラル加速センサー(B24/2)
15	ABS/ASR 制御モデュール(N30/1)
16	車輌速度センサ(L6/1,L6/2,L6/3,L6/4)および 間違っている、汚れている、あるいは損傷のある歯車ロータ
17	ソレノイド･バルブ･リレー(A7/3k1)の電圧が低すぎる
20	切替えソレノイド･バルブ(A7/3y5)
21	圧力スイッチ(A7/3s1)チャージ
22	圧力スイッチ(A7/3s1)に漏れ
23	圧力スイッチ(A7/3s1)油圧システム
24	ASR チャージ･ポンプ(M15)
30	電子アクセル/クルーズ制御/アイドリング速度制御モデュール(N4/1)への CAN データ･ライン
31	LH-SFI 制御モデュール(N3/1) 左 LH-SFI 制御モデュール(N3/2)および 右 LH-SFI 制御モデュール(N3/3)への CAN データ･ライン
32	左点火制御デュール(N1/4) 右点火制御モデュール(N1/5)および 点火制御モデュール、LH-SFI(N/3)への CAN データ･ライン
33	CAN データ･ライン回路に短絡あるいは回路開

DTC readout(SPS)
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042 140.070
140.051 140.076
140.057 140.134

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．点火:ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の読み取りが消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されなくなります
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、シャーシ-動力伝達部、第 1 巻セクション 7.1
速度感応型パワー･ハンドル、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	速度感応型パワー・ハンドル制御モデュール(N49/1)
3	左/センター後部アクセル速度センサ(L6/3)
4	右後部アクセル速度センサ(L6/4)
5	右および左後部アクセル・センサ(L6/3およびL6/4)からの各々異なった速度信号
6	速度センサ信号なし
7	インダクティヴ速度センサ、トランスミッション(L2)に欠陥
8	速度感応パワー・ハンドル・バルブ(Y10)のプラス接続および U-Batt 間に短絡
9	速度感応パワー・ハンドル・バルブ(Y10)に短絡
10	速度感応パワー・ハンドル・バルブ(Y10)回路が開
11	速度感応パワー・ハンドル制御モデュール(N49/1)の電圧供給

DTC readout(RB)
Model Year 1993
Model 124.066

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．DTC メモリ読み取り法：
a) 点火：ON
b) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
c) スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。
d) 始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。
e) DTC を読み取ってください
f) 最初にスクリーンに表示された DTC が再度あらわれるまで、上記ステップ d および e を繰り返してください。
３．DTC メモリをクリアしてください。
注：記憶された DTC のクリアは DTC 読み取りから 20 秒間以内に行ってください。20 秒以上経過しますと DTC は消去されなくなります。
a) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。この間に DTC が表示されます。
b) 3 秒間おいてから、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。この操作により、前にスクリーンに表示された故障コードがメモリからクリアされます。
c) 各々記憶された DTC はそれぞれ別個にクリアしてください。

参照：診断取扱説明書、車体および各装置、第 3 巻、
セクション 19.1、ロール･バー(事故衝撃緩和防備)、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	ロール･バー制御モデュール(N53)
3	ロール･バー制御モデュール(N53)電圧供給
6	ロール･バー･ソレノイド(Y57/1)回路開、あるいは端末 30,31 に短絡
7	後部アクセル･スイッチ(S83/2,S83/3)、あるいは端末 30,31 に短絡
8	ロール･バー故障指示ランプ(E30)

DTC readout(CST)
Model Year 1993
Model 124.066

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．DTC メモリ読み取り法：
a) 点火：ON
b) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
c) スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。
d) 始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。
e) DTC を読み取ってください
f) 最初にスクリーンに表示された DTC が再度あらわれるまで、上記ステップ d および e を繰り返してください。
３．DTC メモリをクリアしてください。
注：記憶された DTC のクリアは DTC 読み取りから 20 秒間以内に行ってください。20 秒以上経過しますと DTC は消去されなくなります。
a) 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。この間に DTC が表示されます。
b) 3 秒間おいてから、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。この操作により、前にスクリーンに表示された故障コードがメモリからクリアされます。
c) 各々記憶された DTC はそれぞれ別個にクリアしてください。
DTC メモリ
コンバータブル･ルーフの操作に欠陥が生じた場合(ソフト･ルーフが動かない)、パワー･スイッチが(80 秒ほど)長い間押された場合、その上でスイッチの警告ランプが点滅を始めた際においてのみ、DTC はメモリに記憶されます。DTC 表示の内５から 16 は、いわば限界スイッチに関してのものですが、ただしこれは関連、あるいは、影響されるスイッチに必ずしも欠陥があることを示すものではありません。これらの DTC 指示はいずれの限界スイッチの信号に支障をきたした上でコンバータブル･ルーフの継続的操作ができないのかを示すものです。
この際の欠陥ベースには下記にものがあります。
・電気系統の欠陥(これに先立つ操作は完了している)
・油圧系統の欠陥(これに先立つ操作は始まってもいなかった)

参照：診断取扱説明書、車体および各付属装置、第 2 巻、
セクション 11.1、キャブリオレイ･ソフト･トップおよびロール･バー手動操作
診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	低電圧
3	正常の操作に要する時間を超越している
4	いくつかの非論理的限界スイッチ信号
5	限界スイッチ(A251s2)、ソフト・トップ・コンパートメント・カバーがロック状態
6	限界スイッチ(A251s1)、ソフト・トップ・コンパートメント・カバーが閉まったままの状態
7	限界スイッチ(S84/5)、ソフト・トップ収納コンパートメントが開のまま状態
8	限界スイッチ(S84/8)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウがロック状態
9	限界スイッチ(S84/7)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウが下がったままの状態
10	限界スイッチ(S84/6)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウが上がったままの状態
11	限界スイッチ(S84/1)、左前ソフト・トップがロック状態
12	限界スイッチ(S84/2)、右前ソフト・トップがロック状態
13	限界スイッチ(S84/3)、ソフト・トップ開スイッチに欠陥(収納コンパートメントのソフト・トップ)
14	限界スイッチ(S84/4)、ソフト・トップが頭上
15	限界スイッチ(S84/4)、ソフト・トップが引っ込んだ状態
16	限界スイッチ(S83/6)、ロール・バー延長のままの状態
17	ロール・バーの自動配備が起きている
18	パワー・ソフト・トップ・スイッチ(S84)
19	車輌速度信号
20	パワー・ソフト・トップ制御モデュール(N52)回路、ソレノイド・バルブおよびロール・バーが引っ込んだままの状態
21	油圧ユニット(A7/5)、ソレノイド・バルブ回路、およびロール・バー(Y57y10)が引っ込んだままの状態
22	パワー・ソフト・トップ制御モデュール(N52)回路、ソレノイド・バルブおよびロール・バーが伸びたままの状態
23	ソレノイド・バルブ回路およびロール・バー(Y57y11)が伸びたままの状態
24	パワー・ソフト・トップ制御モデュール(N52)回路および各パワー・ウインドウに問題

DTC readout(RB)
Model Year 1990－1993
Model 129.061
129.066
129.067
129.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“1”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“1”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます。追加的欠陥が存在すれば、その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．点火:ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の読み取りが消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されなくなります
DTC 指示が 1 より大きい場合は、システム内に欠陥が存在することを意味します。

参照：診断取扱説明書、車体および付属装備、第 3 巻
セクション 19.2、ロール･バー、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	ロール･バー制御モデュール(N53)
3	電圧供給
4	運転席ベルト･ロック･リレー(K18/2)、回路開、あるいは端末 30,31 への回路に短絡
5	助手席ベルト･ロック･リレー(K18/2)、回路開、あるいは端末 30,31 への回路に短絡
6	ロール･バー配備ソレノイド(Y57/1)、回路開、あるいは端末 30,31 への回路に短絡
7	左および右後部アクセル･スイッチ･ロール･バー(S83/2 および S83/3)、および端末 30,31 への回路に短絡
8	ロール･バー欠陥ランプ(A1e29)

DTC readout(RST)
Model Year 1990－1993
Model 129.061
129.066
129.067
129.076

DTC メモリ

欠陥がコンバータブル･トップの操作中(ソフト･トップが作動しない)に起きた場合、パワー･トップ･スイッチが長い間押しすぎた場合(80 秒間ほどにいたるまで)、およびスイッチの警告ランプが点滅し始めた場合のみ DTC はメモリに記憶されます。DTC 指示数値の 2～18 まではいわゆる限界スイッチと呼ばれるものですが、これは必ずしも関わる限界スイッチに欠陥が存在することを意味するものではありません。これらの DTC 表示は、連続的にコンバータブル･トップを作動させるために、どの限界スイッチの信号が支障をきたしているかを示すものです。
根本的欠陥の根拠は下記のものです。
・電気的欠陥(この場合問題が生ずる直前の作動信号は終了しています)
・油圧系統に欠陥(この場合直前の作動が完了していません)

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
この際 LED“ U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．数値 1 は、システム内に記憶された DTC は存在しないことを意味します。(ハード･トップが取り除いた状態)
５．数値 20 はシステム内に記憶された DTC が存在しないことことを意味します。(ハード･トップ設置状態)
６．追加的 DTC はすべて特定の欠陥回路に一致します。
７．システム内に追加的欠陥が存在する場合、一番若い DTC 数値が最初に処理すべき DTC です。
８．数値１から 30 までの DTC 指示はインパルス･カウンター･スキャン･ツールに表示されます。
９．数値 1 あるいは２以上の追加的 DTC 表示の後に、最初に示された DTC が再び現れれば、システム内に追加的 DTC は記憶されていないことを示します。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
10. 点火:ON
11. DTC メモリを読み取ってください。
12. 3 秒間隔で、始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。(制御モデュール･バージョン 7.6 までの車輌に関しては、DTC 指示が 2 度目に読み取られたときにおいてのみ、DTC は消去され、また DTC 数値が 20 以上の指示に関しては、ハード･トップがいったん取り除かれて初めて消去されます。)
13. DTC 指示 1(20)は記憶された DTC が消去されていることを示します。
14. 数値１より大きい DTC は、システム内に追加的な欠陥が存在することを示します。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。

参照：診断取扱説明書、車体および付属装備、第 2 巻
セクション 11.2、ソフト･トップ/ロール/バー、モデル 129、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に記憶された欠陥皆無
2	限界スイッチ(A24s2)、ソフト・トップ収納コンパートメント・カバー(左)がロック状態
3	限界スイッチ(A25s2)、ソフト・トップ収納コンパートメント・カバー(右)がロック状態
4	限界スイッチ(A24s1)、ソフト・トップ収納コンパートメント・カバー(左)が閉まった状態
5	限界スイッチ(A25s2)、ソフト・トップ収納コンパートメント・カバー(右)が閉まった状態
6	限界スイッチ(A22s2)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウ(左)がロック状態
7	限界スイッチ(A23s2)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウ(右)がロック状態
8	限界スイッチ(A22s1)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウ(左)が閉まったままの状態
9	限界スイッチ(A23s1)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウ(右)が閉まったままの　状態
10	限界スイッチ(S84/1)、ソフト・トップ(左前部)がロック状態
11	限界スイッチ(S84/2)、ソフト・トップ(右前部)がロック状態
12	限界スイッチ(S84/5)、ソフト・トップ収納コンパートメント・カバーが開いている。
13	限界スイッチ(S84/6)、ソフト・トップ・ファブリック・ボウが上がった状態
14	限界スイッチ(S84/3)、ソフト・トップが(収納コンパートメント内で)下がった状態
15	限界スイッチ(S84/4)、ソフト・トップが上がった状態(二次しまり速度)
16	限界スイッチ(S83/1)、ロール・バーが引っ込んだ状態
17	限界スイッチ(S21/9)、左サイド・ウインドが下がった状態
18	限界スイッチ(S84/2)、右サイド・ウインドが下がった状態
19	アクセル車輌速度信号が非論理的
20	ハード・トップ設置認識済み
21	パワー・ソフト・トップ・スイッチ(S84)
22	ロール・バー・スイッチ(S83)
23	ロール・バー制御モデュール(N53)
24	ロール・バー事故衝撃防止配備
25	限界スイッチ信号非論理的
26	作動時間超過
27	不十分な電圧
28	速度計信号なし
29	アクセル車輪速度センサ信号なし
30	ソフト・トップ作動が阻止されている

DTC readout(IRCL)
Model Year 1990－1993
Model 129.061
129.066
129.067
129.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の読み取りが消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されなくなります
実証(すべての DTC は消去されているか)
10. 赤外線送信器をロック-アンロック･サイクルで赤外線受信器いずれかに向けて赤外線リモコン･セントラル･ロッキング･システムをアクチュエイトした上で 3 分間置いてください。
11. ステップ 5 の行程を繰り返してください。この際 DTC 数値１が表示されます。(これはもちろん故障コードではありません)スクリーンに表示される DTC 数値が 1 より大きい場合には、システム内にさらに欠陥が存在することを示します。

参照：診断取扱説明書、車体および付属装備、第１巻
セクション 4.1、セントラル･ロッキング･赤外線リモコン、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	赤外線リモコン・モデュール(N54)
3	供給ポンプ、セントラル・ロッキング・システム(M14/1,M14/2)および回路 31(グランド)に短絡
4	左フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/1) 右フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/2) トランク用赤外線リモコン受信器(A26/3) 指示ランプ(赤)、回路 31(グランド)に短絡
5	左フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/1) 右フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/2) トランク用赤外線リモコン受信器(A26/3) 指示ランプ(緑)、回路 31(グランド)への短絡
6	供給ポンプ、セントラル・ロッキング・システム(M14/1)、および回路 30 への短絡
7	左フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/1) 右フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/2) トランク用赤外線リモコン受信器(A26/3) 指示ランプ(赤)、回路 30 への短絡、あるいは回路開
8	左フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/1) 右フロント・ドア赤外線リモコン受信器(A26/2) トランク用赤外線リモコン受信器(A26/3) 指示ランプ(緑)、受信器が回路 30 へ向けて短絡、あるいは回路開
9	運転席ドア・スイッチ・グループ(S86)、回路 30 に向けて短絡 ATA/コンヴィニエンス・マイクロスイッチ(S87s１)、回路 30 に向けて短絡 ATA/コンヴィニエンス・マイクロスイッチ(S88s１)、回路 30 に向けて短絡
10	点火/スタータ・スイッチ位置認識スイッチ(S2/1s2)回路が開
11	点火/スタータ・スイッチ位置認識スイッチ(S2/1s2)回路 31 へ短絡
12	左フロント・ドア・アクチュエータ(S47)回路開
13	右フロント・ドア・アクチュエータ(S48)回路開
14	トランク・ロック・アクチュエータ(S49)回路開

DTC readout(IRCL)
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042 140.070
140.051 140.076
140.057 140.134

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の読み取りが消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンには表示されなくなります
実証(すべての DTC は消去されているか)
10. 赤外線送信器をロック-アンロック･サイクルで赤外線受信器いずれかに向けて赤外線リモコン･セントラル･ロッキング･システムをアクチュエイトしてください。
11. ステップ 5 の行程を繰り返してください。この際 DTC 数値１が表示されます。(これはもちろん故障コードではありません)スクリーンに表示される DTC 数値が 1 より大きい場合には、システム内にさらに欠陥が存在することを示します。

参照：診断取扱説明書、車体および各種付属装備、第１巻
セクション 4.2、セントラル･ロッキング･赤外線リモコン、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	左フロント・ドア・アクチュエータ(S47)回路開
3	警告ブザー回路開
4	警告ブザーグランドに短絡
5	指示ランプ(赤)グランドに短絡
6	指示ランプ(緑)グランドに短絡
7	ロック回路 1 プラスに短絡
8	ロック回路 1 プラスに短絡
9	指示ランプ(赤)プラスに短絡
10	指示ランプ(緑)プラスに短絡
11	赤外線リモコン・モデュール(N54)に欠陥

DTC readout(PSE)
Model Year 1992ー1993
Model 140.032
140.042 140.070
140.051 140.076
140.057 140.134

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED“U-Batt”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“1”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“1”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
10．点火を OFF にして 30 秒間置いてください。
注:メモしておいた DTC を修正し,消去した後でもセントラルル･ロッキング･システムに問題があれば、空圧制御モデュール(A37)の欠陥検索安全回路がアクティヴェイトされている可能性があります。欠陥検索安全回路をクリアするには空圧制御モデュール(A37)からのパワー･コネクターの接続を約 3 秒間外してください。

参照：診断取扱説明書、車体および各種付属装備、第 1 巻
セクション 3.1a、空圧制御モデュール、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	セントラル･ロッキング･システム、空圧が高すぎる(漏れが生じている)
3	伸縮トランクのグリップ部分、空圧が高すぎる(漏れが生じている)
4	バックアップ補助、空圧が高すぎる(漏れが生じている)
5	矯正背もたれ圧、空圧が高すぎる(漏れが生じている)
6	排気管真空補助、空圧が高すぎる(漏れが生じている)
7	ロック回路 1、プラスに短絡
8	ロック回路 2、プラスに短絡
9	未使用
10	セントラル･ロッキング車内制御スイッチ(S85)信号に欠陥
11	フロント･ドア信号(S17/3 および S17/4)に欠陥
12	ロック回路 1 からの信号が 2 分以上にわたっている
13	ロック回路 2 からの信号が 2 分以上にわたっている
14	セントラル･ロッキング車内制御スイッチ(S85)信号が 2 分以上にわたっている。
15	未使用
16	未使用
17	空圧制御モデュール(A37)に欠陥

DTC readout(ATA)
Model Year 1990－1993
Model 129.061
129.066
129.067
129.076

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

注：DTC 指示はいずれかのセンサが警告アラームをアクティヴェイトしたのかを示すためのものです。なんらかの原因もなくアラームがアクティヴェイトされた時以外(この場合は各々の当該センサが認識されます)は欠陥の検索はできません。警告システムを ON にしたり OFF にしたりする際に生ずる欠陥は DTC 読み取りでは検索できません。このような場合にはソケット･ボックス試験を行ってください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．点火：ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、各々の DTC が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンに表示されなくなります.
表示される DTC 数値が 1 よりも大きければ、システム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：診断取扱説明書、車体および各種付属装備、第 2 巻
セクション 13.1、盗難防止警告(ATA)、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	トランク･センサ回路によりアラームがアクティヴェイトされている
3	エンジン･フード回路によりアラームがアクティヴェイトされている
5	中央コンソール･コンパートメントによりアラームがアクティヴェイトされている
6	左あるいは右ドアによりアラームがアクティヴェイトされている
10	ラジオ回路によりアラームがアクティヴェイトされている
12	点火回路よりアラームがアクティヴェイトされている
14	ブレーキ回路によりアラームがアクティヴェイトされている

DTC readout(ATA)
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042 140.070
140.051 140.076
140.057 140.134

インパルス･カウンター･スキャン･ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され、各々の DTC が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンに表示されなくなります.
表示される DTC 数値が 1 よりも大きければ、システム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：診断取扱説明書、車体および各種付属装備、第 2 巻
セクション 13.2、盗難防止アラーム(ATA)、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	トランク･センサ回路によりアラームがアクティヴェイトされている
3	エンジン･フード回路によりアラームがアクティヴェイトされている
5	後部ドア回路によりアラームがアクティヴェイトされている
6	全部ドア回路によりアラームがアクティヴェイトされている
10	ラジオ回路によりアラームがアクティヴェイトされている
12	点火回路よりアラームがアクティヴェイトされている
14	ブレーキ回路によりアラームがアクティヴェイトされている
19	ATA 制御モデュールに欠陥
20	グランド接続がない、左フロント･ドア･アクチュエータ

DTC readout(CT)
Model Year 1992－1993
Model 129.061 140.032
129.065 140.042
129.067 140.051
129.076 140.057
140.070
140.076
140.134

試験条件

・点火 ON
・電話 ON
・受信良好地域(ノイズ皆無地域その他)
注：自動車電話の送信器および受信器ユニット(TR)は自動診断装備です。システムに欠陥が検索されれば計器盤制御モデュール(IDCM)の LCD(液晶表示)に表示され、電話システムは使えなくなります。その各々の欠陥には数値 1 から 8 までの DTC 番号が割り当てられます。表示される DTC 数値と DTC 故障表に示されている潜在原因とを照合することで、取るべき処理･試験をおこなってください。

自動車電話システム試験

１．点火 ON
２．電話器 ON
３．DTC 番号を IDCM のスクリーンでチェックしてください。
４．故障問題処理表および診断取扱説明書にしたがって、すべての処理をおこなってください。
注：車輌バッテリの接続が外れていても。電話をもう一度プログラムしなおす必要はありません。
５．すべての欠陥を処理後、電話システムの機能をチェックした上で、電話が機能しているかどうかを確認してください。

参照：診断取扱説明書、車体および各付属装備、第 3 巻
セクション 23.2、自動車電話システム、診断-エラーコード

システム略語：

TR	送信器/受信器
NAM	数値指定モデュール
ESN	電子一連番号
IDCM	計器盤制御モデュール
RAM	自由検索メモリ
ROM	読み取り専用メモリ
EEPROM	消去/プログラム可能読み取り専用メモリ
LCD	液晶表示盤

DTC readout(CF)
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042
140.051
140.057
140.070
140.076
140.134

インパルス・カウンター・スキャン・ツール試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ、下記参照にある詳細試験を参考にしてください。
２．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに示される DTC を読み取り、記録してください。指示“１”はシステム内に欠陥が存在することを、また数値が“１”より大きければ,システム内に欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。もし欠陥がそれ以上システム内になければ、前に指示された DTC が再度現れます｡追加的欠陥が存在すれば､その各々に相応した DTC が表示されます。
６．最初にスクリーンに示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 を繰り返してください。
７．DTC からのいかなる追加的な欠陥も記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって記録しておいたすべての欠陥を除去してください。
DTC メモリ消去法：
欠陥処理のあと、各々の DTC 指示は下記のようにクリアしてください。
９．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して DTC を読み取ってください。それから始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々スクリーンに表示される DTC はそれぞれ別個に消去してください。
10. 点火を OFF にして 30 秒間置いてください。
欠陥が処理され、各々の DTC が消去されれば、DTC の読み取りを行っても、DTC はスクリーンに表示されなくなります.
表示される DTC 数値が 1 よりも大きければ、システム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：診断取扱説明書、車体および各種付属装備、第 1 巻
セクション 5.1、コンヴィニエンス･システム、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	左フロント･パワー･ウインド･モータ(M10/3)回路が閉じつつある、制御モデュール
3	左フロント･パワー･ウインド･モータ(M10/3)回路が開きつつある、制御モデュール
4	右フロント･パワー･ウインド･モータ(M10/4)回路が閉じつつある、制御モデュール
5	右フロント･パワー･ウインド･モータ(M10/4)回路が開きつつある、制御モデュール
6	左後部･パワー･ウインド･モータ(M10/5)回路が閉じつつある、制御モデュール
7	左後部･パワー･ウインド･モータ(M10/5)回路が開きつつある、制御モデュール
8	右後部･パワー･ウインド･モータ(M10/6)回路が閉じつつある、制御モデュール
9	右後部･パワー･ウインド･モータ(M10/6)回路が開きつつある、制御モデュール
10	左フロント･パワー･ウインド･スイッチ(S21/1)の閉に要する時間が超過している。
11	左フロント･パワー･ウインド･スイッチ(S21/1)の開に要する時間が超過している。
12	右フロント･パワー･ウインド･スイッチ(S21/2)の閉に要する時間が超過している。
13	右フロント･パワー･ウインド･スイッチ(S21/2)の開に要する時間が超過している。
14	左後部･パワー･ウインド回路(S21/3)および左後部パワー･ウインド･スイッチ、フロント･コンソール(S21/5)の閉に要する時間が超過している。
15	左後部･パワー･ウインド回路(S21/3)および左後部パワー･ウインド･スイッチ、フロント･コンソール(S21/5)の開に要する時間が超過している。
16	右後部･パワー･ウインド回路(S21/4)および右後部パワー･ウインド･スイッチ、フロント･コンソール(S21/6)の閉に要する時間が超過している。
17	右後部･パワー･ウインド回路(S21/4)および右後部パワー･ウインド･スイッチ、フロント･コンソール(S21/6)の開に要する時間が超過している。
18	左フロント･ロック･スイッチ(S86/1)、右フロント(S87/1)、トランク･ロック･スイッチ（S88/2）の閉に要する時間が超過している。
19	左フロ　ント･ロック･スイッチ(S86/1)、右フロント(S87/1)、トランク･ロック･スイッチ（S88/2）の開に要する時間が超過している。
20	左フロント･パワー･ウインド･スイッチ(S21/1)、グランドに短絡、あるいは回路電極が転換している。
21	右フロント･パワー･ウインド･スイッチ(S21/2)、グランドに短絡、あるいは回路電極が転換している。

故障コード	考えられる原因
22	左後部ウインド回路(S21/3)および左後部パワー・ウインド・スイッチ(フロント・コンソール S21/5)、グランドに短絡、あるいは回路電極が転換している
23	右後部ウインド回路(S21/4)および右後部パワー・ウインド・スイッチ(フロント・コンソール S21/6)、グランドに短絡、あるいは回路電極が転換している
24	左フロント・パワー・ウインド・モータ回路(M10/3)、配線、あるいは速度センサに問題
25	右フロント・パワー・ウインド・モータ回路(M10/4)、配線、あるいは速度センサに問題
26	左後部・パワー・ウインド・モータ回路(M10/5)、配線、あるいは速度センサに問題
27	右後部・パワー・ウインド・モータ回路(M10/6)、配線、あるいは速度センサに問題
28	左フロント・パワー・ウインド・モータ回路(M 10/3)、センサ回路が転換している。
29	右フロント・パワー・ウインド・モータ回路(M 10/4)、センサ回路が転換している。
30	左後部パワー・ウインド・モータ回路(M10/5)、センサ回路が転換している。
31	右後部パワー・ウインド・モータ回路(M10/5)、センサ回路が転換している。
32	左フロント・パワー・ウインド・モータ回路(M10/3)の速度センサ信号に欠陥
33	右フロント・パワー・ウインド・モータ回路(M10/4)の速度センサ信号に欠陥
34	左後部パワー・ウインド・モータ回路(M10/5)速度センサ信号に欠陥
35	右後部パワー・ウインド・モータ回路(M10/6)速度センサ信号に欠陥
36	コンヴィニエンス制御モデュール（N57）に欠陥
37	電圧が低すぎる（9V 以下）
38	スライド・ポップアップ・ルーフ・スイッチ回路（S13/2）に短絡、配線の固定具合をチェック
39	回路 30A の電圧供給、制御モデュール
40	回路 30B の電圧供給、制御モデュール

DTC readout(CF)
Model Year 1991ー1993
Model 124 126 129

ベッカー・ツーピースのラジオには自己診断システムが設置されています。このシステムはダッシュボードに設置されたラジオ制御モデュール(A2/4)、CD 交換器(A2/6)およびトランクに装備されたチューナー・アンプ(A2/3)間のデータ交換をバス・ケーブルを経由して確認します。欠陥が検索されれば、ラジオの表示板に DTC の E1 から E5 までが現れます。
このラジオの DTC 表示を得るために特に取るべき手順はありません。故障コード表で DTC 指示数値、潜在原因、潜在個所、およびそれらに対して取るべき処置を参照してください。

故障コード表

故障コード	考えられる原因	処置
E1	ラジオ制御モデュールの EEPROM に欠陥	ラジオ制御モデュール(A2/4)を交換する
E2	回路開か、バス接続不良のため、ラジオ制御モデュール、CD 交換器、チューナ・アンプが機能しない 電圧がかかっていない	ラジオ制御モデュール(A2/4)および CD 交換器(A2/6)のバス・ケーブルの接続をチェックする バス・ケーブルの各ピン間の連結をチェックする CD 交換器、チューナ・アンプ(A2/3)の背後にあるヒューズの状態をチェックする ラジオ制御モデュール、CD 交換器、チューナ・アンプの各回路 15、30 および 31 をチェックする。 チューナ・アンプ(A2/3)を交換する
E3	回路開か、CD 交換器、チューナ・アンプ間のバス接続が不良か、ないため、チューナ・アンプが機能しない チューナ・アンプ(A2/3)に電圧がかかっていない	CD 交換器(A2/6)、チューナ・アンプ(A2/3)のバス・ケーブルの接続をチェックする CD 交換器からチューナ・アンプに向かうバス・ケーブルの各ピン間の連結をチェックする チューナ・アンプの背後にあるヒューズの状態をチェックする チューナ・アンプの回路 30、31 をチェックする チューナ・アンプ(A2/3)を交換する
E4	チューナ・アンプ、CD 交換器が ON にならない バスのコミュニケーションは良好	チューナ・アンプ(A2/3)か、CD 交換器(A2/6)を取り替える
E5	チューナ・アンプが ON にならない バスのコミュニケーションは良好	チューナ・アンプ(A2/3)を交換する

DTC readout(Tempmatic A/C)
Model Year 1987
Model 201.028
201.029
201.034
201.126
201.128

LED 点滅コード適用試験

１．TCC 押しボタン装置を取り除いてください。
注：押しボタン装置の背後にある２アンプ･ヒューズをチェックしてください。
２．ソケット･ボックス配線固定アダプタを押しボタン装置および、配線ハーネスに接続してください。
３．ソケット･ボックス･テスターを配線固定アダプタに接続してください。
４．ソケット･ボックス･テスターのソケット 10 に LED 点滅テスタの赤線を、またソケット 9 に LED 点滅テスタの茶を接続してください。
５．点火 ON
６.温度選択版の指標を 22℃にセットしてください。この際、押しボタンはいずれの位置でも結構です。
７．LED 点滅テスタから発せられる点滅インパルスの数を数えてください。
８．欠陥部品を交換するか、あるいは修理すると同時に各々の配線をチェックしてください。
９．LED 点滅インパルス･テスタによってそれ以上の点滅インバルスが発せられなくなるまで、ステップ７を繰り返してください。
欠陥表示は問題が検索されなくなるまで、繰り返します。各々連続するインパルスの間には、4 秒間隔で、この間にブローア･スイッチのリレーが開閉するときのカチカチという音が聞こえます。これは瞬間的に瞬時ブローアを OFF にするためのものです。このようにしてリレーからの音を聞くことおよび、インパルスの連続具合に合わせることによって、欠陥のあるコンポーネントや部品を診断するもう一つの方法が生まれます。

参照：1987 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107、124、126、201
グループ 83、モデル 201、LED 点滅コード適用の TCC 診断

故障コード表

故障コード	考えられる原因
5	温度センサ(B10/4)
10	温度センサ(B10/5)の外部
15	フィードバック電位差計(R23)
20	蒸発器温度センサ(B10/6)
25	冷却温ゲイジ･センサ(B13)

DTC readout(Tempmatic A/C)
Model Year 1988－1993
Model 201.028
201.029
201.126

試験条件

・冷却温 60～80°C
・A/C OFF
・選択レバー駐車位置
・過電圧保護リレー・ヒューズには触れない
注：DTC 指示は診断行程において存在する欠陥のみを表示します。前に指示された DTC をメモリに記憶はしません。DTC 表示が何らかの欠陥を示してはいないにも関わらず、それでも問題が存在する際には介在するコンポーネントの許容範囲外といえる、電気的問題が存在する場合があります。すなわち、センサにおける低いオーム値を示しています。このような許容範囲外の逸脱は DTC の読み取りでは検索できません。この場合、ソケット・ボックス・テスタおよびマルチミータ(各電器値計測器)を用いて、さらにテスト・カードに則して、システムを徹底的にチェックしてください。
１．インパルス・カウンター・スキャン・ツールを接続してください。
２．点火：ON
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、その各々に相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから、追加的な欠陥すべてを記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいた欠陥(DTC 指示)をすべて処理してください。

参照：1988 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126,201
グループ 83、インパルス・カウンター適用の ACC/TCC チェック
モデル 201 インパルス表示

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	車内温度センサ(B10/4)に短絡
3	車内温度センサ(B10/4)回路開
4	外部温度センサ(B10/5)に短絡
5	外部温度センサ(B10/5)回路開
6	蒸発器温度センサ(B10/6)に短絡
7	蒸発器温度センサ(B10/6)回路開
12	冷却温センサ(B11/7)に短絡
13	冷却温センサ(B11/7)回路開
14	フィードバック電位差計(R23)に短絡
15	フィードバック電位差計(R23)回路開
30	冷却ポンプ(M13)に短絡
33	A/C コンプレッサ制御モデュール（N6）に短絡
34	補助ファン・リレー(K9)に短絡
50	切替えバルブ・ユニット(５接続)のピン５およびピン４の間に欠陥
51	切替えバルブ・ユニット(５接続)のピン５およびピン６の間に欠陥
52	切替えバルブ・ユニット(５接続)のピン５およびピン２の間に欠陥
54	切替えバルブ・ユニット(５接続)のピン５およびピン３の間に欠陥
55	切替えバルブ・ユニット(５接続)のピン５およびピン１の間に欠陥
56	切替えバルブ・ユニット(５接続)のピン５およびピン２の間に欠陥
57	切替えバルブ・ユニット(５接続)のピン５およびピン１の間に欠陥
58	切替えバルブ温気ブレンド・フラップ(Y25/3)に短絡
59	切替えバルブ冷気ブレンド・フラップ(Y25/4)に短絡
60	切替えバルブヒータ・バルブ(Y25/5)(閉じる)に短絡
61	ブローア・スイッチ(S3/1)に欠陥、低速
62	ブローア・スイッチ(S3/1)に欠陥、高速

DTC readout(Tempmatic A/C)
Model Year 1992－1993
Model 124.034
124.036

インパルス・カウンター・スキャン・ツール試験

注：DTC 指示は診断行程において存在する欠陥のみを表示します。前に指示された DTC をメモリに記憶はしません。DTC 表示が一つあるいは、それ以上の複数の欠陥を示せば、それらの欠陥を処理した後に DTC 試験を繰り返してください。これはインパルス･カウンター･スキャン･ツールに記録されたすべての DTC が確実に処理されているかどうかを確認するためのものです。
DTC 表示に何らの欠陥も示されてはおらず、それでも、まだ問題が存在する場合には、センサにおけるオーム値が低いというようなコンポーネントの電気的許容範囲に逸脱が見られることもあります。このような逸脱は DTC の表示をえてしては検索できませんので、ソケット･ボックスおよびマルチミータを用いて、システムを徹底的にチェックしてください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．点火：ON
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、その各々に相応する DTC 指示が表示されます。
６．記録しておいた欠陥(DTC 指示)を処理し、スイッチを ON にして、さらに Off にしてください。
注：DTC 試験中に、フレッシュ・エア/再循環切替えスイッチの光ダイオードが閃光します。

参照：SMS 整備 NO.83-503、セクション C および D

故障コード表(～91 年 7 月)

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	車内温度センサに短絡
3	車内温度センサ回路開
4	外気温度センサに短絡
5	外気温度センサ回路開
6	蒸発器温度センサに短絡
7	蒸発器温度センサ回路開
8	左熱交換器温度センサに短絡
9	左熱交換器温度センサ回路開
10	右熱交換器温度センサに短絡
11	右熱交換器温度センサ回路開
12	エンジン冷却温センサに短絡
13	エンジン冷却温センサ回路開
30	循環ポンプ回路に短絡あるいは、回路開
31/32	デュオ・バルブ(組バルブ)回路に短絡あるいは、回路開
33	コンプレッサ･カットアウト(削減･停止)制御モデュール回路に短絡あるいは、回路が開
34	補助ファン第 2 段(アクチュエーション)回路に短絡
56	フレッシュ・エア/再循環気フラップ(緩やか)切替えバルブ回路に短絡
57	フレッシュ・エア/再循環気フラップ(強)切替えバルブ回路に短絡

故障コード表(91年8月～)

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	車内温度センサ(B10/4)に短絡
3	車内温度センサ回路開
4	外気温度センサ(B10/5)に短絡
5	外気温度センサ回路開
6	蒸発器温度センサ(B10/6)に短絡
7	蒸発器温度センサ回路開
8	左熱交換器温度センサに短絡
9	左熱交換器温度センサ回路開
10	右熱交換器温度センサに短絡
11	右熱交換器温度センサ回路開
12	エンジン冷却温センサ(B11/7)に短絡
13	エンジン冷却温センサ回路開
30	循環ポンプ回路に短絡あるいは、回路開
31/32	デュオ・バルブ(組バルブ)回路に短絡あるいは、回路開
33	コンプレッサ･カットアウト(削減･停止)制御モデュール回路に短絡あるいは、回路が開
34	補助ファン第2段(アクチュエーション)回路に短絡
56	バルブ･ブロック(4接続)(Y11)回路に短絡あるいは、回路開
57	バルブ･ブロック(4接続)(Y11)回路に短絡あるいは、回路開
58	バルブ･ブロック(4接続)(Y11)回路に短絡あるいは、回路開

DTC readout(Automatic A/C)
Model Year 1988－1993[1)]
Model 124.026 126.024
124.030 126.025
124.050 126.035
124.090 126.045
124.051 126.039
124.230 126.134
124.290 126.135

インパルス・カウンター・スキャン・ツール試験

注：DTC 指示は診断行程において存在する欠陥のみを表示します。前に指示された DTC をメモリに記憶はしません。DTC 表示が一つあるいは、それ以上の複数の欠陥を示せば、それらの欠陥を処理した後に DTC 試験を繰り返してください。これはインパルス･カウンター･スキャン･ツールに記録されたすべての DTC が確実に処理されているかどうかを確認するためのものです。
DTC 表示に何らの欠陥も示されてはおらず、それでも、まだ問題が存在する場合には、センサにおけるオーム値が低いというようなコンポーネントの電気的許容範囲に逸脱が見られることもあります。このような逸脱は DTC の表示をえてしては検索できませんので、ソケット･ボックスおよびマルチミータを用いて、システムを徹底的にチェックしてください。
１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
２．点火：ON
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、その各々に相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を処理してください。
1) 1991 年モデルまではモデル 126

参照：1988 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126,201
グループ 83、インパルス･カウンターによる ACC/TCC チェック
マイクロフィッチェ整備、エアコン･システムⅡ、自動温湿制御
モデル 124、整備 83-603

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	車内温度センサ(B10/4)に短絡
3	車内温度センサ(B10/4)回路開
4	外気温度センサ(B10/5)に短絡
5	外気温度センサ(B10/5)回路開
6	蒸発器温度センサ(B10/6)に短絡
7	蒸発器温度センサ(B10/6)回路開
8	ヒータ中心部温度センサ(B10/1)回路に短絡
9	ヒータ中心部温度センサ(B10/1)回路に短絡
12	エンジン冷却温センサ(B11/8)に短絡
13	エンジン冷却温センサ(B11/8)回路開
30	冷却ポンプ(M13)回路に短絡
33	A/C コンプレッサ制御モデュール(N6)回路に短絡
34	補助ファン・リレー(K9)に欠陥
50	切替えバルブ・ユニット(Y7)(7接続)のピン5およびピン8の間に欠陥
51	切替えバルブ・ユニット(Y7)(7接続)のピン8およびピン7の間に欠陥
52	切替えバルブ・ユニット(Y7)(7接続)のピン8およびピン3の間に欠陥
54	切替えバルブ・ユニット(Y7)(7接続)のピン8およびピン4の間に欠陥
55	切替えバルブ・ユニット(Y7)(7接続)のピン8およびピン6の間に欠陥
56	切替えバルブ・ユニット(Y7)(7接続)のピン8およびピン2の間に欠陥
57	切替えバルブ・ユニット(Y7)(7接続)のピン8およびピン1の間に欠陥

DTC readout(Automatic A/C)
Model Year 1990－1993
Model 129.061 129.067
129.066 129.076

DTC 表示による試験

この試験は次のような試験モードに分けられます。
A. 連続表示、温度センサ(による実際温度数値の瞬間表示、温度選択盤のセット、車輌速度、システム電圧および、ソフト･トップ(ルーフ)の位置
B. メモリに記憶された永久的および断続的 DTC の表示
C. 各温度センサ、電位差計およびフィードバック電位差計試験
注：DTC 表示の試験およびソケット･ボックス･テスタの試験の際に DTC 指示が見出せない場合(例えば、足元のフラップが開かないといった類)にはバキューム･システムに漏れが生じている可能性があります。このような場合にはバキューム･システムの空圧部分をチェックして漏れがないか確かめてください。
A/C 押しボタン制御モデュール(N22)には DTC メモリが装備されていて、A/C 押しボタン制御パネルの温度表示盤に DTC が表示できるようになっています。車輌バッテリの接続が外されてもいったん記憶された DTC はメモリに残るようになっています。

参照：診断取扱説明書初歩、自動温湿制御、第 1 巻
セクション 3.1、自動温湿制御、モデル 129
診断-欠陥コード指示

試験モード A

テスト A 準備
１．点火 ON
２．“ REST ”を押した上で、1 秒間おいてブローア速度ボタン 4 を押してください。温度表示盤が交互に車内温度センサ数値とともに数値“ 02 ”、あるいは回路が開の場合は“ OP E ”、また回路に短絡が生じている場合には“ CL O ”を表示します。
３．次のステップに移るには F を、その前のステップに戻るには C を押してください。
４．この試験モードから出るには点火を OFF にして 5 秒間待ってください。

故障コード表(試験モード A)

故障コード	考えられる原因
02	車内温度センサ(B10/4)
04	外部温度センサ(B10/5)
06	蒸発気温度センサ(B10/6)
08	ヒータ中心部温度センサ(B10/6)
12	エンジン冷却温センサ(B10/8)
14	温度選択盤(°C)のセットに手違い
18	車輌速度(km/h)
20	ソフト･トップ開 U、ソフト･トップ閉 O
22	システム電圧
83	OFF/ON(未使用)
84	ブローア電圧 050(0.5V)-600(6.0V) 【1991 年 11 月現在】

試験モード B,C

テスト B,C 準備
１．温度調整盤を白い部分に合わせてください。

試験モード B
２．点火 ON にした上で、10 秒以内に“ F ”“ 内気循環ボタン ”“ REST ”を 2 秒から 4 秒間同時に押してください。
３．温度表示盤に示された DTC を読み取りメモしてください。
４．この際の表示はメモリに記憶された永久的 DTC を示します。各々の DTC が表示され、記憶された後、“ END ”がウインドに表示されるまで、再び“ 内気循環ボタン ”を押してください。
５．“ 内気循環ボタン ”をもう一度押してください。この時点では記憶去れた断続的な DTC が表示されます。“ 内気循環ボタン ”が各々の DTC 指示の後に現れて断続的 DTC を示します。各々の DTC が表示され(診断表 A の各々に相応する DTC 原因および個所を参照)、記録された後、ウインドが“ En ｄ ”と表示するまで“ 内気循環ボタン ”を再び押してください。

試験モード C

６．“ 内気循環ボタン ”をもう一度押してください。この際表示が数値“ 2 ”および℃で現れた車内温度を交互に点滅します。すべての温度センサ表示数値 02-12 までが示されるまで“ 内気循環ボタン ”を押してください。
７．“ 内気循環ボタン ”をもう一度押してください。この際、数値 16 とそれに中央換気口フラップのセット具合(開か閉)により、中央換気口フラップの電位差計の電圧とを交互に点滅表示します。例えば、3.5V の電圧は“ 35U ”と表示されます。16-26 にわたるすべての電位差計およびフィードバック電位差計の表示数値が示されるまで“ 内気循環ボタン ”を押してください。ウインドが“ END ”と表示し“ 内気循環ボタン ”が点滅するまで“ 内気循環ボタン ”を押してください。
８．点火を OFF にした上で、それぞれ診断表にしたがって記録された DTC を処理してください。

故障コード表(試験モード B,C)

故障コード	考えられる原因
01	システム内に記憶された欠陥は皆無
02	車内温度センサ(B10/4)回路に短絡
03	車内温度センサ(B10/4)回路開
04	外部温度センサ(B10/5)回路に短絡
05	外部温度センサ(B10/5)回路開
06	蒸発器温度センサ(B10/6)回路に短絡
07	蒸発器温度センサ(B10/6)回路開
08	ヒータ中心部温度センサ(B10/1)回路に短絡
09	ヒータ中心部温度センサ(B10/1)回路開
12	エンジン冷却温センサ(B10/8)回路に短絡
13	エンジン冷却温センサ(B10/8)回路開
16	中央換気口フラップ制御モデュール電位差計回路に短絡
17	中央換気口フラップ制御モデュール電位差計回路開
18	中央換気口フィードバック電位差計回路に短絡
19	中央換気口フィードバック電位差計回路開
20	左換気口フラップ制御モデュール電位差計回路に短絡
21	左換気口フラップ制御モデュール電位差計回路開

故障コード	考えられる原因
22	左換気口フィードバック電位差計回路に短絡
23	左換気口フィードバック電位差計回路開
24	右換気口フラップ制御モデュール電位差計回路に短絡
25	右換気口フラップ制御モデュール電位差計回路開
26	右換気口フィードバック電位差計回路に短絡
27	右換気口フィードバック電位差計回路開
30	補助冷却ポンプ(M13)回路に短絡
31	モノ・バルブ(単バルブ)(Y19)回路に短絡
33	A/C コンプレッサ信号、短絡
34	補助ファン信号の第 2 段階回路に短絡
35	補助ファン信号の第 1 段階回路に短絡
50	バルブ・ブロック信号,短絡
70	補助冷却ポンプ(M13)回路開
73	A/C コンプレッサ信号、回路開
74	補助ファン信号の第 2 段階回路開
75	補助ファン信号の第 1 段階回路開

DTC readout(A/C)
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042
140.043
140.051
140.057
140.070
140.076
140.134

診断試験

この試験は次のような試験モードに分けられます。
A. 各センサー値読み取り
B. DTC 読み取り

診断準備

１．温度選択盤を白い部分に合わせてください。
２．点火 ON
３．左および右の“ AUTO ”ボタンを押してください。
４．少なくとも 20 秒間おいてから、ウインドウ表示が変わるまで“ REST ”を 5 秒以上押してください。
注：DTC 表示試験およびソケット･ボックス･テスタ試験の際に、(例えば、足下のフラップが開かないというような類) DTC の表示が全く見出せないような場合には、バキューム･システム漏れが存在する可能性があります。このような場合には、“ 個別フラップ試験 ”、診断取扱説明書温湿制御、セクション 3.2 を参照してください。
５．DTC 数値１が左のウインドウに、また右のウインドウには瞬間車内温度が、あるいは回路に短絡が存在する場合には HI が、回路が開の場合には LO がそれぞれ表示されます。
６．左側の“ AUTO ”ボタンを押せば、右のウインドウに次の数値が表示されます。(下記の表参照)
７．試験のプログラムを終了するには“ REST ”ボタンを押してください。

参照：診断取扱説明書、温湿制御第１巻、セクション 3.2、自動温湿制御、診断-欠陥コード指示

各センサ値読み取り

注：１．表示ウインドウは実際の温度センサ値、レフリジャラント（冷却剤）圧力量、ブローア制御電圧、ソフトウエア状況、および制御モデュールのバージョン等を連続で表示します。この過程によって各温度センサの許容範囲およびレフリジャラント圧がチェックされます。
２．この試験過程の最中には温度制御は保たれます。

故障コード表

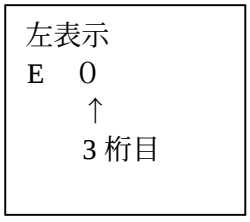
故障コード	考えられる原因
1	アスピレイタ･ブローア（B10/4）付属車内温度センサ
2	外部温度センサ（B10/5）
3	左ヒータ中心部温度センサ（B10/2）[1]
4	右ヒータ中心部温度センサ（B10/3）
5	蒸発器温度センサ（B10/6）
6	冷却温センサ（温湿制御）（B10/8）[1]
7	レフリジャラント圧バー値（06＝6 バー）
8	最低 8－最高 60 のブローア制御電圧
9	ソフトウエア状況、A/C 押しボタン制御モデュール メーカ：ボッシュ；57、58、他　　：カマー；02、03、他
10	左ヒータ中心部温度センサ（B10/9）（後部温湿制御）
11	右ヒータ中心部温度センサ（B10/10）（後部温湿制御）
12	蒸発器温度センサ（B10/11）（後部温湿制御）
13	ソフトウエア状況、後部 A/C 制御ユニット メーカ：ボッシュ；42[2]
16	活性炭素フィルタ、R＝取り付けてある、0＝取り付けてはない

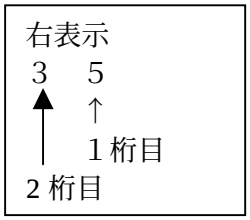
[1] 表示には下二桁のみが示されます。例えば、温度数値 104 ° F（華氏）は 04 ° F と表示されます。
[2] 1992 年 2 月現在

診断-DTC 読み取り

診断準備

１．左温度選択盤を赤の部分に合わせてください。
２．右温度選択盤を青の部分に合わせてください。
３．点火を ON にしてください。
４．“ AUTO ”を押してください。
５．20 秒以内に“ REST ”および 0 を同時に 2 秒間以上押してください。
６．この際ウインドウはメモリに記憶された永久的 DTC を表示します。（以下表参照）
術点を記憶去れた DTC が表示されるまで“ AUTO ”を押してください。この際、各々の DTC が表示されるごとに記録してください。
７．各々の欠陥（短絡、回路開、その他）にはそれぞれ特定の DTC が与えられています。表示コードの３桁目とともに欠陥を表す文字 E が左のウインドウに表示されます。さらに、右のウインドウには２桁目および１桁の数字が表示されます。右側の“ AUTO ”を押せば、メモリに記憶されている次の DTC が表示されます。





８．点火を OFF にして、それぞれの診断表にしたがって、記録された各々の DTC を処理してください。
９．記憶去れた DTC を削除するのには、ステップ１からステップ５までを繰り返し、その上で左側の“ AUTO ”を押してください。削除を意味する文字“ d ”がウインドウに表示されます。
右側の“ AUTO ”を押せば、表示されたコードはメモリから削除されます。すべてのコードがメモリから削除されるまで、左および右側の“ AUTO ”を押しつづけてください。この際、ウインドウは“ E0 00 ”

を表示します。
10. 温度選択盤を正常の位置にセットしなおしてください。
注：車輌が後部 A/C で装備されていれば、再循環スイッチの赤いダイオードが（ボッシュのソフトウエア状況 6.2、またはカマーの 06 におけるように）試験の間中、点滅します。

A/C
押しボタン制御モデュール（N22）には A/C 押しボタン制御パネルにある温度表示ウインウにコード表示を同時に行う DTC メモリが装備されています。この DTC 情報は車輌バッテリ接続が切れてもメモリに残されるようになっています。
DTC の表示は永久的及び断続的欠陥の双方を示します。

故障コード表

故障コード	考えられる原因
E0 01	システム内に欠陥皆無
E0 02	A/C 押しボタン制御モデュール（N22）
E0 03	後部温湿モデュール
E0 06	切替えバルブ･ブロック（Y11）への接続
E0 07	データ交換（CAN B）回路に短絡
E0 08	データ交換（CAN A）回路に短絡
E0 09	データ交換（CAN A および B）回路開
E0 10	欠陥指示表示の繰り返し
E0 11	データ交換（CAN B）回路開
E0 12	データ交換（CAN A）回路開
E0 13	後部温湿制御モデュールへの接続
E0 14	データ交換（CAN B）回路開（後部温湿制御）
E0 15	データ交換（CAN A）回路開（後部温湿制御）
E0 16	アスピレイタ･ブローア付属車内温度センサ（B10/4）回路に短絡 1)
E0 17	アスピレイタ･ブローア付属車内温度センサ（B10/4）回路に短絡 2)
E0 18	アスピレイタ･ブローア付属車内温度センサ（B10/4）回路開 1)
E0 19	アスピレイタ･ブローア付属車内温度センサ（B10/4）回路開 2)
E0 24	左ヒータ中心部温度センサ（B10/2）回路に短絡 1)
E0 25	左ヒータ中心部温度センサ（B10/2）回路に短絡 2)
E0 26	左ヒータ中心部温度センサ（B10/2）回路開か、回路に短絡 1)
E0 27	左ヒータ中心部温度センサ（B10/2）回路開か、回路に短絡 2)
E0 28	右ヒータ中心部温度センサ（B10/3）回路に短絡 1)
E0 29	右ヒータ中心部温度センサ（B10/3）回路に短絡 2)
E0 30	右ヒータ中心部温度センサ（B10/3）回路開か、回路に短絡 1)
E0 31	右ヒータ中心部温度センサ（B10/3）回路開か、回路に短絡 2)
E0 32	外部温度センサ（B10/5）回路に短絡 1)
E0 33	外部温度センサ（B10/5）回路に短絡 2)
E0 34	外部温度センサ（B10/5）回路開か、回路に短絡 1)
E0 35	外部温度センサ（B10/5）回路開か、回路に短絡 2)

1) 永久的欠陥
2) 断続的欠陥

故障コード	考えられる原因
E0 36	蒸発器温度センサ（B10/6）回路に短絡 1)
E0 37	蒸発器温度センサ（B10/6）回路に短絡 2)
E0 38	蒸発器温度センサ（B10/6）回路開か、回路に短絡 1)
E0 39	蒸発器温度センサ（B10/6）回路開か、回路に短絡 2)
E0 40	冷却温センサ（B10/8）回路に短絡 1)
E0 41	A/C システム冷却温センサ（B10/8）回路に短絡 2)
E0 42	A/C システム冷却温センサ（B10/8）回路開か、回路に短絡 1)
E0 43	A/C システム冷却温センサ（B10/8）回路開か、回路に短絡 2)
E0 44	リフリジャラント圧センサ（B12）回路に短絡 1)
E0 45	リフリジャラント圧センサ（B12）回路に短絡 2)
E0 46	リフリジャラント圧センサ（B12）回路開か、回路に短絡 1)
E0 47	リフリジャラント圧センサ（B12）回路開か、回路に短絡 2)
E0 48	左温度選択盤回路に短絡 1)
E0 49	左温度選択盤回路に短絡 2)
E0 50	左温度選択盤回路開か、回路に短絡 1)
E0 51	左温度選択盤回路開か、回路に短絡 2)
E0 52	右温度選択盤回路に短絡 1)
E0 53	右温度選択盤回路に短絡 2)
E0 54	右温度選択盤回路開か、回路に短絡 1)
E0 55	右温度選択盤回路開か、回路に短絡 2)
E0 72	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31m1）回路に短絡 1)
E0 73	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31m1）回路に短絡 2)
E0 74	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31m1）回路開か、回路に短絡 1)
E0 75	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31m1）回路開か、回路に短絡 2)
E0 76	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31m1）過負荷 1)
E0 77	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31m1）過負荷 2)
E0 80	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（組バルブ）（A31y1）回路に短絡 1)
E0 81	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（A31y1）回路に短絡 2)
E0 82	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（A31y1）回路開か、回路に短絡 1)
E0 83	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（A31y1）回路開か、回路に短絡 2)
E0 84	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31y2）回路に短絡 1)
E0 85	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31y2）回路に短絡 2)
E0 86	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31y2）回路開か、回路に短絡 1)
E0 87	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31y2）回路開か、回路に短絡 2)
E0 88	A/C コンプレッサ･グランド・アクディヴェイション 1)
E0 89	A/C コンプレッサ･グランド・アクディヴェイション 2)

1) 永久的欠陥
2) 断続的欠陥

故障コード	考えられる原因
E0 90	A/C コンプレッサ･グランド・アクディヴェイション、回路開か、回路に短絡 1)
E0 91	A/C コンプレッサ･グランド・アクディヴェイション、回路開か、回路に短絡 2)
E0 96	補助ファン、第 1 段階アクティヴェイション、回路に短絡 1)
E0 97	補助ファン、第 1 段階アクティヴェイション、回路に短絡 2)
E0 98	補助ファン、第 1 段階アクティヴェイション、回路開か、回路に短絡 1)
E0 99	補助ファン、第 1 段階アクティヴェイション、回路開か、回路に短絡 2)
E1 00	補助ファン、第 2 段階アクティヴェイション、回路に短絡 1)
E1 01	補助ファン、第 2 段階アクティヴェイション、回路に短絡 2)
E1 02	補助ファン、第 2 段階アクティヴェイション、回路開か、回路に短絡 1)
E1 03	補助ファン、第 2 段階アクティヴェイション、回路開か、回路に短絡 2)
E1 04	補助ファン、第 3 段階アクティヴェイション、回路に短絡 1)
E1 05	補助ファン、第 3 段階アクティヴェイション、回路に短絡 2)
E1 06	補助ファン、第 3 段階アクティヴェイション、回路開か、回路に短絡 1)
E1 07	補助ファン、第 3 段階アクティヴェイション、回路開か、回路に短絡 2)
E1 08	アフター･ラン･ポンプ･リレー（K30)、電圧供給、回路に短絡 1)および 3)
E1 09	アフター･ラン･ポンプ･リレー（K30)、電圧供給、回路に短絡 2) および 3)
E1 10	アフター･ラン･ポンプ･リレー（K30)、電圧供給、回路開か、回路に短絡 1) および 3)
E1 11	アフター･ラン･ポンプ･リレー（K30)、電圧供給、回路開か、回路に短絡 2) および 3)
E1 12	エンジン増速ダイオード･マトリックス（基盤）(V2)、回路に短絡 1)
E1 13	エンジン増速ダイオード･マトリックス（V2)、回路に短絡 2)
E1 14	エンジン増速ダイオード･マトリックス（V2)、回路開か、回路に短絡 1)
E1 15	エンジン増速ダイオード･マトリックス（V2)、回路開か、回路に短絡 2)
E1 16	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）(開)、回路に短絡 1)
E1 17	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）(開)、回路に短絡 2)
D1 18	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）(開)、回路開か、回路に短絡 1)
E1 19	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）(開)、回路開か、回路に短絡 2)
E1 20	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）(閉)、回路に短絡 1)
E1 21	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）(閉)、回路に短絡 2)

1) 永久的欠陥
2) 断続的欠陥
3) 可能性として連続的な欠陥 75、83、87、99 および 103

※　下記表中の DTC は後部温湿制御にのみ適用できます。[3)]

故障コード	考えられる原因
E1 22	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）（閉）、回路開か、回路に短絡 [1)]
E1 23	炭素フィルタ･アクチュエータ（A32m2）（閉）、回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 28	左後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路に短絡 [1)]
E1 29	左後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路に短絡 [2)]
E1 30	左後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路開か、回路に短絡 [1)]
E1 31	左後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 32	右後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路に短絡 [1)]
E1 33	右後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路に短絡 [2)]
E1 34	右後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路開か、回路に短絡 [1)]
E1 35	右後部ヒータ中心部温度センサ（B10/9）回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 36	左温度選択盤回路に短絡 [1)]
E1 37	左温度選択盤回路に短絡 [2)]
E1 38	左温度選択盤回路開か、回路に短絡 [1)]
E1 39	左温度選択盤回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 40	右温度選択盤回路に短絡 [1)]
E1 41	右温度選択盤回路に短絡 [2)]
E1 42	右温度選択盤回路開か、回路に短絡 [1)]
E1 43	右温度選択盤回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 44	後部蒸発器温度センサ（B10/11）回路に短絡 [1)]
E1 45	後部蒸発器温度センサ（B10/11）回路に短絡 [2)]
E1 46	後部蒸発器温度センサ（B10/11）回路開か、回路に短絡 [1)]
E1 47	後部蒸発器温度センサ（B10/11）回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 48	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31/1m1）回路に短絡 [1)]
E1 49	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31/1m1）回路に短絡 [2)]
E1 50	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31/1m1）回路開か、回路に短絡 [1)]
E1 51	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31/1m1）回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 52	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31/1m1）過負荷 [1)]
E1 53	ヒータ供給ユニット循環ポンプ（A31/1m1）過負荷 [2)]
E1 56	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（A31/1y1）回路に短絡 [1)]
E1 57	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（A31/1y1）回路に短絡 [2)]
E1 58	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（A31/1y1）回路開か、回路に短絡 [3)]
E1 59	ヒータ供給ユニット左デュオ･バルブ（A31/1y1）回路開か、回路に短絡 [2)]
E1 60	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31/1y2）回路に短絡 [1)]
E1 61	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31/1y2）回路に短絡 [2)]
E1 62	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31/1y2）回路開か、回路に短絡 [1)]

1) 永久的欠陥
2) 断続的欠陥
3) 試験過程は後日の補完版に掲載されます。

故障コード	考えられる原因
E1 63	ヒータ供給ユニット右デュオ･バルブ（A31/1y2）回路開か、回路に短絡 2)
E1 64	後部リフリジャラント停止バルブ（Y67）回路に短絡 1)
E1 65	後部リフリジャラント停止バルブ（Y67）回路に短絡 2)
E1 66	後部リフリジャラント停止バルブ（Y67）回路開か、回路に短絡 1)
E1 67	後部リフリジャラント停止バルブ（Y67）回路開か、回路に短絡 2)
E1 68	後部タネル（チューブ上の管）･フラップ真空バルブ（Y67/1）回路に短絡 1)
E1 69	後部タネル･フラップ真空バルブ（Y67/1）回路に短絡 2)
E1 70	後部タネル･フラップ真空バルブ（Y67/1）回路開か、回路に短絡 1)
E1 71	後部タネル･フラップ真空バルブ（Y67/1）回路開か、回路に短絡 2)

1) 永久的欠陥
2) 断続的欠陥
3) 試験過程は後日の補完版に掲載されます。

DTC readout(SRS)
Model Year 1988－1989
Model　107.048

インパルス･カウンター試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、そのおのおのに相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を処理してください。
警告：どの部分でも SRS システムの修理を行う前には、赤い 10 ポールの SRS プラグ･コネクタ（X29/9）の接続を外す以前に、バッテリのマイナス端子の接続を必ず最初に外した上で覆ってください。
欠陥メモリ消去法
欠陥処理の後、各々のインパルス指示は下記のようにしてクリアしてください。
９．点火 ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後に始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々表示される欠陥情報はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の指示が消去されればインパルスの読み取りを行っても、もはや欠陥コードはスクリーンには表示されなくなります。
表示される数値が１よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：1988 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126,201
　　グループ 91、インパルス･カウンターによる SRS チェック
　　マイクロフィッチェ整備、エアバッグおよびシートベルト締め具合
　　モデル 107 および 123、グループ 91、整備 91-710“ B ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	制御ユニット（N2/2）
3	SRS-運転座席エアバッグ
5	運転座席ベルト金具
6	助手席ベルト金具
8	電圧供給（回路 15R）
9	警告ランプ（A1e15）に欠陥 [1)]
10	制御ユニット（N2/2）がアクティヴェイトしていた

[1)] インパルス･カウンター･ボタンを（例えば 8 秒以上）不必要に押していますと、警告ランプに欠陥がないにもかかわらず、インパルス９が表示されることがあります。このような場合には、警告ランプが点灯してもインパルス表示９は無視した上で、これを欠陥メモリから消してください。

DTC readout(SRS)
Model Year 1988
Model 124.026 126.024
124.030 126.025
124.050 126.035
124.090 126.039
126.045

インパルス･カウンター試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、そのおのおのに相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を処理してください。
警告：どの部分でも SRS システムの修理を行う前には、赤い 10 ポールの SRS プラグ･コネクタ（X29/9）の接続を外す以前に、バッテリのマイナス端子の接続を必ず最初に外した上で覆ってください。
欠陥メモリ消去法
欠陥処理の後、各々のインパルス指示は下記のようにしてクリアしてください。
９．点火 ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後に始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々表示される欠陥情報はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の指示が消去されればインパルスの読み取りを行っても、もはや欠陥コードはスクリーンには表示されなくなります。
表示される数値が１よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：1988 年モデル取扱説明書、モデル 107,124,126,201
グループ 91、インパルス･カウンターによる SRS チェック
マイクロフィッチェ整備、エアバッグおよび座席ベルト金具
モデル 124,126、グループ 91、整備 91-710“ B ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	制御ユニット（N2/2）
3	運転座席エアバッグ
5	運転座席ベルト金具
6	助手座席ベルト金具
8	電圧供給（回路 15R）
9	警告ランプ（A1e15）に欠陥 1)
10	制御ユニット（N2/2）がアクティヴェイトしていた

1) インパルス･カウンター･ボタンを（例えば 8 秒以上）不必要に押していますと、警告ランプに欠陥がないにもかかわらず、インパルス９が表示されることがあります。このような場合には、警告ランプが点灯してもインパルス表示９は無視した上で、これを欠陥メモリから消してください。

DTC readout(SRS)
Model Year 1988－1993
Model 201.028
201.029
201.126

インパルス･カウンター試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、その各々に相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を処理してください。
警告：どの部分でも SRS システムの修理を行う前には、赤い 10 ポールの SRS プラグ･コネクタ（X29/9）の接続を外す以前に、バッテリのマイナス端子の接続を必ず最初に外した上で覆ってください。
欠陥メモリ消去法
欠陥処理の後、各々のインパルス指示は下記のようにしてクリアしてください。
９．点火 ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後に始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々表示される欠陥情報はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の指示が消去されればインパルスの読み取りを行っても、もはや欠陥コードはスクリーンには表示されなくなります。
表示される数値が１よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：1988 年モデル取扱説明書、モデル 107,124,126,201
グループ 91、インパルス･カウンターによる SRS チェック
マイクロフィッチェ整備、エアバッグおよび座席ベルト金具
モデル 124,126、グループ 91、整備 91-710“ B ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	SRS 制御ユニット（N2/2）
3	運転座席エアバッグ
5	運転座席ベルト金具
6	助手座席ベルト金具
8	電圧供給（回路 15R）
9	警告ランプ（A1e15）に欠陥 [1]
10	SRS 制御モデュール（N2/2）がアクティヴェイトしていた

[1] インパルス･カウンター･ボタンを（例えば 8 秒以上）不必要に押していますと、警告ランプに欠陥がないにもかかわらず、インパルス９が表示されることがあります。このような場合には、警告ランプが点灯してもインパルス表示９は無視した上で、これを欠陥メモリから消してください。

DTC readout(SRS)
Model Year 1989－1993
Model 124.026 124.051
124.032 124.052
124.034[1)] 124.090
124.036[1)] 124.128
124.050 124.230
124.290

インパルス･カウンター試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、その各々に相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を処理してください。
警告：どの部分でも SRS システムの修理を行う前には、赤い 10 ポールの SRS プラグ･コネクタ（X29/9）の接続を外す以前に、バッテリのマイナス端子の接続を必ず最初に外した上で覆ってください。
欠陥メモリ消去法
欠陥処理の後、各々のインパルス指示は下記のようにしてクリアしてください。
９．点火 ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後に始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々表示される欠陥情報はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の指示が消去されればインパルスの読み取りを行っても、もはや欠陥コードはスクリーンには表示されなくなります。
表示される数値が 1 よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：1989 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126,201
グループ 91、インパルス･カウンターによる SRS チェック
マイクロフィッチェ整備、エアバッグおよび座席ベルト金具
モデル 124,126、グループ 91、整備 91-710“ B ” [1)]
取扱説明書、車体および付属装備、第 3 巻
セクション 16.2、エアバッグ、モデル 140、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	SRS 制御モデュール（N2/2）
3	運転座席エアバッグ
4	助手席エアバッグ
5	運転座席ベルト金具
6	助手座席ベルト金具
7	助手席エアバッグ･レジスタ
8	電圧供給
9	警告ランプ（A1e15）に欠陥 [1)]
10	SRS 制御モデュール（N2/2）がアクティヴェイトしていた

[1)] インパルス･カウンター･ボタンを（例えば 8 秒以上）不必要に押していますと、警告ランプに欠陥がないにもかかわらず、インパルス９が表示されることがあります。このような場合には、警告ランプが点灯してもインパルス表示９は無視した上で、これを欠陥メモリから消してください。

DTC readout(SRS)
Model Year 1989－1993
Model 126.024
126.025
126.035
126.039
126.048

インパルス･カウンター試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、そのおのおのに相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を処理してください。
警告：どの部分でも SRS システムの修理を行う前には、赤い 10 ポールの SRS プラグ･コネクタ（X29/9）の接続を外す以前に、バッテリのマイナス端子の接続を必ず最初に外した上で覆ってください。
欠陥メモリ消去法
欠陥処理の後、各々のインパルス指示は下記のようにしてクリアしてください。
９．点火 ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後に始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々表示される欠陥情報はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の指示が消去されればインパルスの読み取りを行っても、もはや欠陥コードはスクリーンには表示されなくなります。
表示される数値が１よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：1989 年モデル取扱説明書初歩、モデル 107,124,126,201
グループ 91、“ G ”、インパルス･カウンターによる SRS チェック
マイクロフィッチェ整備、エアバッグおよび座席ベルト金具
モデル 126、グループ 91、整備 91-710 “ B ”

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	SRS 制御モデュール（N2/2）
3	運転座席エアバッグ
4	助手席エアバッグ
5	運転座席ベルト金具
6	助手座席ベルト金具
7	助手席エアバッグ･レジスタ
8	電圧供給
9	警告ランプ（A1e15）に欠陥 [1)]
10	SRS 制御モデュール（N2/2）がアクティヴェイトしていた

[1)] インパルス･カウンター･ボタンを（例えば 8 秒以上）不必要に押していますと、警告ランプに欠陥がないにもかかわらず、インパルス９が表示されることがあります。このような場合には、警告ランプが点灯してもインパルス表示９は無視した上で、これを欠陥メモリから消してください。

DTC readout(SRS)
Model Year 1990－1993
Model 129.061 129.067[1)]
129.066 129.076[1)]

インパルス･カウンター試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、その各々に相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
８．故障問題処理表および診断試験にしたがって、記録しておいたすべての欠陥(DTC 指示)を処理してください。
警告：どの部分でも SRS システムの修理を行う前には、赤い 10 ポールの SRS プラグ･コネクタ（X29/9）の接続を外す以前に、バッテリのマイナス端子の接続を必ず最初に外した上で覆ってください。
欠陥メモリ消去法
欠陥処理の後、各々のインパルス指示は下記のようにしてクリアしてください。
９．点火 ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後に始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々表示される欠陥情報はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の指示が消去されればインパルスの読み取りを行っても、もはや欠陥コードはスクリーンには表示されなくなります。
表示される数値が１よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：診断取扱説明書、車体および付属装備、第 3 巻
セクション 16.1、エアバッグ、モデル 129、診断-欠陥メモリ
グループ 91、インパルス･カウンターによる SRS チェック
[1)]診断-車体および付属装備、第 3 巻
セクション 16.2、エアバッグ、モデル 140、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	SRS 制御モデュール（N2/2）
3	運転席エアバッグ･スクィブ（R12/3）
4	助手席エアバッグ・スクィブ
5	運転座席ベルト金具（エアバッグ/ETR）（S68/3）
6	助手座席ベルト金具（ETR）（S68/4）
7	助手席エアバッグ･レジスタ
8	電圧供給
9 [1)]	（この際、SRS 警告ランプ A１e15 が光ります） DTC メモリを読み取るのに、インパルス･カウンター･スキャン･ツール･ボタンを押している時間が短すぎるか､DTC コードを消去するには不必要に長い時間押している
10 [2)]	SRS 制御モデュール（N2/2）

1) インパルス･カウンター･ボタンを（例えば 8 秒以上）不必要に押していますと、警告ランプに欠陥がないにもかかわらず、インパルス９が表示されることがあります。このような場合には、警告ランプが点灯してもインパルス表示９は無視した上で、これを欠陥メモリから消してください。

2) インパルス指示の数値 10 は制御ユニット内のエアバッグ発射器がアクティヴェイトされたことを示します。この特定のインパルス指示は消去できません。したがって、この場合には制御ユニット自体を取り替えてください。

DTC readout(SRS)
Model Year 1992－1993
Model 140.032
140.042
140.043
140.051
140.057
140.070
140.076
140.134

インパルス･カウンター試験

１．インパルス･カウンター･スキャン･ツールを接続してください。
注：この際 LED ”U-Batt ”が点灯します。点灯しなければ詳細試験に関して、下記参照を参考にしてください。
２．点火：ON
３．始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押してください。
４．スクリーンに表示される DTC 指示を読み取り、記録してください。
表示数値“１”はシステム何記憶された欠陥が皆無であることを、数値“ １ ”より大きい場合には欠陥が存在することを示します。
５．始動ボタンを再び 2 秒から 4 秒間押してください。システム内にそれ以上の欠陥がなければ、前にスクリーンに表示された DTC が再度現れます。追加的な欠陥が存在すれば、そのおのおのに相応する DTC 指示が表示されます。
６．最初にスクリーンに表示された DTC が繰り返されるまで、ステップ 5 の行程手順を繰り返してください。
７．DTC の読み取りから追加的なすべての欠陥を記録してください。
警告：どの部分でも SRS システムの修理を行う前には、赤い 10 ポールの SRS プラグ･コネクタ（X29/9）の接続を外す以前に、バッテリのマイナス端子の接続を必ず最初に外した上で覆ってください。
欠陥メモリ消去法
欠陥処理の後、各々のインパルス指示は下記のようにしてクリアしてください。
９．点火 ON
10. 始動ボタンを 2 秒から 4 秒間押して欠陥を読み取ってください。その後に始動ボタンを 6 秒から 8 秒間押してください。
注：各々表示される欠陥情報はそれぞれ別個に消去してください。
欠陥が処理され各々の指示が消去されればインパルスの読み取りを行っても、もはや欠陥コードはスクリーンには表示されなくなります。
表示される数値が１よりも大きければシステム内にさらに欠陥が存在することを示しています。

参照：診断取扱説明書、車体および付属装備、第 3 巻
セクション 16.2、モデル 140、診断-欠陥メモリ

故障コード表

故障コード	考えられる原因
1	システム内に欠陥皆無
2	SRS 制御モデュール（N2/2）
3	運転席エアバッグ･スクィブ（R12/3）
4	助手席エアバッグ・スクィブ（R12/8）
5	運転座席ベルト金具（S68/3）
6	助手座席ベルト金具（S68/4）
7	助手席エアバッグ･レジスタ
8	電圧供給
9	SRS 警告ランプ（A1e15）あるいは、DTC メモリ読み取りの、DTC 情報を消去するのに十分な時間が置かれていない
10[1)]	SRS 制御モデュール（N2/2）

1) DTC 指示数値の 10 は制御モデュール内のエアバッグ展開回路がアクティヴェイトしていることを示しています。この場合 DTC の指示は消去できません。したがって制御モデュール自体を取り替えてください。